CLK-Class

取扱説明書

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- CLKクラスには、クーペ（COUPE）と、ソフトトップを装備したカブリオレ（CABRIOLET）があります。

  クーペやカブリオレ独自の装備や記述、クーペとカブリオレで異なる装備や記述については、"（クーペ）"、"（カブリオレ）"のように明示しています。
- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを **（3-50）** のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

表記と記載内容について

警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意　！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

環　境

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

環境保護について

ダイムラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

環　境

ダイムラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

警　告

車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

1.安全のために

2.安全装備

3.運転する前に

4.マルチファンクションディスプレイ

5.運転するとき

6.快適・室内装備

7.万一のとき

8.点検と整備

9.サービスデータ

10.こんなときは

11.さくいん

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

  ◇ エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。

  ◇ 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。

  ◇ 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。

  ◇ 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。

  ◇ 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。

  ◇ キャップの取り外し / 取り付け（**3-52**）は確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。

  ◇ 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。

◇ 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。

◇ 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料を入れすぎると、燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

◇ 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。

◇ 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。

◇ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- リアヘッドレスト後方のスペースに荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用して、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート(2-18)を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置に触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウ、リアサイドウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアサイドウインドウのセーフティスイッチ(3-58)を活用してください。

ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）＊の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。

◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になるおそれがあります。

◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3(許容限度が6,000回転のときは約4,000回転)を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置およびギア位置 3 、 2 、 1 は山道などを低速で走行するときにだけ使用してください。
- できるだけ、走行モードをCモードにして走行してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- CLK 63 AMGは、以下の注意を事項を守ってください。
  - ◇ 走行距離が1,500kmになるまでは走行速度が140km/hを超えないようにしてください。
  - ◇ エンジン回転数が4,500回転を超えた状態で長時間走行しないでください。
- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保して、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

エンジンブレーキ：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進して、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深は約25cmです。
- 波が立たないような速度で走行してください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が侵入するおそれがあります。

雪が降っているとき

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(5-16)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーがP、N以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーがPに入っていることを確認して、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーをD、Rに入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

オートマチック車の取り扱い

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 完全に停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをし、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

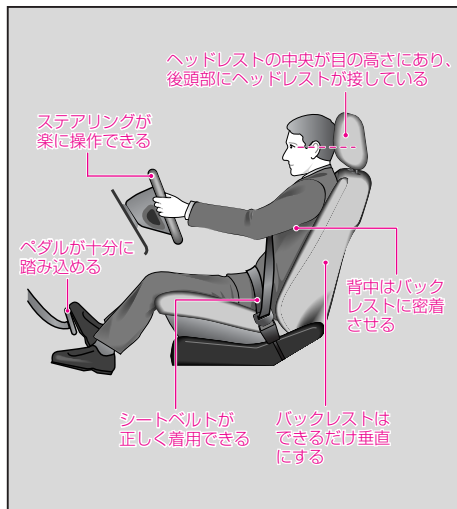
- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 承認されていない燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になるおそれがあります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

警　告

- 運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意 ！

- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

※車種や仕様によりシートの形状などは異なります。

シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置です。

急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。

シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

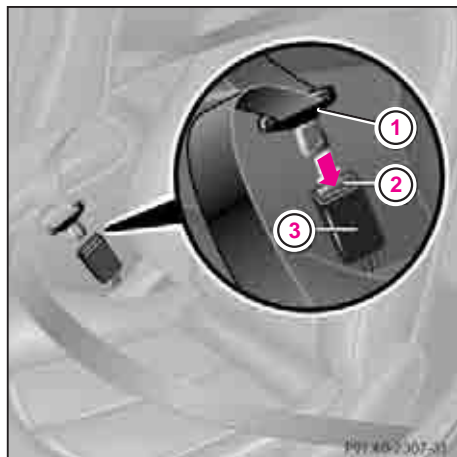
※車種や仕様によりシートの形状などは異なります。

警　告

- すべての乗員がシートベルトを着用してください。シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれていないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの機能が十分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。
  ◇ バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。
  ◇ コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
  ◇ シートに深く腰かけてください。
  ◇ 肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに強い衝撃を受けます。
  ◇ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。
  ◇ シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。
  ◇ 1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
  ◇ シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
  ◇ 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
  ◇ 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
  ◇ 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。

注 意 !

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ ドアやシートレールに挟まない
  - ◇ 鋭利な部分にかけない
  - ◇ ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れた鋭利でこわれやすい物にかけない
  - ◇ たばこの火など、熱いものを近付けない
  - ◇ バックル部分に異物を入れない
  - ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトの着用

① プレート
② 解除ボタン
③ バックル

シートベルトを着用する

- ▶ プレート①を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。
- ▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、プレート①の先端をバックル③に差し込みます。
- ▶ 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。
- ▶ 肩を通るベルトが肩の中央にかかっていることを確認します。

シートベルトを外す

- ▶ 手でプレート①を持ち、バックル③の解除ボタン②を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

注　意　！

分割可倒式リアシート（クーペ）を操作するときは、リアシートベルトを挟み込まないように注意してください。リアシートベルトが挟み込まれると正しく着用できなくなります。

シートベルトフィーダー

① シートベルトフィーダー

ドアを閉じてエンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、シートベルトフィーダー①によりフロントシートベルトが前方に送り出され、シートベルトの着用を容易にします。シートベルトを着用すると、シートベルトフィーダー①は元の位置に戻ります。

シートベルトを着用しないで次のいずれかの操作をしたときも、シートベルトフィーダー①は元の位置に戻ります。

- ドアを開いたとき
- エンジンスイッチを**0**の位置にしたとき
- シートベルトが前方に送り出されてから約60秒以内にシートベルトを着用しなかったとき
- フロントシートのバックレストを前方に倒したとき

警　告

- シートベルトを着用したときは、必ずシートベルトフィーダーが元の位置に戻っていることを確認してください。シートベルトフィーダーが完全に元の位置に戻っていないと、シートベルトの効果が発揮されません。
- シートベルトを着用してもシートベルトフィーダーが元の位置に戻らなかったときは、手で押し込んでください。元の位置に戻せないときは、走行せずに指定サービス工場に連絡してください。

注　意　！

乗降時などには、シートベルトフィーダーに身体や物が当たらないよう注意してください。

シートベルト

知　識

- シートベルトが前方に送り出されているときに障害物などに当たると、シートベルトフィーダーは元の位置に戻ってから再作動します。
- シートベルトフィーダーは、障害物に8回当たると作動しなくなります。再び作動させるには、ドアを開閉してエンジンスイッチを一度**0**の位置にしてから**1**か**2**の位置にします。

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、エンジンスイッチが**2**の位置にあり、シートベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれているときに作動します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席のシートベルトテンショナーは作動しません。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

注　意　！

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- 後席のシートベルトテンショナーは、作動するとバックルが引き込まれます。バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。

  また、バックルをつかまないでください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。

知　識

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウなどを開き換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- シートベルトテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- 助手席に重い荷物などを積んで、シートベルトのプレートをバックルに差し込んでいるときは、助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにエンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約25km/h以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約60秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約25km/h以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

知　識

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

SRSエアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。

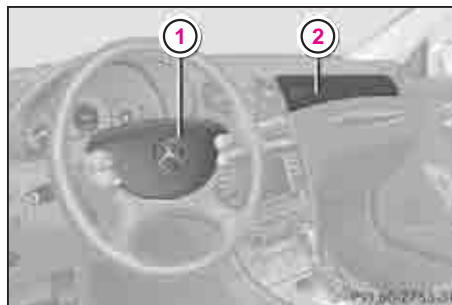
エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。

衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。

衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

知　識

SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部

② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときも、運転席 / 助手席エアバッグは作動することがあります。

運転席 / 助手席エアバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席エアバッグは作動しません。

サイドバッグ

フロント / リアサイドバッグ（クーペ）

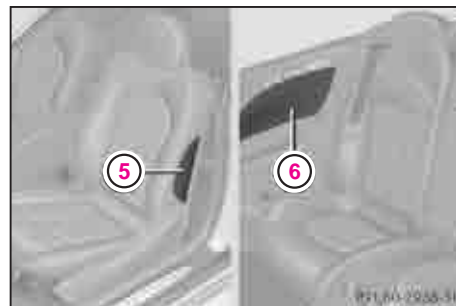
③ フロントサイドバッグ
左右のドアの内張り部
④ リアサイドバッグ
リアシート左右の内張り部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、胸部への衝撃を分散・軽減します。

また、車が横転したときもサイドバッグは作動することがあります。

フロント / リアサイドバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

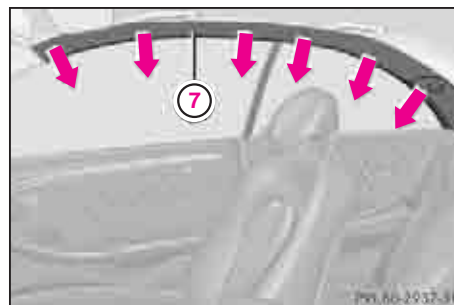
助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席側のフロントサイドバッグは作動しません。

ヘッドソラックスサイドバッグ / リアサイドバッグ（カブリオレ）

⑤ ヘッドソラックスサイドバッグ
フロントシートのバックレスト側面
⑥ リアサイドバッグ
リアシート左右の内張り部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、頭部および胸部への衝撃を分散・軽減します。

ヘッドソラックスサイドバッグ / リアサイドバッグは、シートベルトを着用しているときに作動します。

助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員がいないと判断したときは助手席側のヘッドソラックスサイドバッグは作動しません。

ウインドウバッグ（クーペ）

⑦ ウインドウバッグ
フロントピラーからリアピラー間のルーフライニング部

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を分散・軽減します。

SRS エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときは、警告灯が故障しています。

数秒後またはエンジン始動後に消灯しないとき、エンジンがかかっているときに点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナーの故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

エアバッグが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

警　告

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれがあります。また、不意に作動するおそれもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後方に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ウインドウやドアの内張り部、リアシート左右の内張り部、ピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください（クーペ）。
- ステアリングのパッド部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- フロントシートには市販のシートカバーを使用しないでください。ヘッドソラックスサイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります（カブリオレ）。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- 膝の上にペットや荷物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りやピラー、ウインドウに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。

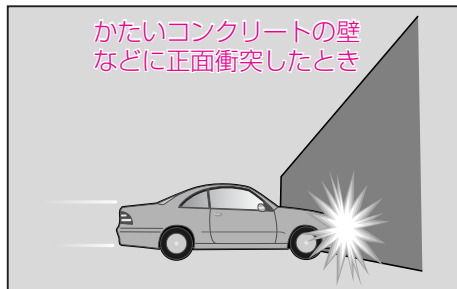
注 意 !

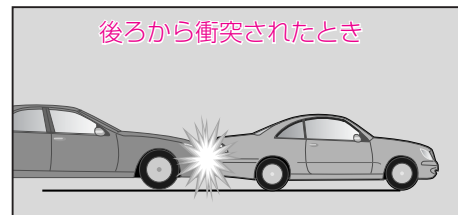
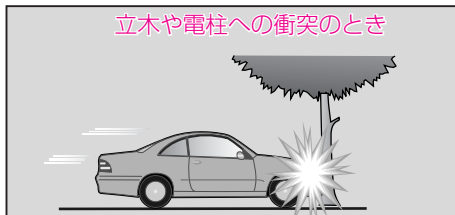
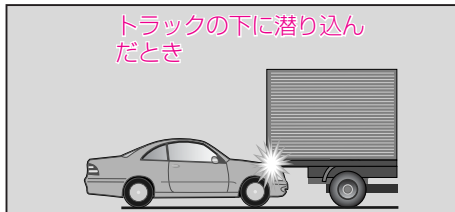
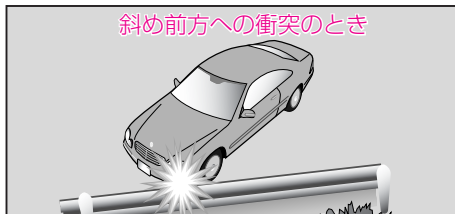
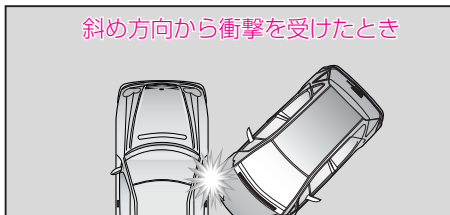
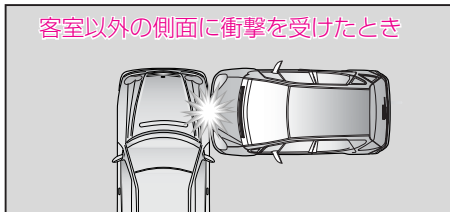
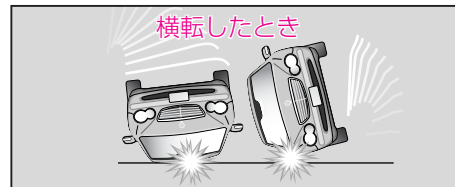
- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

知 識

- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。
- 助手席シートに重い荷物などを積んで、シートベルトをバックルに差し込んでいるときは、助手席エアバッグや助手席側のフロントサイドバッグ（クーペ）またはヘッドソラックスサイドバッグ（カブリオレ）が作動することがあります。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウなどを開き換気を行なってください。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグ（クーペ）が作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグ（クーペ）が作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の人が使用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をお読みください。

警　告

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- 6歳未満の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長150cm未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫して致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実にシートへ装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。
  - ◇ 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
  - ◇ 誤ってドアを開き、事故の原因になるおそれがあります。
  - ◇ 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。
  - ◇ 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

注 意 !

後席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして、シートクッションとバックレストを確実にロックしてください（クーペ）。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー社の純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に装着すると、助手席エアバッグの作動を解除する、センサー付きシート（ベビーセーフ プラス、デュオ プラス、キッド）があります。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフ プラス	約10kg以下	新生児~9カ月位
デュオ プラス	9~18kg	8カ月~4歳位
キッド	15~36kg	3歳半~12歳位

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム（CLK 63 AMG）

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 /受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

警　告

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

必ず以下の点に注意してください。

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートであっても、必ず後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 後ろ向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。助手席エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

注　意！

助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

知　識

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、サイドバッグ、ウインドウバッグ（クーペ）、シートベルトテンショナーの機能は解除されません。
- 純正チャイルドセーフティシートでも、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

① 助手席エアバッグオフ表示灯

チャイルドセーフティシート検知システム装備車は、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着しているときにエンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意　!

チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着していないときや、チャイルドセーフティシート検知システム非装備車は、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、警告灯やシステムの故障です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着するときは、以下の点に注意して正しく使用してください。

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車の場合 (CLK 200 / 350)

- 純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 後ろ向きに装着するタイプの純正チャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。助手席エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。

チャイルドセーフティシート検知システム装備車の場合 (CLK 63 AMG)

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 助手席のシートクッションに、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードやICカードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動して、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれや、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを検知できずに助手席エアバッグが作動するおそれがあります。

ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置

クーペ
① 固定装置

後席の左右に、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定装置①を装備しています。

警　告

- この固定装置は、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。体重22kg以上の子供を乗せるときは、シートベルトでチャイルドセーフティシートを固定してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、指定サービス工場で新品に交換してください。

オートマティックロールバー（カブリオレ）

オートマティックロールバー（カブリオレ）

オートマティックロールバーは、車が大きく傾いたときや衝突時、横転時に瞬時に作動し、乗員を保護する装置です。

- リアヘッドレストを上げているときにオートマティックロールバーが作動すると、リアヘッドレスト内部をオートマティックロールバーが、瞬時に上方に動きます。
- リアヘッドレストを格納しているときは、オートマティックロールバーの作動に連動して、リアヘッドレストも瞬時に上がります。

警　告

- オートマティックロールバーが作動すると、連動してリアヘッドレストも瞬時に上がります。以下のことに注意してください。
  - ◇ 後席に乗車するときは、必ずリアヘッドレストを完全に引き出してください（3-28）。リアヘッドレストを格納していると、瞬時に上がるリアヘッドレストでけがをするおそれがあります。
  - ◇ ペットなどを乗せるときは、ソフトトップを閉じ、リアヘッドレストを引き出してください。
  - ◇ リアヘッドレストの周囲や上方に荷物などを置かないでください。
- オートマティックロールバーが作動しても、シートベルトやチャイルドセーフティシートを使用していないと、事故のとき、致命的なけがをするおそれがあります。
- エンジンがかかっているときにロールバー警告灯が点灯または点滅したときは、オートマティックロールバーを手動で上げてください（2-26）。

知　識

オートマティックロールバーが作動したときは、リアヘッドレストを格納したりソフトトップを開閉することはできません。

作動したオートマティックロールバーを手動で下げるときは（2-28）をご覧ください。

① ロールバー警告灯

ロールバー警告灯

エンジンスイッチを1の位置にすると数秒間点灯します。また2の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときは警告灯が故障しています。

数秒後またはエンジン始動後もロールバー警告灯①が点灯 / 点滅しているとき、またマルチファンクションディスプレイに "ﾛｰﾙﾊﾞｰ ｦ ｻｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!" などと表示されたときは、オートマティックロールバーが故障しているおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

ロールバー警告灯が点灯または点滅したときは、オートマティックロールバーを手動で上げてください（2-26）。車が横転したときなどにオートマティックロールバーが作動せず、重大なけがをするおそれがあります。

オートマティックロールバー（カブリオレ）

オートマティックロールバーの手動操作

オートマティックロールバーは手動で操作することができます。

オートマティックロールバーを手動で上げる

警　告

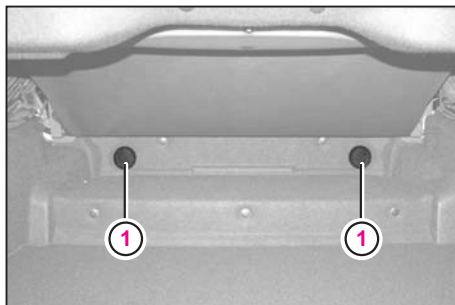
- エンジンがかかっているときにロールバー警告灯が点灯または点滅したときは、ただちに停車してオートマティックロールバーを手動で上げてください。車が横転したときなどにオートマティックロールバーが作動せず、重大なけがをするおそれがあります。
- リアヘッドレストを格納しているときにオートマティックロールバーが上がると、リアヘッドレストも連動して瞬時に上がります。以下の作業をする前に、リアヘッドレストが上がる範囲に乗員やペットなどがいないことを確認してください。けがをするおそれがあります。

▶ ソフトトップを閉じます（6-50）。

注　意 ！

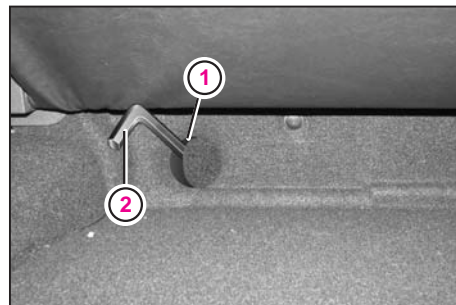
ソフトトップを閉じる操作は、必ずオートマティックロールバーを上げる前に行なってください。オートマティックロールバーが上がると、ソフトトップが閉じなくなります。

▶ ラゲッジカバーを開きます（3-46）。

▶ 車載の六角レンチを用意します。

① 差し込み口

▶ 六角レンチで、トランクルーム前側にある差し込み口①を開きます。

知　識

差し込み口を切り取る必要はありません。

① 差し込み口
② 六角レンチ

▶ 差し込み口①に六角レンチ②を差し込みます。

▶ 六角レンチで底部のボタンを押します。

大きな作動音とともにオートマティックロールバーが上がります。

リアヘッドレストを格納していたときはリアヘッドレストが瞬時に上がります。

▶ もう片方のオートマティックロールバーでも同様の操作を行ないます。

注　意　！

オートマティックロールバーを手動で上げたときも、指定サービス工場でオートマティックロールバーの点検を受けてください。

オートマティックロールバー（カブリオレ）

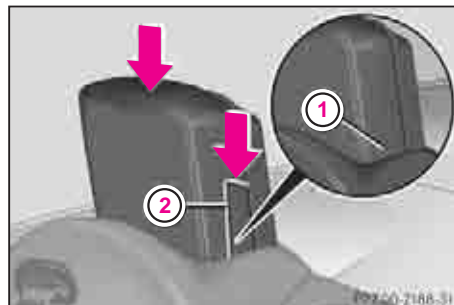
オートマティックロールバーを手動で下げる

注 意 ！

オートマティックロールバーを手動で下げる操作は、ソフトトップが開いているときにだけ行なってください。

ソフトトップが閉じているときは、指定サービス工場でオートマティックロールバーを下げてください。

知 識

オートマティックロールバーが下がっていないときは、リアヘッドレストを格納することはできません。また、ソフトトップの開閉もできません。

① 差し込み穴
② 六角レンチ

▶ 車載の六角レンチ②を用意します。

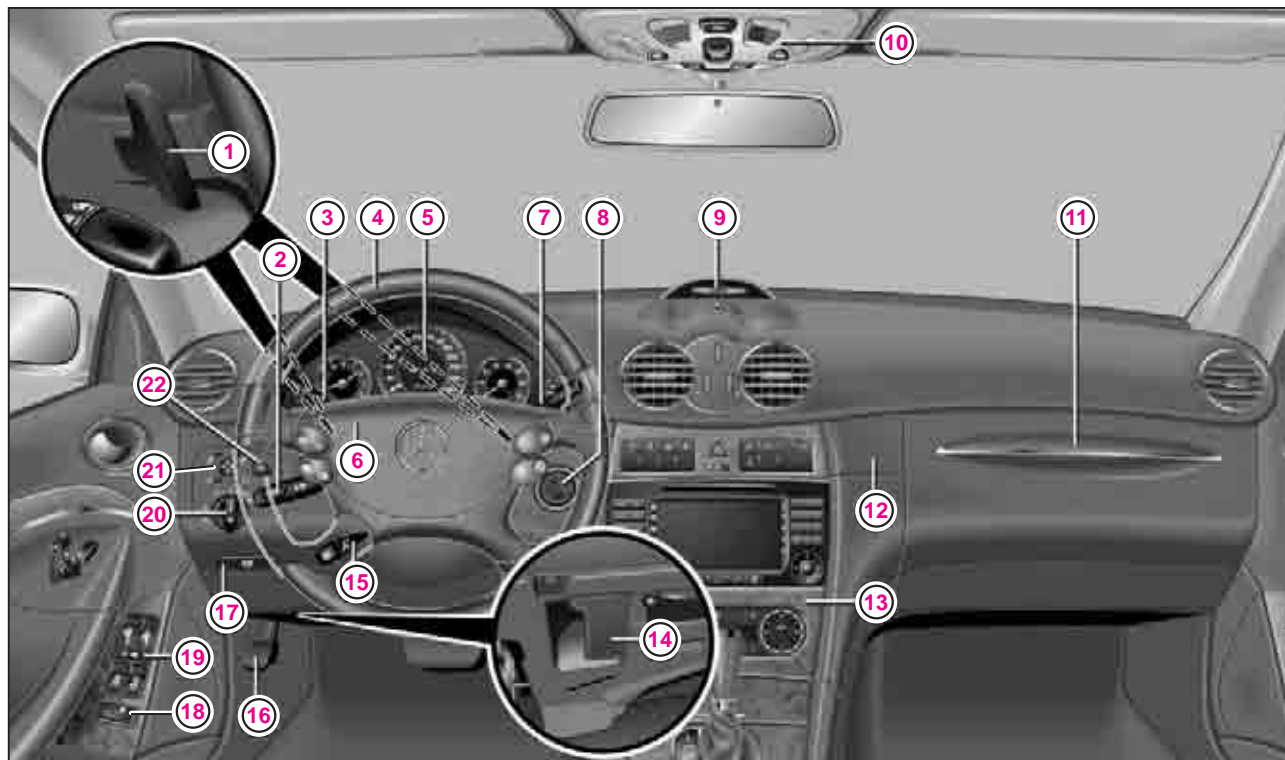
▶ リアヘッドレスト左側面の差し込み穴①に合わせて六角レンチ②を差し込みます。

▶ 底部のボタンを押しながら、ヘッドレストを下げます。

内部のオートマティックロールバーが下がることにより、ヘッドレストも連動して下がります。

▶ もう片方のオートマティックロールバーでも同様の操作を行ないます。

インストルメントパネル

インストルメントパネル

左ハンドル車

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置や形状が実際の車両と異なることがあります。

	名称	ページ
①	パドル＊	5-11、5-14
②	コンビネーションレバー（ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー）	5-25 5-28 5-30
③	クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバー	5-45 5-50
④	ステアリング	3-70
⑤	メーターパネル	3-71
⑥	ホーン / 運転席エアバッグ	2-11
⑦	ボイスコントロールレバー	別冊
⑧	エンジンスイッチ	5-2

	名称	ページ
⑨	パークトロニック＊インジケーター / 作動表示灯	5-55
⑩	ルームランプスイッチ / 読書灯スイッチ / スライディングルーフスイッチ（クーペ）＊	6-31 3-59
⑪	グローブボックス	6-41
⑫	カップホルダー	6-40
⑬	センターコンソール	3-4
⑭	ボンネットロック解除レバー	3-49
⑮	ステアリング調整レバー	3-70
⑯	パーキングブレーキペダル	5-34

	名称	ページ
⑰	パーキングブレーキ解除ハンドル	5-34
⑱	トランクオープナースイッチ	3-40
⑲	パワーウインドウスイッチ / セーフティスイッチ	3-56 3-58
⑳	ランプスイッチ	5-22
㉑	ドアミラー調整スイッチ ドアミラー格納 / 展開スイッチ ドアミラー選択ボタン	3-66 3-67 3-68
㉒	ヘッドランプウォッシャースイッチ	5-33

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

センターコンソール

センターコンソール

	名称	ページ
①	シートヒータースイッチ（左側前席）＊	3-22
②	パークトロニックオフスイッチ＊	5-59
③	リアブラインドスイッチ（クーペ）＊	6-34
④	ESPオフスイッチ	5-43
⑤	非常点滅灯スイッチ	5-29
⑥	ドアロックスイッチ	3-35
⑦	リアヘッドレスト格納スイッチ	3-25 3-28
⑧	盗難防止警報システム表示灯＊	3-54
⑨	シートヒータースイッチ（右側前席）＊	3-22
⑩	助手席エアバッグオフ表示灯	2-21
⑪	マルチファンクションコントローラー	別冊
⑫	エアコンディショナーコントロールパネル	6-3 6-16
⑬	灰皿 ライター	6-35 6-37

警　告

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したとき、助手席エアバッグオフ表示灯⑩が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。詳しくは（2-21）をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

キー

リモコン機能付きのキーが2本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

警　告

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- 重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

注　意　!

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。
- キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、わずかに電力を消費しています。走行しないときは、バッテリー保護のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

知　識

- ２つのキーを見わけるため、キーのストッパー(3-10)の色は異なります。
- 新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。

リモコン機能

① 発信部
② 表示灯
③ 施錠ボタン
④ 解錠ボタン
⑤ トランクオープナーボタン
⑥ エマージェンシーキー

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、トランク、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- トランクを開く
- ドアウインドウとリアサイドウインドウの開閉
- スライディングルーフ（クーペ）＊の開閉
- ソフトトップ（カブリオレ）の開閉
- グローブボックスの解錠 / 施錠（カブリオレ）

操作時に表示灯②が１回点滅します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

解錠する

▶ 解錠ボタン④を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス（カブリオレ）が解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン③を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス（カブリオレ）が施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

トランクを開く

▶ トランクオープナーボタン⑤を押し続けます。

リモコン操作ですべてのドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）を開閉することができます。

詳しくは **(3-11、13)** をご覧ください。

注　意　！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- ソフトトップ開閉時には、身体や物が挟まれないよう十分に注意してください（カブリオレ）。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、ドア、トランク、燃料給油フラップ、グローブボックス（カブリオレ）が確実に施錠されたことを確認してください。
- トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- 貴重品は絶対に車内やトランク内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

知　識

- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。
- トランクが独立施錠（**3-42**）されているときは、リモコン操作でトランクを解錠したり開くことはできません。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

リモコン機能の設定切替

リモコン操作での解錠の作動内容を切り替えることができます。

リモコン機能の設定を切り替える

▶ 施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約6秒間押し続けます。

キーの表示灯②が2回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

◇ 解錠ボタン④を1回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップ、グローブボックス（カブリオレ）が解錠されます。

◇ 続けて約40秒以内に解錠ボタン④を押すと、助手席ドアとトランクが解錠されます。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 再度、施錠ボタン③と解錠ボタン④を同時に約6秒間押し続けます。

キーの表示灯②が2回点滅し、元の設定に戻ります。

知　識

- リモコン操作での解錠後約40秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

  ◇ ドアを開く

  ◇ トランクを開く

  ◇ エンジンスイッチにキーを差し込む

  ◇ ドアロックスイッチ（解錠）を押す

- 車がバッテリーあがりを起こしたときは、リモコンの電池が正常でもリモコン操作での解錠／施錠はできません。
- リモコンの電池が消耗すると操作時に表示灯が点灯せず、リモコン操作ができなくなりますが、エンジンは始動できます。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作で施錠するときにドアミラーも併せて格納することができます。

格納されたドアミラーは、ドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については**（4-39）**をご覧ください。

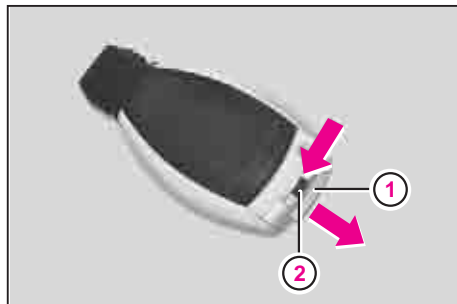
知 識

- ドアを開かなくても、格納されたドアミラーの位置が少し動くことがあります。その場合は、ドアミラー格納 / 展開スイッチ**（3-67）**を押して、展開してください。
- ドアミラー格納 / 展開スイッチ**（3-67）**でドアミラーを格納してから施錠したときは、ドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または約40秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については**（4-31）**をご覧ください。

エマージェンシーキー

① エマージェンシーキー
② ストッパー

キーに収納されています。

フロントアームレストの小物入れを施錠 / 解錠する **(6-39)** ときに使用します。

また、リモコンが作動しない場合に、運転席ドアを解錠 / 施錠 **(3-37、38)** したり、トランクを解錠する **(3-43)** ときや、トランクを独立施錠するときなどに使用します。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

サマーオープニング機能

注　意　！

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやリアサイドウインドウを開くときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

知　識

- リモコン操作をするときは、キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

① 発信部
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときなどは、リモコン操作でドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）を開くことができます。

クーペ

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて解錠ボタン③を押し続けます。

ドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフ＊が開きます。

解錠ボタン③から手を放すと、作動中のドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

カブリオレ

ソフトトップが閉じているとき

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて解錠ボタン③を押し続けます。

ソフトトップが開き、ドアウインドウとリアサイドウインドウが閉じます。

ソフトトップが開いているとき

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて解錠ボタン③を押し続けます。

閉じているドアウインドウとリアサイドウインドウが開きます。

警　告

ソフトトップを開くときは、絶対にソフトトップが作動する部分に触れないでください。身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

知　識

- リアヘッドレストが上がっているときにソフトトップを開くと、リアヘッドレストが下がります。
- ソフトトップを開いているときは、マルチファンクションディスプレイに "ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ｶﾞ ｻﾄﾞｳﾁｭｳﾃﾞｽ" と表示されます。

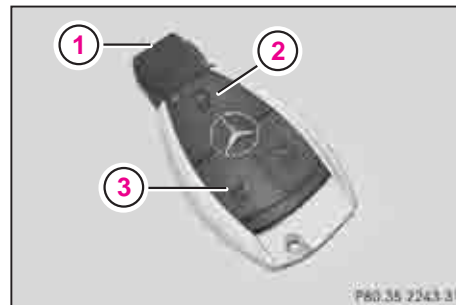
コンビニエンスクロージング機能

注 意 !

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）を閉じているときに身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにボタンから手を放してください。

  作動中のドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ、ソフトトップはその位置で停止します。
- 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフ、ソフトトップが閉じていることを確認してください。

知 識

- リモコン操作をするときは、キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

① 発信部
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

リモコン操作でドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフ、ソフトトップを閉じることができます。

車から降りた後に、ウインドウやスライディングルーフ、ソフトトップを閉じたいときなどに便利です。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

クーペ

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて施錠ボタン②を押し続けます。

ドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフ＊が閉じます。

施錠ボタン②から手を放すと、作動中のドアウインドウとリアサイドウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

カブリオレ

ソフトトップが開いているとき

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて施錠ボタン②を押し続けます。

ソフトトップが閉じ、ドアウインドウとリアサイドウインドウが閉じます。

ソフトトップが閉じているとき

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルに向けて施錠ボタン②を押し続けます。

開いているドアウインドウとリアサイドウインドウが閉じます。

警　告

ソフトトップを閉じるときは、絶対にソフトトップが作動する部分に触れないでください。身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

知　識

- リアヘッドレストが上がっているときにソフトトップを開くと、リアヘッドレストが下がります。
- ソフトトップを開いているときは、マルチファンクションディスプレイに "ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ｶﾞ ｻﾄﾞｳﾁｭｳﾃﾞｽ" と表示されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

電池の交換

リモコンの作動可能距離が短くなったり、キーのボタンを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

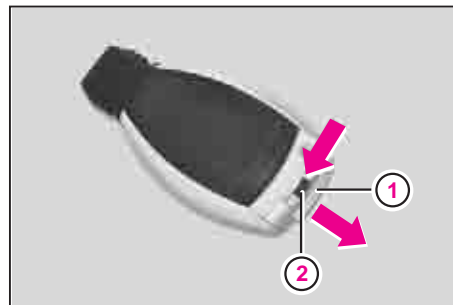
電池の交換は指定サービス工場で行なうことをおすすめします。

警　告

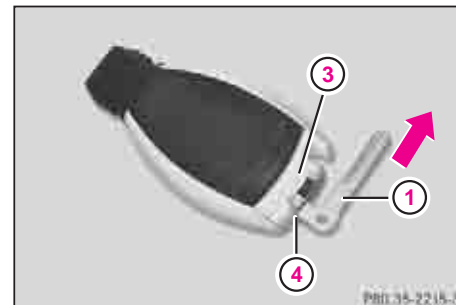
電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

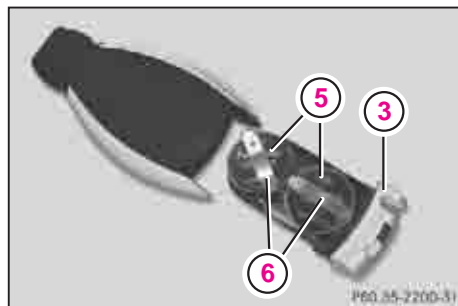
電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

キーのボタンを押したときに、キーの表示灯（3-6）が1回点滅すれば電池は正常です。

① エマージェンシーキー
② ストッパー

電池の交換手順

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜きます。

① エマージェンシーキー
③ 電池ケース
④ 凹部

▶ エマージェンシーキー①を凹部④に差し込み、矢印の方向に引きながら電池ケース③を引き抜きます。

③ 電池ケース
⑤ 電池
⑥ 電極板

▶ 電池⑤を横にスライドさせて取り出します。

▶ 新しい電池と交換します。

2個とも⊕が上になるようにして、電極板⑥の間に取り付けます。

▶ 電池ケース③を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキー①をキーに収納します。

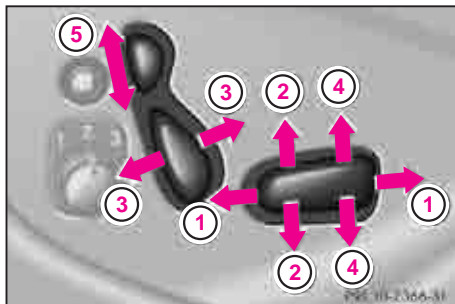
知　識

- リチウム電池（CR2025）を2個使用しています。
- 電池を交換するときは2個同時に交換してください。
- 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

環　境

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分をお願いしてください。

フロントシート

シートの調整

左側ドアのスイッチ

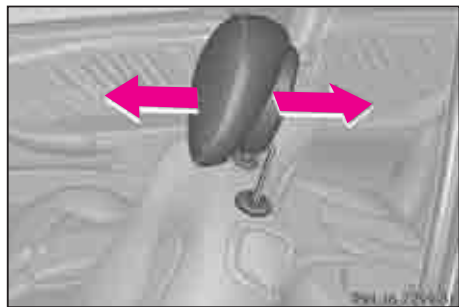
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または調整する側のドアが開いているときに操作できます。

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを①〜⑤の方向に動かして調整します。

警　告

- 運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチに触れるとシートが動き出し、けがをするおそれがあります。

矢印の方向	調整内容
①	シートの前後位置 ヘッドレストの高さも連動して上下します。
②	シートの高さ
③	バックレストの角度
④	シートクッションの角度
⑤	ヘッドレストの高さ ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整します。 シートの前後位置に連動してヘッドレストが上下します。

ヘッドレストの前後位置調整

ヘッドレストの前後位置を調整する

▶ ヘッドレストを持って矢印の方向に動かします。

ヘッドレストが後頭部に接するように調整します。

知　識

ヘッドレストを取り外すことはできません。

注　意！

- シートを調整するときは乗員の身体や物などが挟まれないように注意してください。
- シートの前後位置を調整したときは、ヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。必要に応じてヘッドレストの高さを調整してください。

NECK PROアクティブヘッドレスト

NECK PROアクティブヘッドレストは、追突など万一の事故のときにフロントシートのヘッドレストが前方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持して衝撃を軽減するシステムです。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PROアクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

警　告

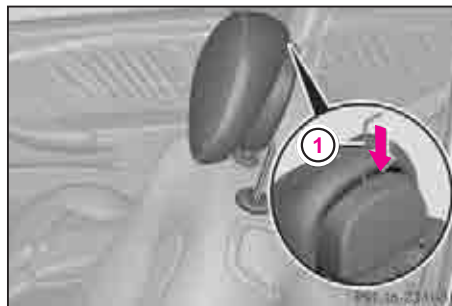
フロントシートに市販のシートカバーを使用しないでください。NECK PROアクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意！

安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、NECK PROアクティブヘッドレストの点検を受けてください。

作動したNECK PROアクティブヘッドレストをリセットする

事故などのときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に後方から衝撃を受けたときにNECK PROアクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このリセット作業は、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

① リセットツール

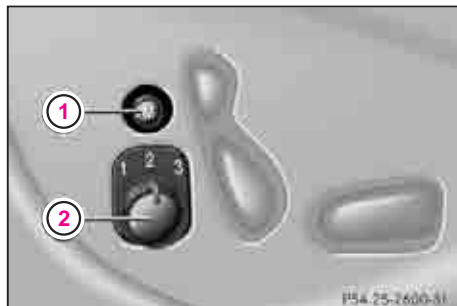
▶ ヘッドレスト上部中央にある穴に、車載のリセットツール①を差し込み、ロックする音が聞こえるまで押し下げます。

▶ リセットツールを抜き、ヘッドレストを後方に強く押し戻して確実にロックさせます。

もう一方のヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

シート位置のメモリー機能

警　告

運転席のシート位置の記憶 / 呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、事故を起こすおそれがあります。

左側ドアのスイッチ
① メモリースイッチ
② ポジションスイッチ

シート位置などをポジションスイッチに記憶させることができます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または記憶 / 呼び出しする側のドアが開いているときに操作できます。

シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置（**3-70**）、ドアミラーの角度（**3-66**）を調整します。

知 識

ドアミラーの角度を調整するときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしてください。

▶ ポジションスイッチ②をまわして、1～3のいずれかの番号に合わせます。

▶ メモリースイッチ①を押します。

▶ 3秒以内にポジションスイッチ②を押します。

そのときのポジションスイッチの番号にシート位置などが記憶されます。

ポジションスイッチの他の番号にも、同様の方法でシート位置などを記憶させることができます。

記憶させたシート位置を呼び出す

▶ ポジションスイッチ②を呼び出したいシート位置などを記憶させた番号（1～3）に合わせます。

▶ ポジションスイッチ②を押し続けます。

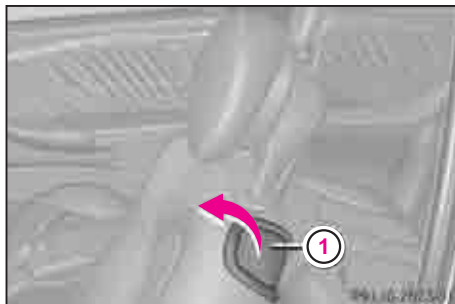
シートなどが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

注 意 !

バックレストを大きく後方に傾けた角度にしているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

知 識

安全のため、ポジションスイッチから手を放すと、シートなどの動きが停止します。

リアシートへの乗り降り

① ロック解除レバー

バックレストを倒す

▶ ロック解除レバー①を引き上げながら、バックレストを少し前方に倒します。

ヘッドレストが自動的に下がります。

▶ ヘッドレストが完全に下がってからバックレストを前方に倒し、シート全体を前方に引き上げます。

注　意　！

ヘッドレストが完全に下がってからバックレストを前方に倒し、シート全体を前方に引き上げてください。ヘッドレストとルーフ内張りが接触し、損傷するおそれがあります。

バックレストを元の位置に戻す

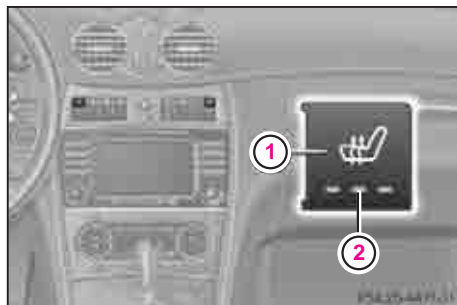
▶ バックレストをロックするまで後方に起こします。

▶ シートを下方に押してロックさせます。

注　意　！

シートを元の位置に戻すときは、乗員の身体や物などが挟まれないように注意してください。

知　識

- エンジンがかかっていてシートが完全にロックされていないときは、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。
- バックレストを元の位置に戻すとヘッドレストも自動的に元の高さに戻ります。
- シートが前後調整範囲の前方にあるときは、バックレストが倒れるだけでシートを前方に引き上げることはできません。
- シートが完全にロックされていないときは、シート調整スイッチ(3-17)でシートを調整することはできません。

シートヒーター＊

① シートヒータースイッチ
② 表示灯

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯②の数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、表示灯②を消灯させます。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約５分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約10分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約20分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

注　意！

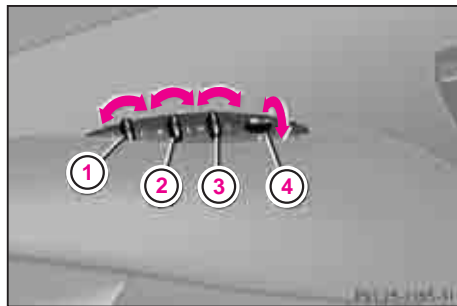
- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。また、シートヒーターを連続して使用しないでください。

  異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。

- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。
  - ◇ 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
  - ◇ 皮膚の弱い方
  - ◇ 疲労の激しい方
  - ◇ 眠気をさそう薬を服用された方
  - ◇ 飲酒した方
- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

知　識

多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

マルチコントロールシートバック＊

左側シートのスイッチ

① シートクッション前部のサポートの調整
② 下部ランバーサポートの調整
③ 上部ランバーサポートの調整
④ バックレスト横方向のサポートの調整

シートのサポートを調整できます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

シートクッション前部のサポートを調整する

▶ スイッチ①を前後に操作します。

ランバーサポートを調整する

腰部の下部および上部のサポートを調整することができます。

▶ スイッチ②(下部)または③(上部)を前後に操作します。

バックレスト横方向のサポートを調整する

▶ スイッチ④を左右に操作します。

知　識

スイッチを操作しても調整できないときは、エアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

リアシート

リアヘッドレスト(クーペ)

警　告

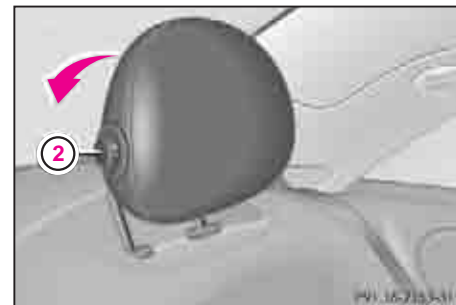
乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けて起こしてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

リアヘッドレストの格納

① ヘッドレスト格納スイッチ

ヘッドレストを格納する

▶ エンジンがかかっているときに、ヘッドレスト格納スイッチ①を押します。

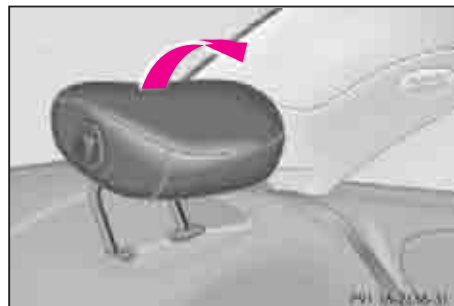
リアヘッドレストが後方に倒れます。

② ロック解除ボタン

または

▶ ロック解除ボタン②を押します。

ヘッドレストが後方に倒れます。

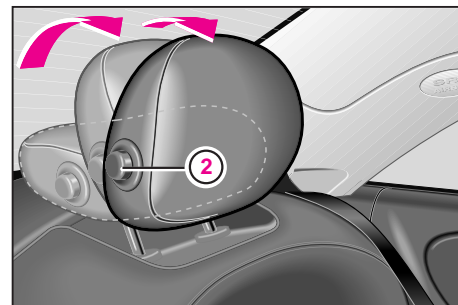
知　識

- いずれか一方のヘッドレストを取り外しているときは、ヘッドレスト格納スイッチで格納できない場合があります。
- ヘッドレスト格納スイッチは、空気圧によりヘッドレストを格納するため、ヘッドレストが同時に格納されないことがあります。

ヘッドレストを起こす

▶ ヘッドレストを手で引き起こしてロックさせます。

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを起こしてロックしてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

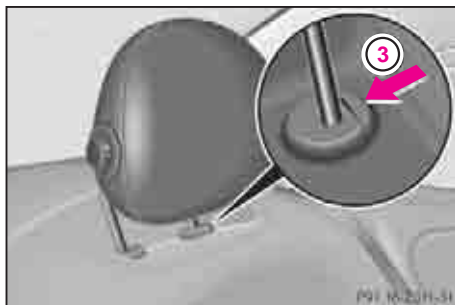
ヘッドレストの角度調整

② ロック解除ボタン

ヘッドレストの角度を2段階に調整することができます。

▶ ロックするまで矢印の方向に引き起こします。

▶ ロック解除ボタン②を押しながら、矢印の方向にもう1段階引き起こすことができます。

ヘッドレストが後頭部に接するように調整してください。

ヘッドレストの高さ調整

③ ロックボタン

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

もっとも低い位置のときは、ロックボタン③を押しながら引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロックボタン③を押しながら、ヘッドレストを下げます。

ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整します。

ヘッドレストの脱着

ヘッドレストを取り外す

▶ トランク内にあるリリースハンドル(3-29)を引き、バックレストのロックを解除します。

▶ ロック解除ボタン②を押して、ヘッドレストを格納します。

▶ リアシートのバックレストを前方に傾けます。

▶ ロックボタン③を押しながら、ヘッドレストを引き抜きます。

ヘッドレストを取り付ける

▶ トランク内にあるリリースハンドル（3-29）を引き、バックレストのロックを解除します。

▶ リアシートのバックレストを前方に傾けます。

▶ 切り欠きのある支柱が左側になるようにして、支柱を取り付け穴に差し込みます。

リアヘッドレスト(カブリオレ)

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを完全に引き出してください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

① ヘッドレスト

ヘッドレストを引き出す

▶ 両手でヘッドレスト①の上部をしっかりつかみ、完全に引き出します。

② ヘッドレスト格納スイッチ

ヘッドレストを格納する

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

▶ ヘッドレスト格納スイッチ②を押します。

リアヘッドレストが下がります。

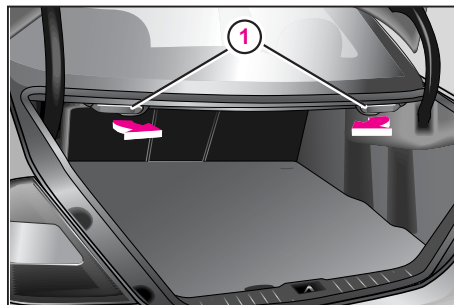
知　識

オートマティックロールバー**(2-24)**が作動したときは、スイッチでヘッドレストを格納することはできません。ヘッドレストを手動で格納するときは**(2-28)**をご覧ください。

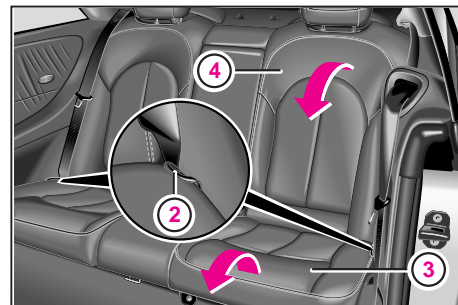
分割可倒式リアシート(クーペ)

リアシートのバックレストの左右いずれか一方、または両方を折りたたむことができます。

警　告

- 重い荷物などを積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキや事故などのときに荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- エンジンをかけた状態で、トランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり中毒死するおそれがあります。

① リリースハンドル

リアシートを折りたたむ

▶ トランク内にあるリリースハンドル①を手前に引いてロックを解除します。

② ハンドル
③ シートクッション
④ バックレスト

▶ フロントシートが後方にあるときや、フロントシートのバックレストが後方に倒れているときは、フロントシートを前方に移動して、バックレストを起こします。

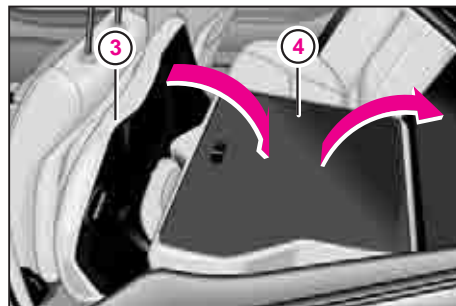
▶ リアシートのヘッドレストをもっとも低い位置にして格納します。

▶ ハンドル②を引き、シートクッション③を前方に引き起こします。

▶ バックレスト④を前方に倒します。

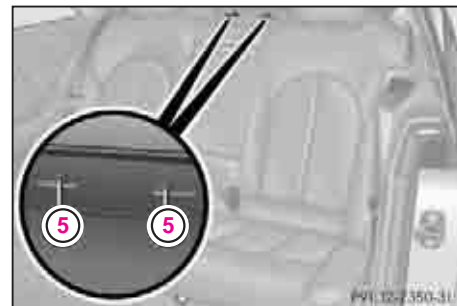
リアシート

注 意 ！

リアシートを折りたたんだ状態でフロントシートを後方に動かしたり、フロントシートのバックレストを後方に倒すときは、リアシートクッションに当たらないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

③ シートクッション
④ バックレスト

リアシートを元に戻す

▶ バックレスト④を元の位置に戻して確実にロックします。

ロックインジケーター⑤が見えなくなっていることを確認します。

⑤ ロックインジケーター

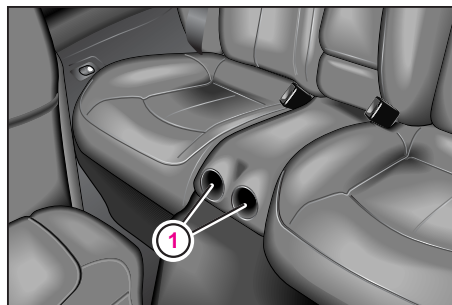
▶ シートクッション③を元の位置に戻して確実にロックします。

警　告

ロックインジケーター⑤が見えているときはバックレストがロックされていません。ロックインジケーターが見えなくなるまでバックレストを確実にロックしてください。事故や急ブレーキ時に、荷物が前方に放り出されてけがをするおそれがあります。

注　意　！

- リアシート中央のトレイ部分に、飲み物が入った容器や重量物、大きな荷物を置かないでください。
- リアシートを元の位置に戻すときは、シートベルトが挟まれないように注意してください。

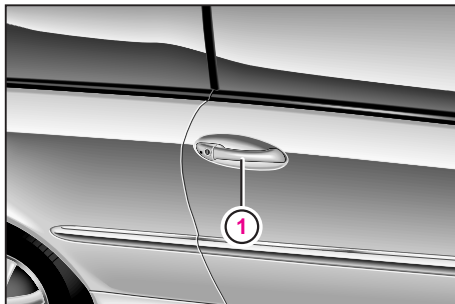
バスモジュール(カブリオレ)

① バスモジュール

リアシートの中央にはバスモジュール（スピーカー）①があります。

注　意　！

バスモジュール①の内部には、指や物を入れないように注意してください。バスモジュールが故障するおそれがあります。

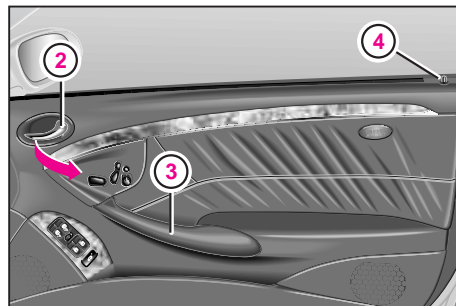
ドア

ドアの開閉

① ドアハンドル

車外から開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

② ドアレバー
③ インナーグリップ
④ ロックノブ

車内から開く

▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ④が上がって解錠され、ドアも開きます。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ③を持って確実に閉じます。

警　告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

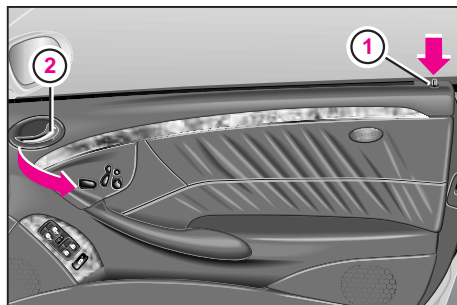
注　意！

- 車から離れるときは、エンジンを停止して、必ずドアを施錠してください。
- ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- ドアウインドウやリアサイドウインドウが凍結していたり、バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアサイドウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを閉じないでください。ドアウインドウやリアサイドウインドウ、シール部を損傷するおそれがあります。

知　識

- ドアウインドウとリアサイドウインドウが全閉のとき、ドアを開くとドアウインドウとリアサイドウインドウが少し下降し、閉じると上昇します。
- 助手席ドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。
- ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（10-6）。
- ドアロックスイッチや車速感応ドアロックなどにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。

ドアごとに解錠 / 施錠する

① ロックノブ
② ドアレバー

解錠する

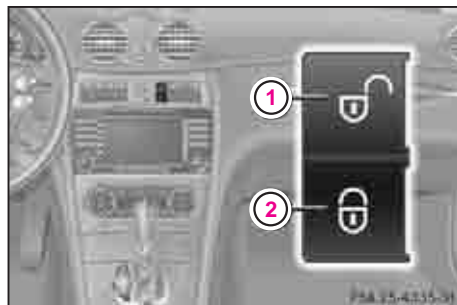
▶ ドアレバー②を矢印の方向に引きます。

ロックノブ①が上がり、ドアが解錠され、開きます。

施錠する

▶ ロックノブ①を矢印の方向に押し込みます。

注　意　!

- 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。
- ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供が乗車しているときは特に注意してください。

ドアロックスイッチ

① 解錠スイッチ
② 施錠スイッチ

車内から、すべてのドアとトランクをスイッチ操作で解錠 / 施錠できます。

解錠する

▶ 解錠スイッチ①を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ②を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

注 意 !

- ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供が乗車しているときは特に注意してください。
- ドアロックスイッチで施錠したときは、各ドアのロックノブ(3-32、34)が完全に下がっていることを確認してください。

知 識

- ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内のドアレバーを引いてドアを開くと、他のドア、トランクも解錠されます。
- ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。
- 運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチを操作すると、助手席ドアとトランクが解錠 / 施錠されます。
- ドアロックスイッチにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、自動的に解錠されます。
- トランクが独立施錠されているときは、ドアロックスイッチで解錠しても、トランクは解錠されません。

車速感応ドアロック

速度が約15km/h以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については（4-36）をご覧ください。

注　意　！

車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、持ち上げるときや、ダイナモメーター上でテストなどを行なうときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

知　識

- 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。
- 車速感応ドアロックにより車が施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、自動的に解錠されます。

イージーエントリー機能

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のときに運転席ドアを開く

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態でエンジンスイッチにキーを差し込む
- エンジンスイッチが**0**の位置のときは、運転席ドアを閉じてから、**1**の位置にする
- エンジンスイッチが**1**の位置のときは、運転席ドアを閉じて、**2**の位置にする

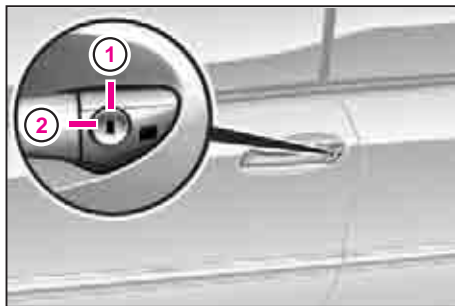
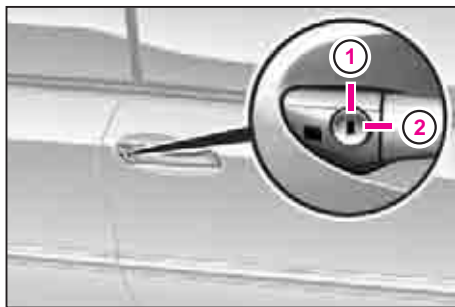
この機能の設定と解除については（4-38）をご覧ください。

警　告

子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってドアを開いたときなどにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

知　識

- イージーエントリーの作動を停止するときは、ステアリング調整レバー（3-70）を操作するか、運転席ドアのポジションスイッチ（3-20）を押してください。
- ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠する

左ハンドル車

右ハンドル車

① エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
② 解錠の位置

リモコン操作ができないときは、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキー(3-10)を差し込み、解錠することができます。

運転席ドアを解錠する

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②(前方)にまわします。

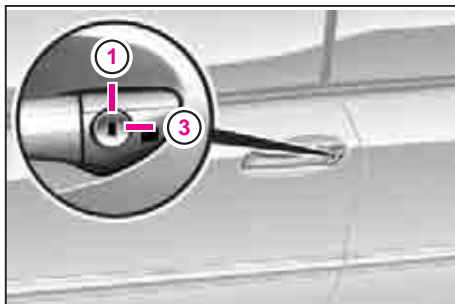
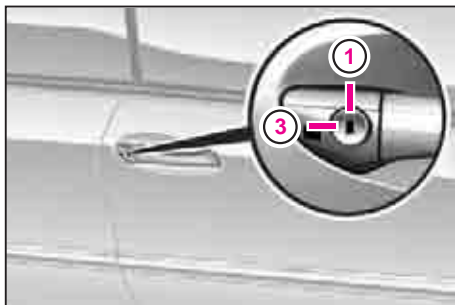
▶ エマージェンシーキーを①の位置にまわして抜きます。

注 意 !

- 盗難防止警報システム装備車は、リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーのいずれかのボタンを押します。
- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠しても、助手席ドア、トランク、燃料給油フラップは解錠 / 施錠されません。

知 識

- エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いたあと、エンジンスイッチにキーを差し込むと、燃料給油フラップが解錠されます。
- 助手席ドアにはキーシリンダーはありません。

非常時の車の施錠

左ハンドル車

右ハンドル車

① エマージェンシーキーを差し込む／抜く位置
③ 施錠の位置

リモコン操作で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

施錠する

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 助手席ドアとトランクを閉じます。

▶ ドアロックスイッチ(施錠)(3-35)を押します。

ドアロックスイッチが作動しないときは、助手席ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 運転席側から車を降り、運転席ドアを閉じます。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのキーシリンダーに差し込み、施錠の位置③(後方)にまわします。

▶ エマージェンシーキーを①の位置にまわして抜きます。

注　意　！

ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、状況によりトランクが施錠されていないことがあります。このときは、トランクを独立施錠してください。

トランク

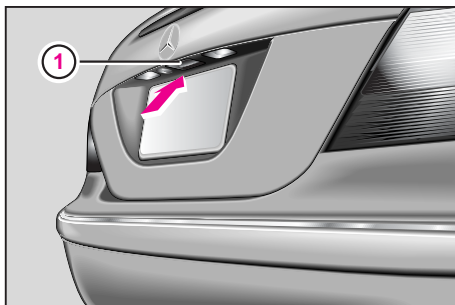
警　告

エンジンをかけた状態で、トランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり中毒死するおそれがあります。

注　意！

- トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、人や物に当たるおそれがないことを確認してください。
- トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- トランクを閉じたときは、確実に閉じていることを確認してください。
- トランクに乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。
- 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。
- 強風のときにトランクを開くと、風にあおられて、トランクが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

  また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。
- トランクが開いているときにリモコン操作で施錠し、トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

トランクを開く

① ハンドル

トランクを開く

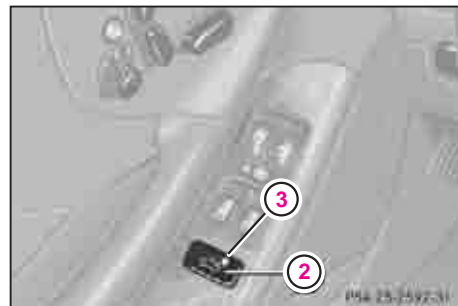
▶ ハンドル①を手前に引きます。

トランクが開きます。

リモコン操作でトランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、キーのトランクオープナーボタン(3-6)を押し続けます。

知 識

車が施錠されているとき、キーのトランクオープナーボタンを押すと、トランクだけが解錠されて開きます。この状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

左ハンドル車

② トランクオープナースイッチ

③ 表示灯

トランクオープナースイッチでトランクを開く

車内からスイッチ操作でトランクを開くことができます。

トランクオープナースイッチ②は運転席ドアにあります。

▶ トランクオープナースイッチ②を押します。

トランクが開きます。

トランクが開いているときはスイッチの表示灯③が点灯します。トランクを閉じると表示灯③も消灯します。

知　識

走行中は、トランクオープナースイッチでトランクを開くことはできません。

トランクを閉じる

① 凹部

トランクを閉じる

▶ 凹部①に手をかけてトランクを引き下げます。

▶ 外側からトランクを軽く押さえます。

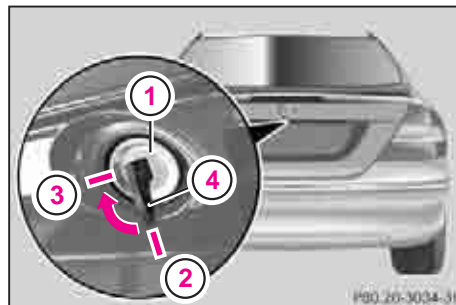
知　識

トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

トランクの独立施錠

トランクを独立して施錠できます。

知　識

駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

① キーシリンダー
② 独立施錠解除位置
③ 独立施錠位置
④ エマージェンシーキー

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキー④（**3-10**）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキー④を独立施錠位置③にまわします。

▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキー④を抜きます。

注　意　！

トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

独立施錠を解除する

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキー④（**3-10**）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキー④を独立施錠解除位置②にまわします。

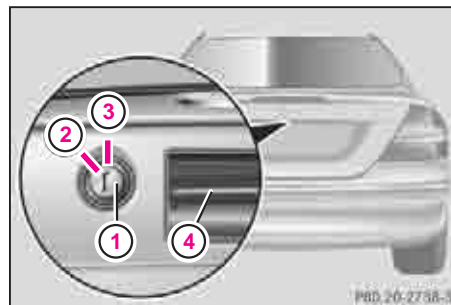
▶ キーシリンダー①からエマージェンシーキー④を抜きます。

トランクランプ

トランクを開くと点灯し、閉じると消灯します。

知　識

トランクを開いたままにすると、トランクランプは約10分後に消灯します。

エマージェンシーキーでのトランクの解錠

① キーシリンダー
② 解錠の位置
③ エマージェンシーキーを差し込む / 抜く位置
④ ハンドル

エマージェンシーキーでトランクを解錠する

リモコン操作でトランクを開いたり、解錠できないときはエマージェンシーキー（3-10）で解錠します。

▶ トランクのキーシリンダー①にエマージェンシーキーを差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置②にまわします。

▶ ハンドル④を引いてトランクを開きます。

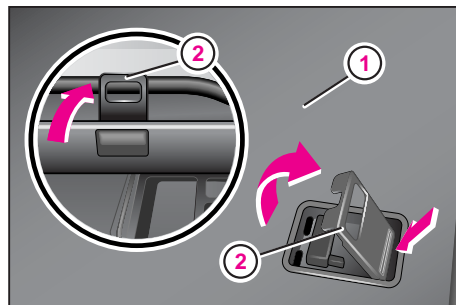
▶ エマージェンシーキーを③の位置にまわして、キーシリンダー①から抜きます。

注　意　!

- 盗難防止警報システム装備車は、エマージェンシーキーでトランクを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーのいずれかのボタンを押します。
- エマージェンシーキーで解錠して開いた後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーをトランク内に放置しているとキーを取り出せなくなります。

知　識

エマージェンシーキーでトランクを解錠しても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

トランクフロアボード下の収納スペース

① トランクフロアボード
② フック

トランクフロアボード①の下には、応急用スペアタイヤ＊や車載工具、ジャッキなどが収納されています。

トランクフロアボードを開く

▶ フック②を矢印の方向に起こしてトランクフロアボード①を持ち上げます。

▶ トランクフロアボード①を支えながら、トランク開口部の上の縁にかけます（円内）。

注　意　!

トランクフロアボードのフックをトランク開口部の縁にかけた状態でトランクを閉じないでください。フックやシール部を損傷します。

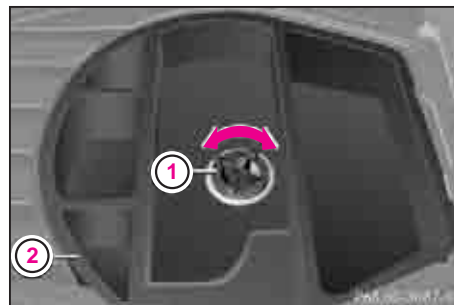
＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

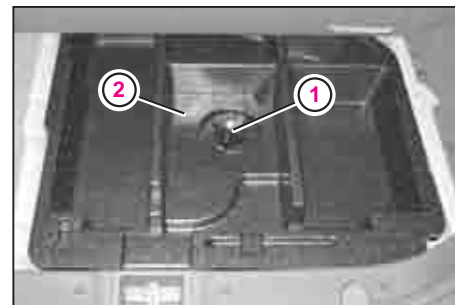
ラゲッジトレイ (CLK 200 / CLK 350)

トランクフロアボードの下にラゲッジトレイがあります。

ラゲッジトレイには、小物を収納することができます。

> **注 意 !**
>
> ラゲッジトレイには重量の軽い物だけを収納してください。ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。

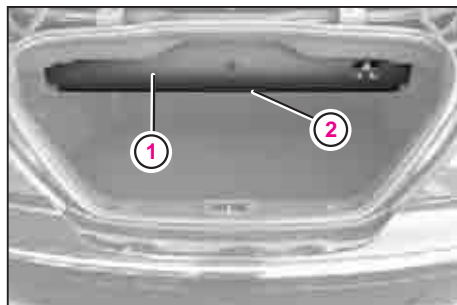
CLK 200 / CLK 350

① 固定スクリュー
② ラゲッジトレイ

CLK 350 CABRIOLET

① 固定スクリュー
② ラゲッジトレイ

ラゲッジトレイを取り出す

▶ 固定スクリュー①を反時計回りにまわして外します。

▶ ラゲッジトレイ②を取り出します。

ラゲッジカバー(カブリオレ)

ラゲッジカバーを閉じている状態
① ラゲッジカバー
② ハンドル

ソフトトップが閉じているときに、ラゲッジカバーを開閉することができます。

ラゲッジカバーを閉じる

▶ ハンドル②を持ってラゲッジカバー①を手前に引き出します。

この状態のときに、ソフトトップを開くことができます。

ラゲッジカバーを開く

▶ ハンドル②を持ってラゲッジカバー①を奥に押します。

この状態のときには、ソフトトップを開くことはできません。

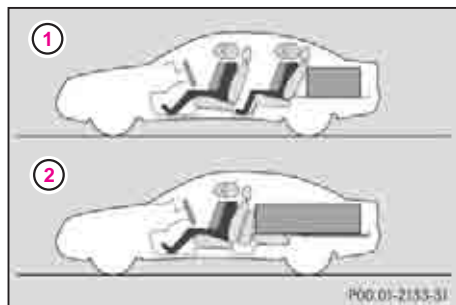
知　識

ラゲッジカバーが確実に閉じていないときにソフトトップを開こうとすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞ ｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!"と表示されます。

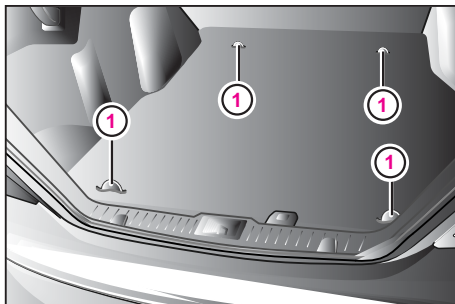
注　意　!

ソフトトップ開閉時にソフトトップや荷物を損傷させないため、以下の点に注意してください。

- 荷物はラゲッジカバーの下に積み、荷物がラゲッジカバーを押し上げていないことを確認してください。
- ラゲッジカバーの上や前側に物を置かないでください。
- トランクルーム内の左右には開口部がありますが、開口部の内側に物が入らないように注意してください。
- 荷物をラゲッジカバーより高く積み上げないでください。

トランクに荷物を積むとき

クーペ
① トランクに荷物を積んだ状態
② リアシートを折りたたんで荷物を積んだ状態

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。荷物はできるだけトランクに積み、以下の点に注意してください。

- 重量が偏らないよう均等に積んでください。
- 重い物は車の中心近く（トランクの前方）に積み、確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、トランク内部を損傷するおそれがあります。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。
- 荷物の重量が、制限重量（9-14）を超えないようにしてください。
- 荷物は後席バックレストまたは前方に倒したシートクッション(クーペ)、前席バックレスト(クーペ)に接するようにしてください。
- 荷物はできるだけ乗車していないシートの後方に積んでください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。

荷物固定用リング（クーペ）

① 荷物固定用リング

荷物固定用リングを使用する

▶ トランクフロアボードのスリットに通して、荷物固定用リング①を使用します。

荷物固定用のアクセサリーは、ダイムラー社の推奨品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意　！

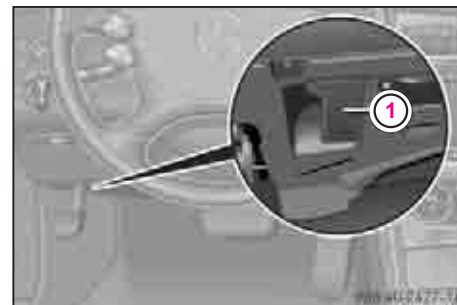
- 4個の荷物固定用リングに均等に力がかかるようにして荷物を固定してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないよう注意してください。荷物固定用リングを損傷するおそれがあります。
- 伸縮率7%以下および耐荷重張力714kg(600daN)以上の擦れに強く丈夫なロープやストラップ、ネットを使用してください。
- 固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 締め付けストラップは、荷物の上で交差するようにかけてください。

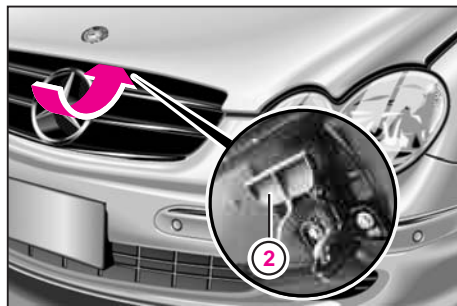
ボンネット

警　告

- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが**2**の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

  イグニッションシステムやキセノンヘッドランプのバルブソケット、配線には、高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

左ハンドル車
① ボンネットロック解除レバー

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

② ロック解除レバー

▶ ボンネットの裏側にあるロック解除レバー②を押し上げながらボンネットを持ち上げます。

注 意 !

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。
- 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

  また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

ボンネットを閉じる

▶ グリル上部から約20cm～30cmの位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

警　告

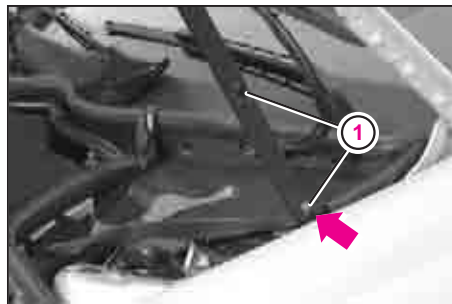
走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

注　意　!

- ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。
- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

知　識

ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ボンネットを垂直に開く

ロック解除ボタンが支柱下部にある状態
① ロック解除ボタン

垂直位置まで開く

▶ 向かって右側にある支柱下部（矢印）のロック解除ボタン①を押しながら、ボンネットを押し上げて垂直の位置にします。

ロック解除ボタン①が支柱上部に移動し、ロックされます。

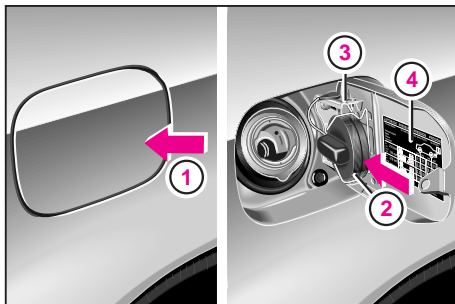
垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを押し上げながら、支柱上部に移動したロック解除ボタン①を押して、ボンネットを閉じます。

知　識

垂直に開いたボンネットは、支柱上部に移動したロック解除ボタンを押さなくても通常の開く位置まで下げることはできますが、その位置から閉じることはできません。

一度、垂直に開き、ロック解除ボタンを押しながら閉じてください。

燃料給油口

（右）キャップをホルダーに差し込んだ状態
① 燃料給油フラップ
② キャップ
③ ホルダー
④ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップを開く

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 燃料給油フラップ①の矢印の部分を押します。

キャップを外す

▶ キャップ②を反時計回りに少しまわして、タンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして、給油口から取り外します。

▶ 外したキャップ②をホルダー③に差し込みます。

キャップを取り付ける

▶ キャップ②を燃料給油口に合わせます。

▶ キャップ②を時計回りにいっぱいまでまわします。

燃料給油フラップを閉じる

▶ 燃料給油フラップ①を押します。

警　告

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

注　意　!

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎると、燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。

  燃料が車の塗装面に付着したときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

知　識

- 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル④が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（8-18）をご覧ください。
- リモコン操作での解錠 / 施錠に連動して、燃料給油フラップも解錠 / 施錠されます。

燃料給油フラップが開かないとき

燃料給油フラップを手動で解錠することはできません。

車が解錠されているときに燃料給油フラップが開かないときは、すみやかに最寄りの指定サービス工場で点検を受けてください。

盗難防止警報システム＊

① 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のときに、ドアやトランクが開けられたりボンネットのロックが解除されると警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で車を施錠します。

表示灯①が点滅し、約10秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

知　識

リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠して開くと、警報が作動します。

注　意　！

- システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしたときは、ボンネットが開けられても警報は作動しません。
- システムが待機状態のときに車内のドアレバーを引いてドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- システムを待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

表示灯①が消灯します。

警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- ドアが開けられたとき
- トランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

警報が作動すると、サイレンが約30秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約2倍の速さで約5分間点滅します。また、ルームランプも約5分間点灯します。

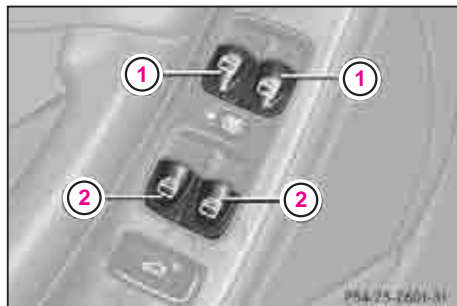
警報が作動したときの解除方法

▶ キーのいずれかのボタンを押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

知　識

ドアやトランクが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

パワーウインドウ

ドアウインドウ / リアサイドウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
① ドアウインドウスイッチ
② リアサイドウインドウスイッチ

パワーウインドウスイッチは各ドアとリアシートクッションの左右脇にあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウとリアサイドウインドウのスイッチがあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、開閉できます。

警　告

- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、リアサイドウインドウのセーフティスイッチ（**3-58**）を使用してください。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

リアサイドウインドウを開く

▶ スイッチを押します。

押している間だけ開きます。

リアサイドウインドウを閉じる

▶ スイッチを引きます。

引いている間だけ閉じます。

注　意　!

- ウインドウを開いているときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームのすき間などに身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。
- ウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを押して、ウインドウを開いてください。
- 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウやリアサイドウインドウが完全に閉じていることを確認してください。
- 子供がリアシートに乗るときなどは、セーフティスイッチを設定してください（3-58）。

知　識

- ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5分間は、ウインドウを開閉することができます。約5分以内にドアを開くと、ウインドウの開閉はできなくなります。
- リアサイドウインドウが全閉のときにドアウインドウを開くと、リアサイドウインドウも少し下降します。ドアウインドウを閉じるとリアサイドウインドウも全閉します。
- 運転席ドアのスイッチで助手席ドアのドアウインドウやリアサイドウインドウを開閉しているときは、運転席ドア以外のスイッチでウインドウを操作することはできません。
- ドアウインドウには挟み込み防止機能があります。ドアウインドウが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止し、その位置から少し下降します。
- 運転席のドアウインドウは、挟み込み防止機能が作動してから約5秒以内に再度閉じたときは、挟み込みを感知しません。
- ドアウインドウの挟み込み防止機能には、挟み込みを感知しない範囲があります。
- ソフトトップスイッチでドアウインドウとリアサイドウインドウを開閉できます（カブリオレ）。詳しくは（6-51）をご覧ください。

セーフティスイッチ

左ハンドル車
① セーフティスイッチ

リアシートクッション脇のスイッチによるリアサイドウインドウの開閉操作ができなくなります。

子供がリアシートに乗車するときなどに使用してください。

セーフティスイッチを設定する

▶ ■が見えるようにセーフティスイッチ①を右側に動かします。

リアシートクッション脇のスイッチからはリアサイドウインドウの操作ができなくなります。

セーフティスイッチを解除する

▶ ■が見えるようにセーフティスイッチ①を左側に動かします。

知　識

セーフティスイッチの位置にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアサイドウインドウを開閉することができます。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたときは、ドアウインドウが自動で開閉できなくなることがあります。

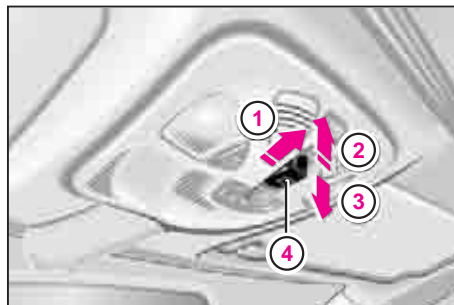
このときは、スイッチを軽く引いて全閉にし、そのまま2秒以上保持してください。この操作を他のドアウインドウでも行なってください。再び、ドアウインドウが自動で開閉できるようになります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

スライディングルーフ（クーペ）＊

警　告

- 乗員全員がシートベルトを着用してください。車が横転したときなどにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。

  また、スライディングルーフのガラスは事故などの際の衝撃で割れることがあります。スライディングルーフが閉じていても、シートベルトを着用していないと、車が横転したときなどに車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディングルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。

① 開く
② チルトアップ
③ 閉じる / チルトダウン
④ スライディングルーフスイッチ

スライディングルーフを開閉する

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

▶ ①の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

①の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

スライディングルーフを閉じる

▶ ③の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

③の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

スライディングルーフ（クーペ）

スライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

スライディングルーフをチルトアップする

▶ ②の方向に軽く押します。

押している間だけチルトアップします。

②の方向にいっぱいまで押すと、自動でチルトアップします。

スライディングルーフをチルトダウンする

▶ ③の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

③の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

注　意　！

- 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。
- スライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフを閉じるときやチルトダウンするときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。
- スライディングルーフに身体などが挟まれそうになったときは、スライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車のときは、ウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- スライディングルーフの開口部から、角の尖ったものを出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。
- 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。
- スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

知　識

- スライディングルーフは車外からリモコン操作で開閉することができます。**(3-11、13)**
- スライディングルーフが自動で開閉またはチルトアップ / チルトダウンしているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。
- スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。スライディングルーフが自動で閉じているときやチルトダウンしているときに挟み込みなどの抵抗があると、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5分間は、スライディングルーフを操作することができます。約5分以内にドアを開くと、スライディングルーフの操作はできなくなります。
- スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウやリアサイドウインドウを少し開くと、解消することがあります。
- スライディングルーフが自動で開閉しないときは、スライディングルーフをリセットしてください**(3-63)**。
- スライディングルーフを開閉できないときは、指定サービス工場におたずねください。

サンシェード

① グリップ
② サンシェード

サンシェードを開閉する

▶ グリップ①を持って開閉します。

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

スライディングルーフ（クーペ）

注 意 ！

サンシェードが開いているときに、サンシェード②とルーフ内張りの間に身体が挟まれないように注意してください。

知 識

スライディングルーフが開いているときは、サンシェードを閉じることはできません。

自動チルトアップ機能

スライディングルーフを開いた状態で、エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約6時間経過したとき

知 識

レインセンサーに雨滴がかからないときは、自動チルトアップ機能は作動しません。

注 意 ！

- 自動チルトアップ機能は、エンジンスイッチが1か2の位置のときやスライディングルーフがチルトアップしているときは作動しません。
- エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約30秒間は、自動チルトアップ機能は作動しません。
- スライディングルーフから身体や物などを出さないでください。自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が作動し、スライディングルーフがただちに停止して、その位置から少し開きます。自動チルトアップ機能は解除されます。
- 濡れたタオルなどでフロントウインドウを拭くと、スライディングルーフが閉じることがあります。

スライディングルーフのリセット

以下のときは、スライディングルーフが自動で全開しないことがあります。スライディングルーフのリセットを行なってください。

- バッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたとき
- スライディングルーフがスムーズに作動しないとき
- スライディングルーフを修理したとき

スライディングルーフをリセットする

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ スイッチを②の方向**（3-59）**に操作して、スライディングルーフを完全にチルトアップし、そのまま約2秒以上保持します。

▶ スライディングルーフが自動で開閉することを確認します。

自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行なってください。

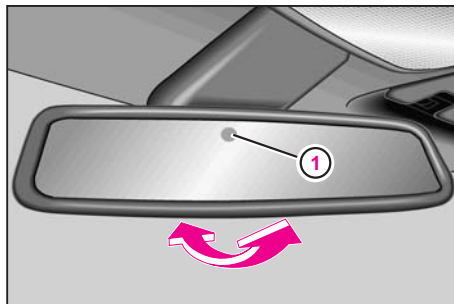
知　識

スライディングルーフのリセットができないときなどは、指定サービス工場で作業を行なってください。

ルームミラー

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーの調整

① センサー

ルームミラーを調整する

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

注　意！

ルームミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずドアミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

自動防眩機能

周囲が暗く、エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、ルームミラーのセンサー①が後続車のライトを受けると、自動的にルームミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

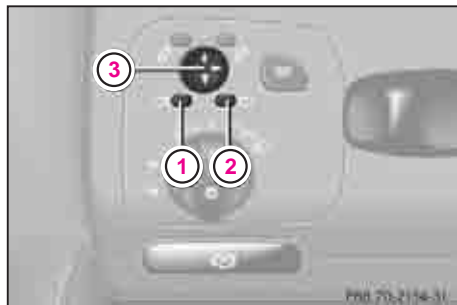
知　識

- ルームミラーのセンサーに後方からのライトが当たらないときは自動防眩機能が作動しないことがあります。
- セレクターレバーが R に入っているときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能が解除されます。
- ルームミラーと連動して運転席側のドアミラーも防眩になります。

注　意　!

- ミラーのガラスが破損すると、液体が漏れ出すことがあります。この液体は物を腐食させる性質がありますので、皮膚や目に直接触れないよう注意してください。
- 万一、液体が目に入ったときや皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 液体が車の塗装面に付着したときは、ただちに水で湿らせた布などで拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- ルームミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーが変色するおそれがあります。
- リアブラインド（クーペ）を展開したときやドラフトストップ（カブリオレ）を装着したときなど、ルームミラーが後続車のライトに照射されない場合は、自動防眩機能は作動しません。リアブラインドやドラフトストップを収納してください。

ドアミラー

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車
① 左側ドアミラー選択ボタン
② 右側ドアミラー選択ボタン
③ 調整スイッチ

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整したい側のドアミラー選択ボタン①または②を押します。

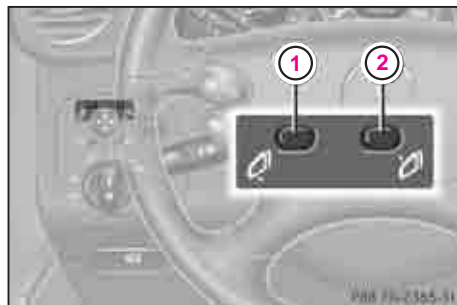
▶ 調整スイッチ③を操作してドアミラーの角度を調整します。

知　識

- ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が下がると自動的に温められ、凍結を防ぎます。
- ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（**3-19**）。
- 運転席側ドアミラーはルームミラーに連動して防眩になります**（3-65）**。
- より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

注　意　！

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。
- ドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ドアミラーが変色するおそれがあります。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車
① 格納スイッチ
② 展開スイッチ

エンジンスイッチが1か2の位置のときに操作できます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納スイッチ①を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 展開スイッチ②を押します。

知 識

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納することができます。詳しくは（3-9）をご覧ください。

注 意 !

- ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行時はドアミラーが完全に展開していることを確認してください。後方視界が確保できなくなるおそれがあります。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

右ハンドル車
① 運転席側ドアミラー選択ボタン
② 助手席側ドアミラー選択ボタン
③ 調整スイッチ
④ メモリースイッチ（運転席ドア）

※ 左ハンドル車はスイッチ類の配列が異なります。

セレクターレバーを R に入れたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶されていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ セレクターレバーを R に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- セレクターレバーを R から他の位置に入れて約10秒経過したとき
- 走行速度が約10km/h以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択ボタン①を押したとき

知　識

運転席側ドアミラー選択ボタン①が押されているときは、助手席側ドアミラーの角度は変わりません。

助手席側ドアミラーの角度の記憶

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択ボタン②を押します。

▶ 調整スイッチ③で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席ドアミラーを調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ④を押し、約3秒以内に調整スイッチ③のいずれかの方向を押します。

このとき、助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度に記憶されます。

知　識

助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

▶ 調整スイッチ③で、走行時の角度に助手席ドアミラーを調整します。

注　意　!

走行する前に、必ずドアミラーの角度を後方が十分確認できるように調整してください。

知　識

助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに、助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

ドアミラーのリセット

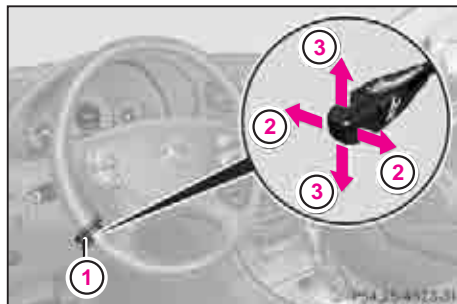
バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納（3-9）が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ エンジンスイッチを**1**の位置にします。

▶ 格納スイッチ（3-67）を押します。

3

ステアリング

ステアリング位置の調整

① ステアリング調整レバー
② 前後位置の調整
③ 上下位置の調整

知 識

ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶させることができます（3-19）。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または運転席ドアが開いているときにステアリングの位置を調整できます。

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー①を②の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバー①を③の方向に操作します。

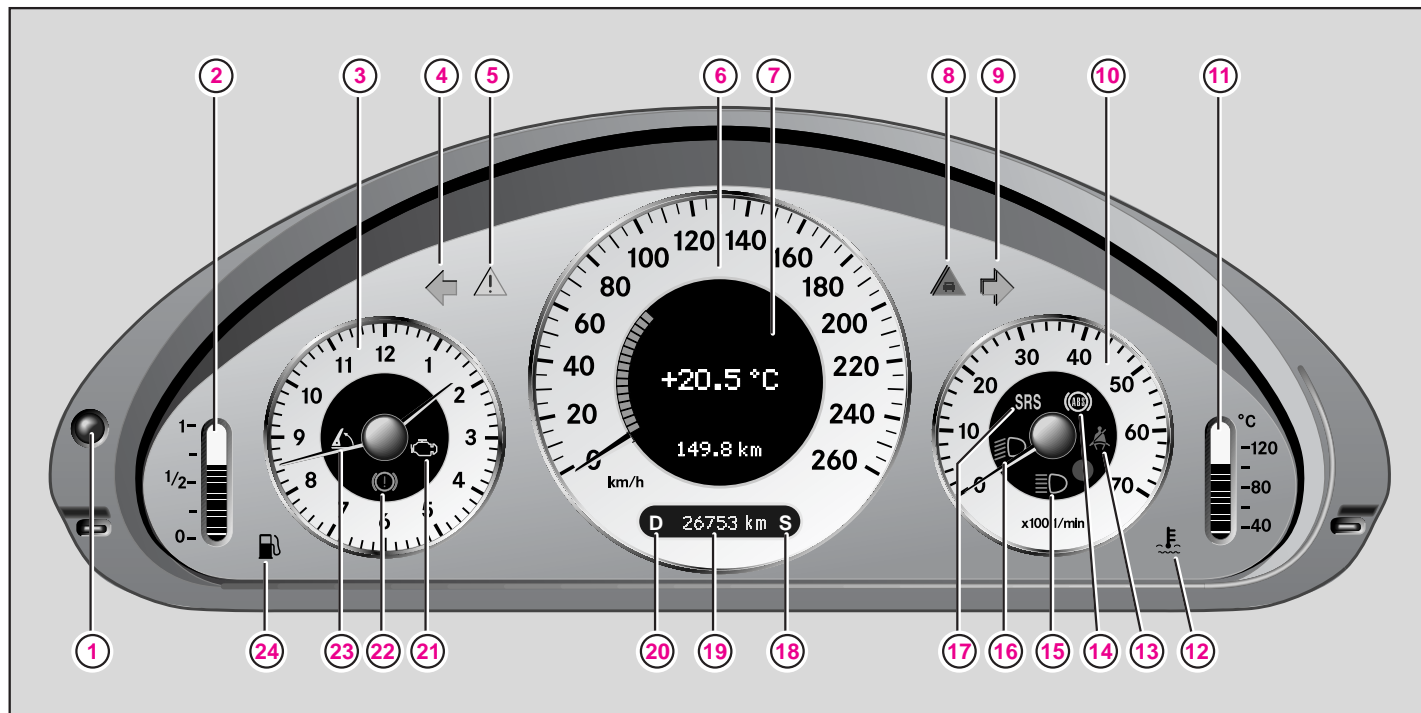
注 意 ！

- ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

警 告

- ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。エンジンスイッチからキーが抜かれていても運転席ドアが開いているときは、誤ってステアリング調整レバーを操作すると、ステアリングが動き、けがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

メーターパネル

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
+20.5 °C
149.8 km
26753 km
D
S
km/h
x100 l/min
SRS

メーターパネル

① メーター照度調節ノブ / リセットボタン

メーターの照度を調整する

メーターパネルが点灯しているときに、明るさを調節できます。

▶ ノブ①を時計回りにまわすと明るくなります。

▶ ノブ①を反時計回りにまわすと暗くなります。

トリップメーターや各種設定などをリセットする

▶ リセットボタン①を押します。

詳しくは（4-5、7、17、25、41、42）をご覧ください。

② 燃料計

燃料の残量をバーグラフで表示します。

燃料タンク容量は約62リットルです。

注　意　!

給油のときはエンジンを停止してください。

③ 時計

時刻は、マルチファンクションコントローラーに連動します。

時刻を調整することはできません。

④⑨ 方向指示表示灯

方向指示灯や非常点滅灯を作動させたときに点滅します。

詳しくは（5-28､29）をご覧ください。

⑤ ESP表示灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

ESPの機能を解除したときに点灯します。

また、ESPが作動したときに点滅します。

詳しくは（5-41）をご覧ください。

知　識

ESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP表示灯が点滅しますがESPは作動しません。

ただし、このときにブレーキを効かせたときは、ESPは自動的に作動します。

⑥ スピードメーター

車の走行速度をkm/hで表示します。

⑦ マルチファンクションディスプレイ

各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約30秒後に消灯）
- リセットボタンを押したとき（約30秒後に消灯）
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき（エンジンスイッチを**0**の位置にするか、キーを抜いてから約30秒後に消灯）
- 車外ランプが点灯しているとき（車外ランプが消灯してから約30秒後に消灯）

詳しくは**（4-1～）**をご覧ください。

⑧

この表示灯 / 警告灯は、他の表示灯 / 警告灯と同様に点灯しますが、日本仕様車には該当しない装備のため、表示灯 / 警告灯としては機能しません。

⑩ タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

注 意 !

指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

知 識

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行われなくなります。

環 境

必要以上にエンジン回転数を上げないように走行してください。燃料を不必要に消費し、大気汚染の原因になります。

⑪ 冷却水温度計

冷却水の温度をバーグラフで表示します。

知 識

- 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約120℃まではオーバーヒートを起こしません。
- 暑い日や上り坂が続くときなどに、120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ**（10-6、9、10）**が表示されない限り、異常ではありません。
- オーバーヒートが起きたときは、冷却水量・冷却水温度警告灯⑫が赤色に点灯します。

⑫ 冷却水量・冷却水温度警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジンがかかっているときに点灯したときは、冷却水量が不足しています。安全な場所に停車してエンジンを停止し、冷却水が冷えてから、冷却水量を点検してください。

冷却水量が不足しているときは、リザーブタンクに冷却水を補給してください**（8-7）**。

警告灯が赤色に点灯し、警告音が鳴ったときは、冷却水温度が約120℃以上になり、オーバーヒートしています。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して冷却してください。

詳しくは、オーバーヒートしたとき**（7-32）**をご覧ください。

⑬ シートベルト警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

詳しくは（**2-10**）をご覧ください。

⑭ ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときはABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動力は確保されますが、ABS、BAS、ESPの機能は解除されます。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

詳しくは（**5-39**）をご覧ください。

注　意　！

ABS警告灯が点灯したときはESP、BASも機能が解除されます。指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

バッテリー電圧が低下するとABS警告灯が点灯し、ABSの機能が解除されます。バッテリー電圧が回復すると警告灯が消え、ABSも機能を回復します。

⑮ ハイビーム表示灯

ヘッドランプを上向きで点灯させたときに点灯します。

⑯ ヘッドランプ表示灯

ヘッドランプを点灯させたときに点灯します。

⑰ エアバッグシステム警告灯

SRS

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

詳しくは**（2-13）**をご覧ください。

⑱ 走行モード表示 / シフトアップマーク＊

オートマチックトランスミッションの走行モードやマニュアルギアシフト＊にしたときのシフトアップマークを表示します**（5-7、15）**。

⑲ オドメーター

これまでに走行した距離の総合計を表示します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

⑳ シフト位置表示
ギアレンジ表示
ギア表示＊

オートマチックトランスミッションのシフト位置を表示します（5-6）。

また、ティップシフト（5-9）にしたときのギアレンジや、マニュアルギアシフト＊（5-12）にしたときのギアを表示します。

㉑ エンジン警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジンがかかっているときに点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知 識

- エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限され、アクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- 燃料切れによりエンジン警告灯が点灯したときは、燃料を補給した後にエンジン始動を3～4回繰り返すと、エマージェンシーモードが解除されます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

㉒ ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

以下のようなときに点灯します。

- ブレーキ液の量が不足しているとき
- パーキングブレーキを解除していないとき（エンジンスイッチが**1**の位置のときも点灯）

注　意　！

- ブレーキ液の量が不足して点灯したときはブレーキシステムに漏れがあることが考えられます。安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。
- パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

㉓ ロールバー警告灯（カブリオレ）

エンジンスイッチを**1**の位置にすると約2秒間点灯します。また**2**の位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときは警告灯が故障しています。

詳しくは **(2-25)** をご覧ください。

㉔ 燃料残量警告灯

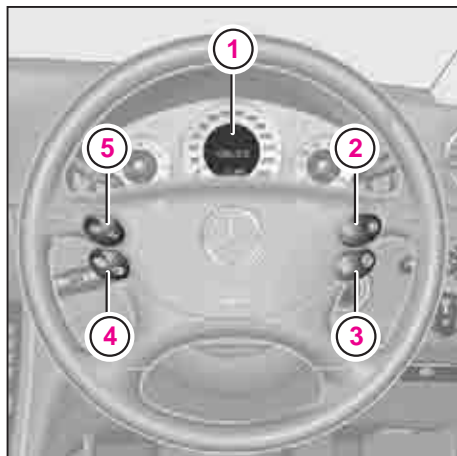
エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは燃料の残量が少なくなっています。

車種	警告灯点灯時の残量
CLK 200 CLK 350	約8リットル
CLK 63 AMG	約12リットル

注　意　！

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

ステアリングスイッチ

	名称
①	マルチファンクション ディスプレイ
②	設定スイッチ / 音量スイッチ 各種設定の設定グループ選択画面でグループを選択します。また、設定項目画面で数値や設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。 各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。 CLK 63 AMGでは、レースタイマーが操作できます **(4-15)**。
③	通話開始 / 終了スイッチ(電話) 電話を受信 / 切断することができます。
④	表示切り替えスイッチ メイン画面を選択します。
⑤	スクロールスイッチ 選択したメイン画面内の各画面を切り替えます。

警　告

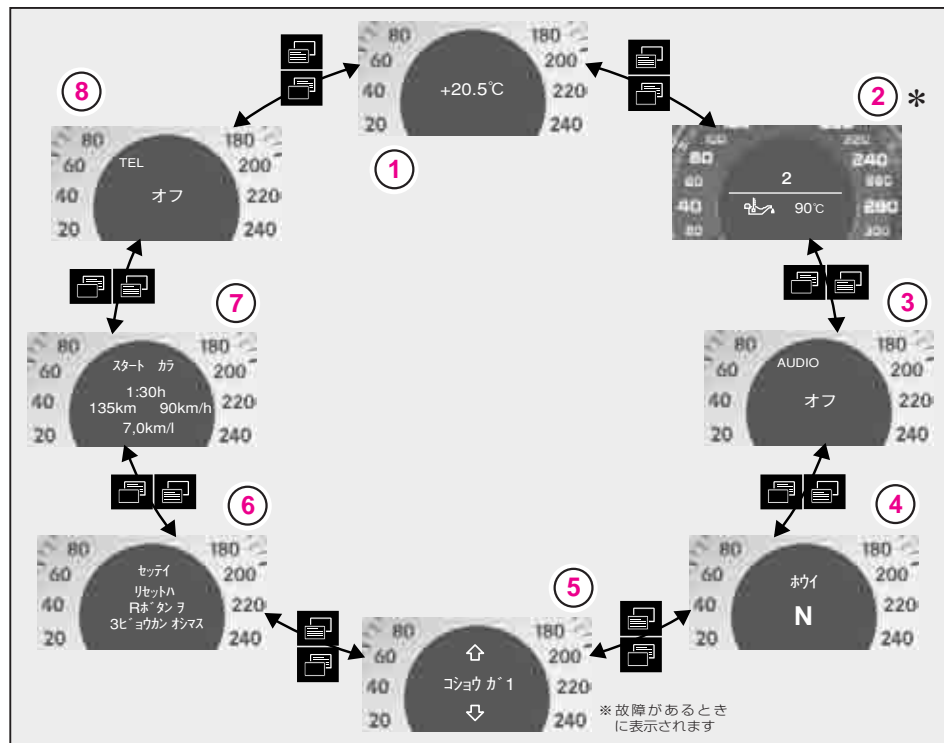
マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

注　意　！

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※ 電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

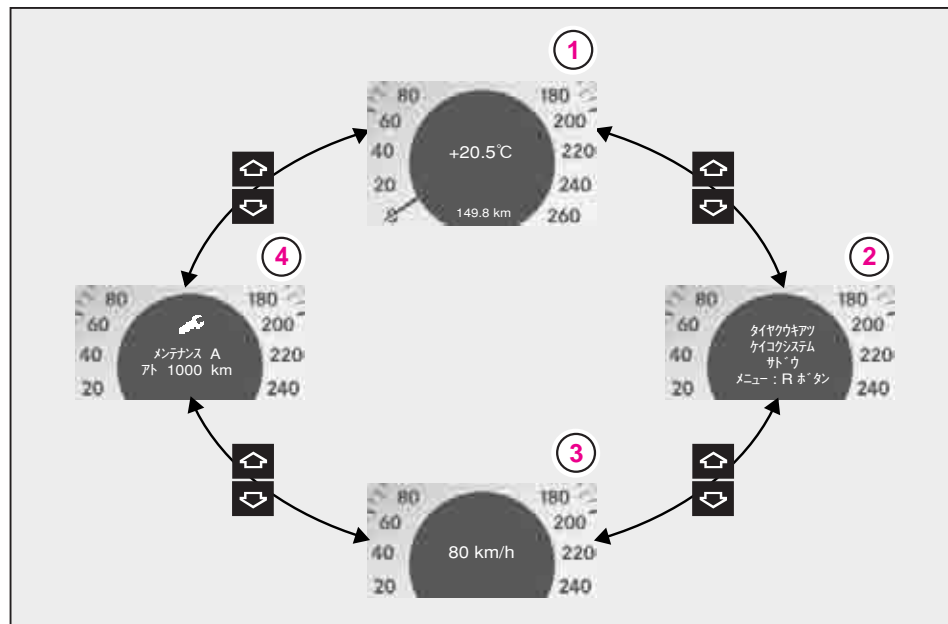
※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メイン画面一覧

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

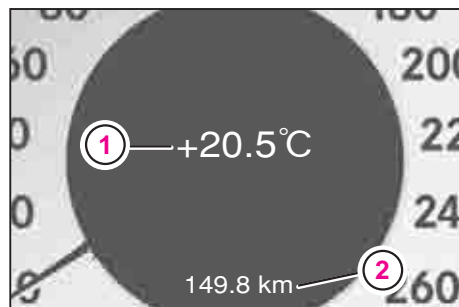
＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示・設定するシステムです。

①	車両情報	4-4
②	AMG表示＊	4-12
③	オーディオ	4-20
④	ナビゲーション・進行方向方位表示	4-20
⑤	故障表示	4-21
⑥	各種設定	4-23
⑦	トリップコンピューター	4-40
⑧	電話	4-44

車両情報

①	車両情報メイン画面（外気温度表示 / 走行速度表示、トリップメーター）	4-5
②	タイヤ空気圧警告システム画面	4-6
③	走行速度 / 外気温度表示画面	4-9
④	メンテナンスインジケーター画面	4-10

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報メイン画面（外気温度表示 / 走行速度表示、トリップメーター）

① 外気温度表示 / 走行速度表示
② トリップメーター

車両情報メイン画面を表示させる

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

外気温度表示 / 走行速度表示

車両情報メイン画面には、外気温度または走行速度が表示されます。

表示の切り替えは各種設定の "メータークラスタ" の "車両情報メイン画面の表示設定画面"（4-28）で行ないます。

トリップメーター

リセット後の走行距離を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0に戻す）

▶ リセットボタン（3-72）を、表示が0.0になるまで押し続けます。

警　告

外気温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

注　意　！

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識

外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイヤ空気圧警告システム画面

4輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で約20km/h以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

警　告

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照して、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、4本のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいタイヤやホイールを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（8-18）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認します。

警　告

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

知　識

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ ﾃﾞ ｻﾄﾞｳ" と表示されたときは、エンジンスイッチを2の位置にしてください。

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます（4-5）。

▶ または を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ: R ﾎﾞﾀﾝ" と表示されます。

▶ リセットボタン（3-72）を押します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ?" と表示されます。

▶ ＋ を押して、"ﾊｲ" を反転表示にします。

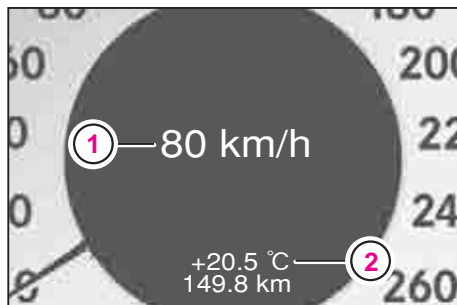
マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

知 識

マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ?" と表示されてから、約15秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行速度 / 外気温度表示画面

① 走行速度 / 外気温度表示
② ディスプレイ下段の表示

走行速度 / 外気温度表示①は、走行速度または外気温度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "メータークラスタ" の "車両情報メイン画面の表示設定画面"**(4-28)**で行ないます。

走行速度 / 外気温度表示画面を表示させる

▶ ［ボタン］または［ボタン］を押して、車両情報メイン画面を表示させせます**(4-5)**。

▶ ［⇧］または［⇩］を押して、走行速度 / 外気温度表示画面を表示させます。

ディスプレイ下段の表示②は、外気温度または走行速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "メータークラスタ" の "ディスプレイ下段の表示設定画面"**(4-28)**で行ないます。

知 識

- マルチファンクションディスプレイの走行速度の表示単位をkm/hまたはmphに切り替えることができます**(4-27)**。
- "ディスプレイ下段の表示設定画面"**(4-28)**の設定によっては、走行速度表示画面または外気温度表示画面を表示させたときに、ディスプレイ下段の表示②は表示されません。

4

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の実施時期が近付くと、エンジンスイッチを**2**の位置にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

表示中に画面を戻すときは、リセットボタンを押します。

メンテナンスインジケーター画面は手動でも表示できます。

手動で表示させる

- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。
- またはを押して、車両情報メイン画面を表示させます (4-5)。
- またはを押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

点検整備実施前の表示例

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ﾆﾁ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ﾆﾁ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX km"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ!"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ｦ ｳｹﾃｸﾀﾞｻｲ!"

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

実施時期を過ぎたときは、以下のようなメッセージが表示され、警告音が鳴ります。

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A XX km ｺｴﾃｲﾏｽ"

"ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B XX km ｺｴﾃｲﾏｽ"

注　意　！

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を指定の時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

知　識

- "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" "ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" は、次回のメーカー指定点検整備の内容を示すもので、どちらが表示されるかは日頃の運転スタイルや走行距離などにより異なります。詳しくは整備手帳をご覧ください。
- メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は一定ではなく、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

  エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

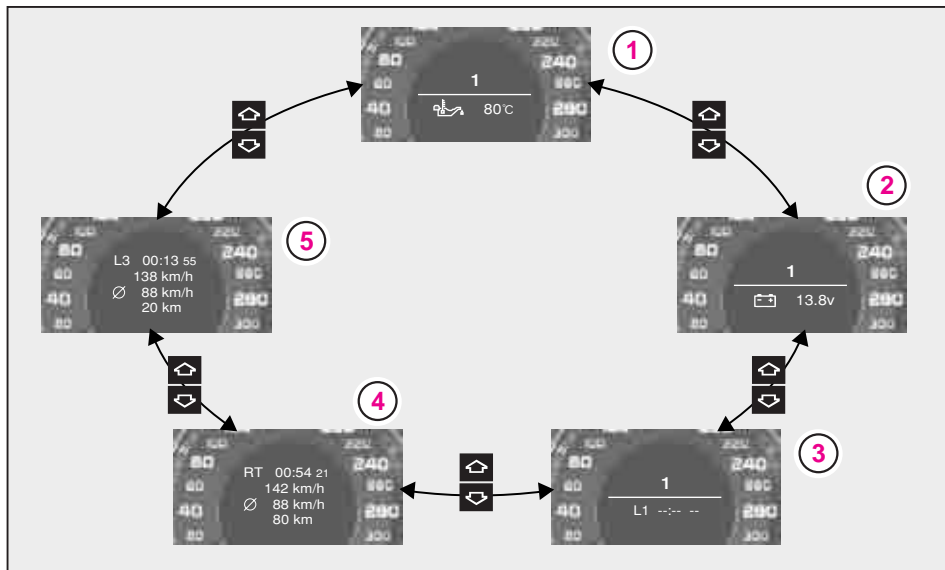
リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

注　意　！

メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

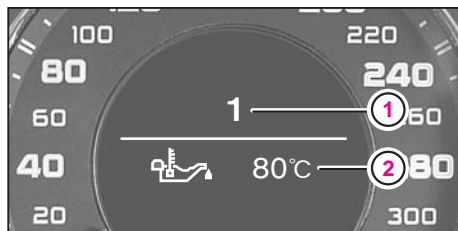
AMG表示

AMG表示＊

①	ギア表示・油温表示画面	4-13
②	ギア表示・電圧表示画面	4-14
③	ギア表示・レースタイマー画面	4-15
④	計測結果表示画面（全ラップ）	4-18
⑤	計測結果表示画面（ラップ別）	4-19

※ AMG表示は、CLK 63 AMGのみ表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ギア表示・油温表示画面

① ギア表示
② 油温表示

ギア表示・油温表示画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます。

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

油温表示②は、エンジンオイルの油温を表示します。

注 意 ！

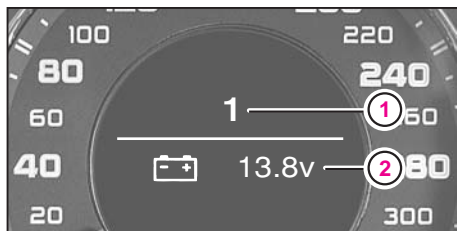
油温表示画面のマークが点滅しているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約80℃未満になっています）。このときはエンジン回転数を必要以上に上げないように運転してください。

知 識

エンジンスイッチが**1**の位置のときは、油温は表示できません。このときは "---℃" が表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

AMG表示

ギア表示・電圧表示画面

① ギア表示
② 電圧表示

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

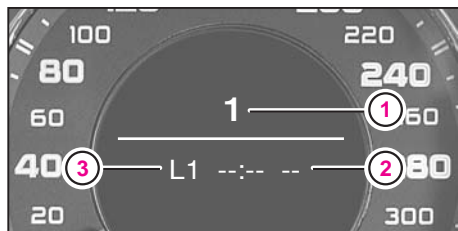
電圧表示②は、バッテリーの電圧を表示します。

ギア表示・電圧表示画面を表示させる

▶ またはを押して、ギア表示・油温表示画面を表示させせます(4-13)。

▶ またはを押して、ギア表示・電圧表示画面を表示させせます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ギア表示・レースタイマー画面

① ギア表示
② 計測タイム
③ ラップ表示

ギア表示・レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

レースタイマーは、エンジンスイッチが**2**の位置のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

ギア表示・レースタイマー画面を表示させる

▶ またはを押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます(4-13)。

▶ またはを押して、ギア表示・レースタイマー画面を表示させます。

知　識

- 計測タイムは1秒単位で表示されます。
- ギア表示・レースタイマー画面を表示させているときは、またはを押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイム計測を開始する

▶ ＋を押します。

タイム計測が開始されます。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に＋を押します。

タイム計測が停止します。

知　識

- タイム計測を停止しているときに＋を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。
- タイム計測中に、停車してエンジンスイッチを**1**の位置にすると、タイム計測が停止します。

  その後、エンジンスイッチを**2**の位置にするかエンジンを始動して＋を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に－を押します。

スプリットタイムが約5秒間表示されます。

約5秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

知　識

スプリットタイムを表示しているときに再度－を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます（**4-17**）。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに－を押します。

計測タイムが消去され、表示が00:00₀₀に戻ります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップタイムを記録する

① ギア表示
② 計測タイム
③ 最速ラップタイム
④ ラップ数

最大9件までの計測タイムをラップタイムとして記録することができます。

▶ タイム計測中に − を押します。

スプリットタイムが約5秒間表示されます。

知　識

このときから、次のラップタイムの計測が開始されます。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 − を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップタイムが表示されます。

知　識

- ラップタイムが記録されているときは、計測タイム②の下に最速ラップタイム③が表示されます。
- ラップタイムが9件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムを消去してください。

記録したラップタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに、リセットボタン（3-72）を2回押します。

記録したすべてのラップタイムが消去され、表示が00:0000に戻ります。

知　識

- 記録したラップタイムを個別に消去することはできません。
- エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約30秒経過すると、計測タイムとラップタイムは消去されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）

① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの総走行距離
④ 計測した全ラップの平均速度

2周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測後に計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（4-13）。

▶ [▲]または[▼]を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を表示させます。

知 識

タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）

① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップの走行距離
⑤ 表示されているラップの平均速度

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測後にラップごとの計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（4-13）。

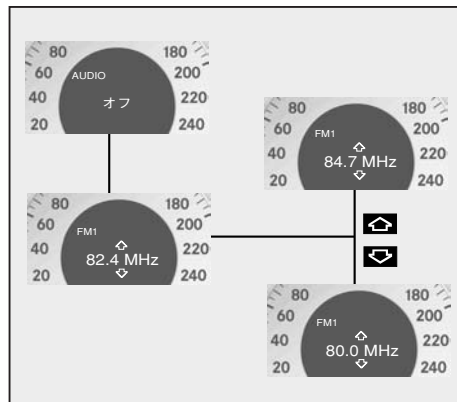
▶ [▲]または[▼]を押して、表示させたいラップの計測結果表示画面を選択します。

知　識

- 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。
- タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オーディオ / ナビゲーション・進行方向方位表示

オーディオ

オーディオの使用時にそれぞれの情報を表示します。

オーディオのメイン画面を表示させる

▶ または を押して、オーディオのメイン画面を表示させます。

オーディオのメイン画面表示中に、 または を押すと、ラジオやテレビの選局、CDの選曲などができます。

音量調節

▶ ＋ または － を押すと、音量を調節できます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

ナビゲーション・進行方向方位表示

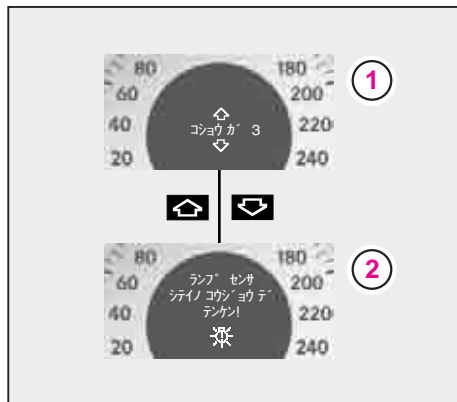
マルチファンクションコントローラーのナビゲーション機能でルート案内をしているときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示することができます。

ルート案内を行なっていないときは、画面に進行方向の方位が表示されます。

ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させる

▶ または を押して、ナビゲーション・進行方向方位表示画面を表示させます。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障表示

①	故障件数画面 (この例では、3件故障があります)
②	故障メッセージ画面の例

故障や異常が発生したとき、車の状況をメッセージで表示します。

知　識

故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングのやまたはリセットボタンを押すと、故障メッセージが消えます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

故障メッセージを確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示できます。

▶ [button]または[button]を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [up button]または[down button]を押して、故障メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

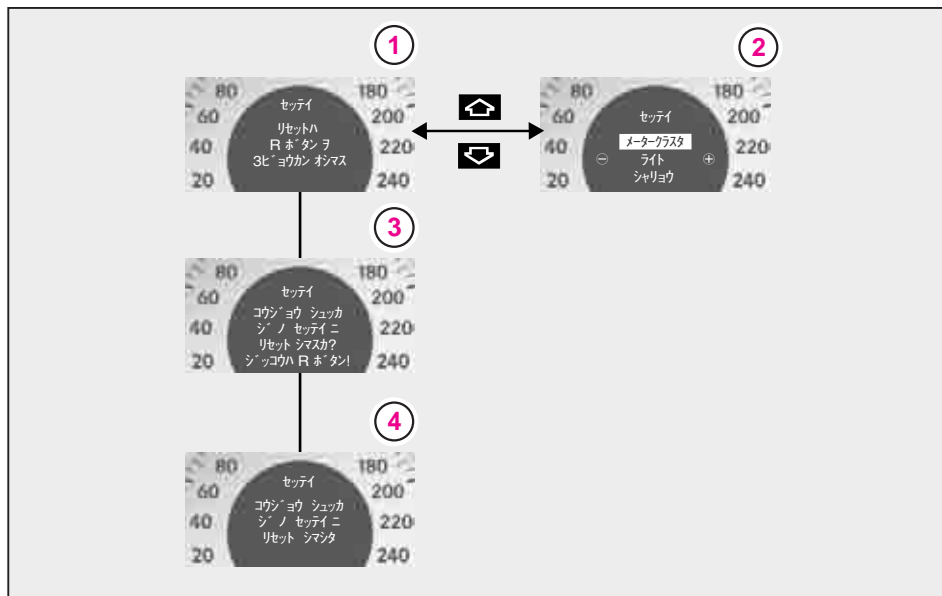
故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、エンジンスイッチを0の位置にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンスイッチを1か2の位置にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

注　意　！

- 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障メッセージについては（10-3〜）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

①	各種設定メイン画面	4-24
②	設定グループ選択画面	4-24
③	各種設定項目の初期化画面	4-25
④	各種設定項目の初期化完了画面	4-25

注 意 !

走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定メイン画面

各種設定メイン画面を表示させる

▶ またはを押して、各種設定メイン画面を表示させます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中にを押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ またはを押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定項目画面を選択する

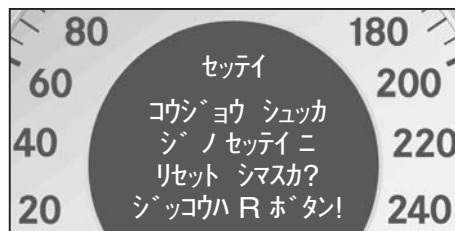
選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ [上ボタン]または[下ボタン]を押して、設定項目画面を選択します。

設定項目を選択する
機能のオン / オフを選択する

▶ [＋]または[－]を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

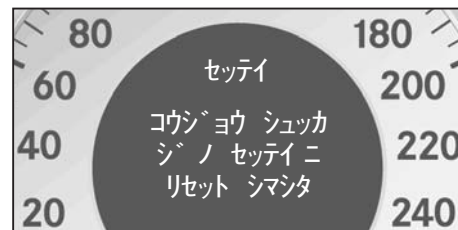
各種設定項目の初期化

初期化画面

各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する(戻す)ことができます。

各種設定項目を初期化する

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-24）。

▶ リセットボタン（3-72）を約3秒間押し続けます。

上記の初期化画面が表示されます。

初期化完了画面

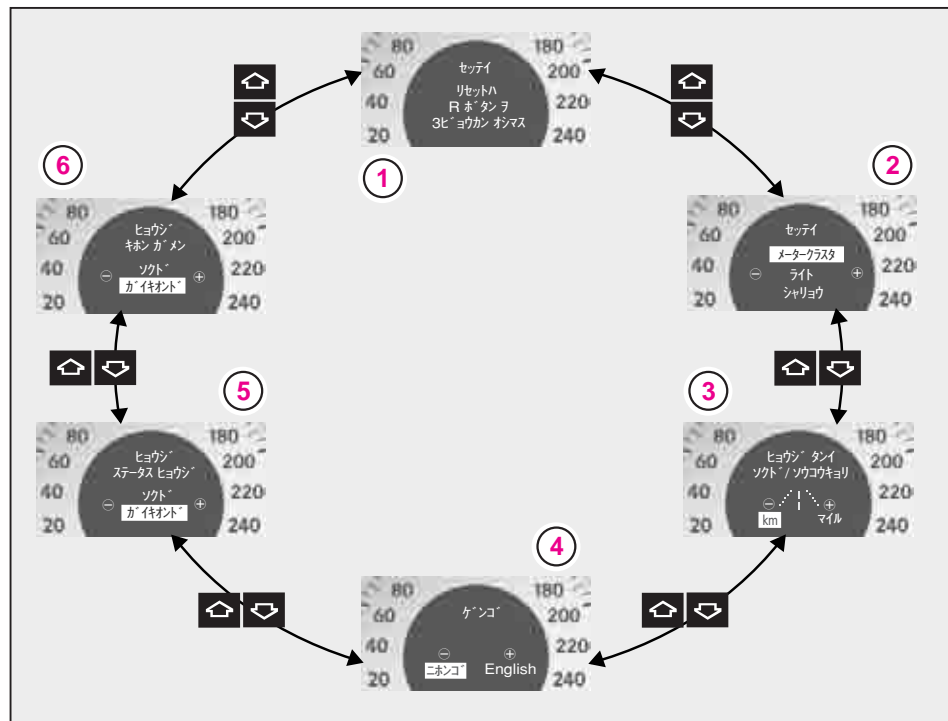
▶ 初期化画面の表示中（約5秒以内）に、再度リセットボタンを押します。

初期化が実行され、上記の初期化完了画面が表示されます。

知 識

- 初期化画面が表示されてから約5秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。
- 各種設定項目を初期化すると、設定グループ選択画面が表示されます。
- 走行中に初期化操作を行なったときは、安全のため、初期化されない項目があります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メータークラスタ

①	各種設定メイン画面	4-24
②	設定グループ選択画面	4-24
③	速度・距離単位設定画面	4-27
④	ディスプレイ言語設定画面	4-28
⑤	ディスプレイ下段の表示設定画面	4-28
⑥	車両情報メイン画面の表示設定画面	4-28

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ または を押して、各種設定メイン画面を表示させます（**4-24**）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、"メータークラスタ" を選択します。

▶ を押します。

メータークラスタの最初の設定項目画面③が表示されます。

速度・距離単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの速度や走行距離などの表示単位の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示がkm/h、kmになります。
ﾏｲﾙ	表示がmph、マイル、MIになります。

注　意　！

1マイル（mph）は約1.6km/hです。マルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずkm（km/h）表示を選択してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ﾆﾎﾝｺﾞ	日本語表示になります。
English	英語表示になります。

知　識

マルチファンクションコントローラーの表示言語や案内音声言語を、この画面で設定した言語に連動させることができます。詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

ディスプレイ下段の表示設定画面

ディスプレイ下段に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	ディスプレイ下段の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	ディスプレイ下段の表示が外気温度になります。

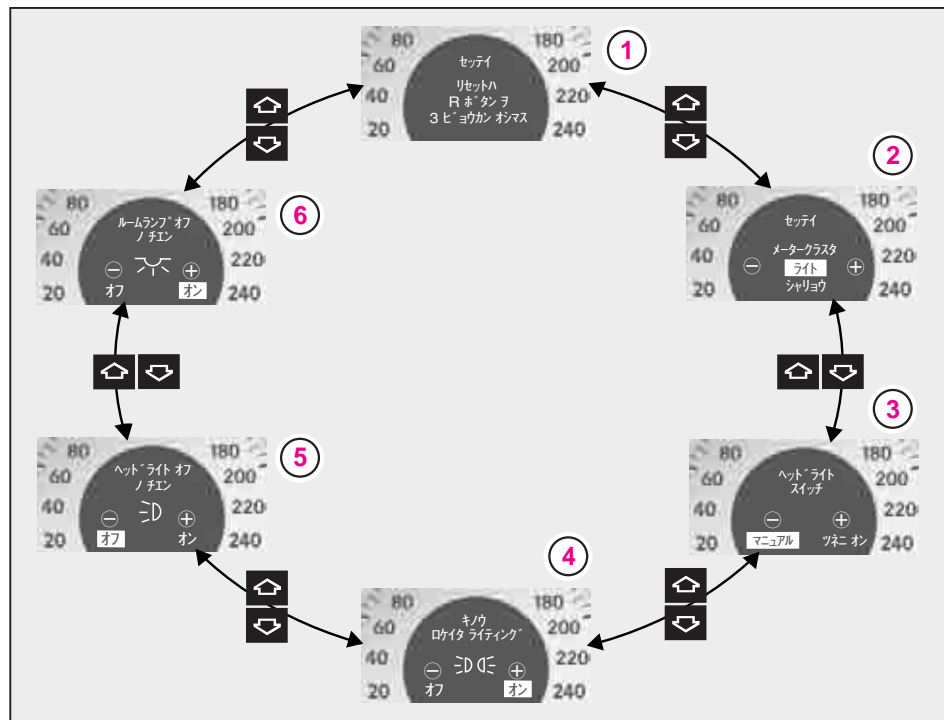
車両情報メイン画面の表示設定画面

車両情報メイン画面に表示される項目の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	車両情報メイン画面の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	車両情報メイン画面の表示が外気温度になります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ライト

①	各種設定メイン画面	4-24
②	設定グループ選択画面	4-24
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	4-30
④	ロケイターライティング設定画面	4-31
⑤	車外ランプ消灯遅延機能設定画面	4-32
⑥	ルームランプ消灯遅延機能設定画面	4-33

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [画面ボタン]または[画面ボタン]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-24）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[ボタン]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、"ライト"を選択します。

▶ [ボタン]を押します。

ライトの最初の設定項目画面③が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
マニュアル	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。
ツネニ オン	常時点灯モードです。 ランプスイッチを 0 か AUTO の位置にしているときに、エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

注　意　！

設定が常時点灯モードのときは、安全のため走行中に設定を変更することはできません。

このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ" と表示されます。

知　識

- 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。
- 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
ｵﾌ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは (3-9) をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。
ｵﾌ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは (5-26) をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

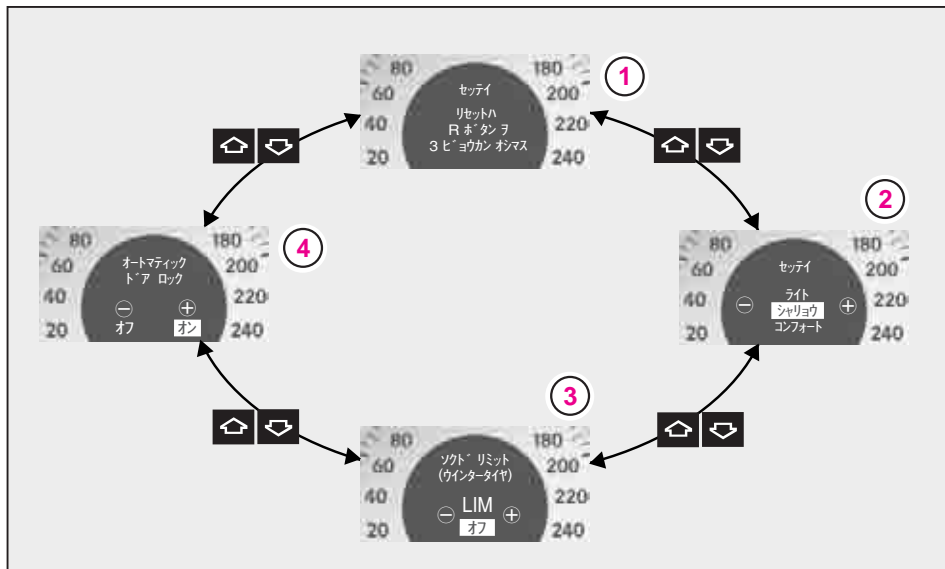
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードで周囲が暗いときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約10秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは(**6-31**)をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	4-24
②	設定グループ選択画面	4-24
③	ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面	4-35
④	車速感応ドアロック設定画面	4-36

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-24）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[ボタン]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、"シャリョウ" を選択します。

▶ [ボタン]を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面③が表示されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ [+]または[−]を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

知　識

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（5-49）で設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車速感応ドアロック設定画面

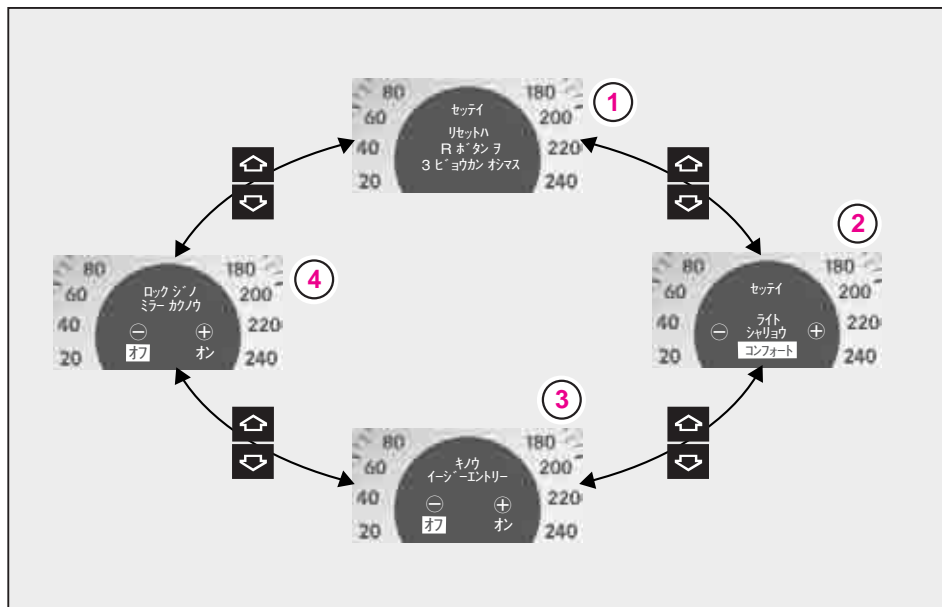
走行速度が約15km/h以上になったときに、ドアとトランクを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｵﾝ	車速感応ドアロックが作動します。
ｵﾌ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（3-36）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

コンフォート

①	各種設定メイン画面	4-24
②	設定グループ選択画面	4-24
③	イージーエントリー設定画面	4-38
④	施錠時のドアミラー格納設定画面	4-39

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [icon]または[icon]を押して、各種設定メイン画面を表示させます（4-24）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に[icon]を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+]または[−]を押して、"コンフォート" を選択します。

▶ [icon]を押します。

コンフォートの最初の設定項目画面③が表示されます。

イージーエントリー設定画面

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

▶ [+]または[−]を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ステアリングが上方に移動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは（3-36）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

施錠時のドアミラー格納設定画面

80 180
60 ロック ジ゛ノ ミラー カクノウ 200
40 220
20 オフ オン 240

リモコン操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

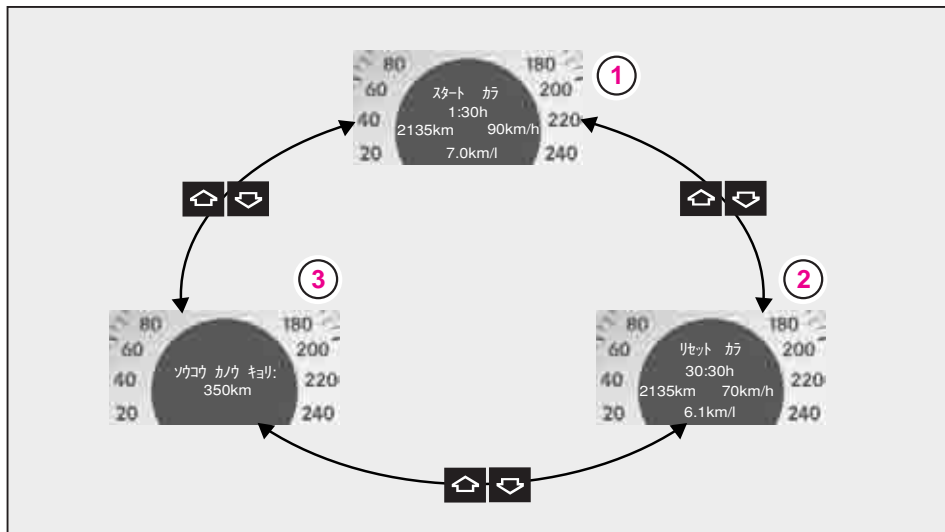
▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

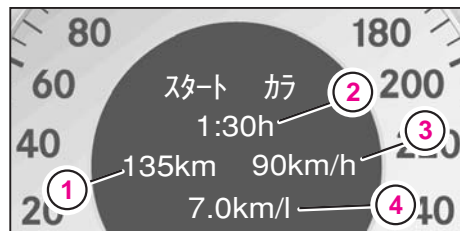
表示	設定内容
オン	リモコン操作での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（3-9）をご覧ください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

トリップコンピューター

トリップコンピューター

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ショートトリップメーター画面

① エンジン始動からの走行距離（km）
② エンジン始動からの経過時間（h）
③ エンジン始動からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動からの平均燃費（km/l）

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

エンジンスイッチを0の位置にしてから、またはキーを抜いてから約4時間経過すると、ショートトリップメーターは自動的にリセットされます。

ショートトリップメーター画面を表示させる

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます。

ショートトリップメーターは、手動でリセットすることもできます。

ショートトリップメーターを手動でリセットする

▶ ショートトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（3-72）を押し続けて、表示をリセットします。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ロングトリップメーター画面

① リセットからの走行距離（km）
② リセットからの経過時間（h）
③ リセットからの平均速度（km/h）
④ リセットからの平均燃費（km/l）

ロングトリップメーターは、リセットしたときを起点とした情報を表示します。

ロングトリップメーター画面を表示させる

▶ ▭または▭を押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（4-41）。

▶ ⌂を押して、ロングトリップメーター画面を表示させます。

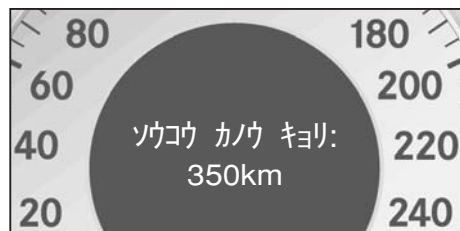
ロングトリップメーターをリセットする

▶ ロングトリップメーター画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（3-72）を押し続けて、表示をリセットします。

知　識

リセット後、ロングトリップメーターは、9,999時間経過後、または99,999km走行後に自動的にリセットされます。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

走行可能距離画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。

走行可能距離画面を表示させる

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

▶ またはを押して、ショートトリップメーター画面を表示させます（4-41）。

▶ を押して、走行可能距離画面を表示させます。

注 意 ！

走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾈﾝﾘｮｳ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されるか、以下のマークが表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

電話画面を表示させる

▶ [icon]または[icon]を押して、電話画面を表示させます。

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ[icon]を押します。

電話を受信できます。

通話を終える(電話を切断する)

▶ ステアリングの通話終了スイッチ[icon]を押します。

電話を切断できます。

メモリー番号による電話の発信

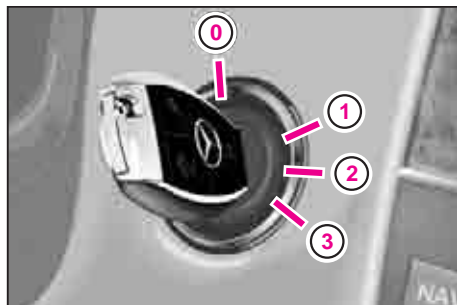
メモリーしてある電話番号に電話をかけることができます。

▶ 電話画面表示中に、[icon]または[icon]を押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ[icon]を押します。

※ 詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジンスイッチ

左ハンドル車

警　告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

	作動内容
⓪	0：キーを差し込む / 抜く位置
①	1：エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
②	2：走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
③	3：エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを③の位置までまわして手を放すと、自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

タッチスタート

エンジンスイッチを③の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

注　意　！

- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、わずかに電力を消費しています。走行しないときは、バッテリー保護のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差すことはできません。

知　識

- セレクターレバーが P に入っていないときはエンジンスイッチからキーを抜くことができません。
- エンジンスイッチからキーを抜かずに0の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。
- キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

ステアリングロック

ステアリングをロックする

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

ステアリングがロックされます。

ステアリングロックを解除する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

ステアリングのロックが解除されます。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動する

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに3の位置までまわして手を放します。

注 意 !

- エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知 識

ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

エンジンが始動しないとき

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ エンジンスイッチを0か1の位置に戻してから再始動します。

それでもエンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを停止するとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

注　意　!

水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

オートマチックトランスミッション

シフト位置表示

① シフト位置表示
（ドライブに入っている状態）

エンジンスイッチを**2**の位置にするとメーターパネルにシフト位置表示①が表示されます。

セレクターレバー

② セレクターレバー

▶ セレクターレバー②を動かして、シフト位置を選択します。

知　識

エンジンスイッチが**2**の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを**P**から動かすことはできません。

注　意　！

セレクターレバーを**R**に入れるときは、完全に停車してください。

シフト位置	
P パーキング	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
R リバース	後退するときの位置
N ニュートラル	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
D ドライブ	走行するときの位置 1速〜5速（7G-TRONIC装備車は1速〜7速）の範囲で自動的に変速します。

走行モード

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。

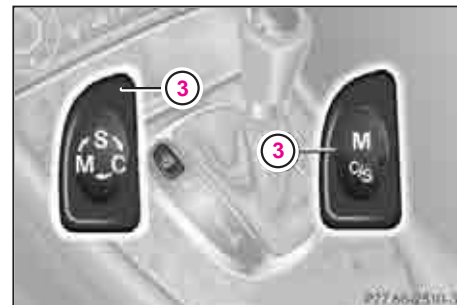
エンジンスイッチを**2**の位置にするとメーターパネルに走行モード表示①が表示されます。

マニュアルギアシフト非装備車

② 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト非装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

Sモード→Cモード→Sモードと切り替わります。

マニュアルギアシフト装備車

③ 走行モード選択スイッチ

走行モードを選択する（マニュアルギアシフト装備車）

▶ 走行モード選択スイッチ③を押します。

CLK 63 AMGを除く車種は、Sモード→Cモード→Mモード→Sモードと切り替わります。

CLK 63 AMGは、Sモード→Mモード→Cモード→Sモードと切り替わります。

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの絵柄は異なります。

走行モード	
Cモード	Sモードより早めにシフトアップが行なわれます。ゆるやかな運転や滑りやすい路面を走行するときに適しています。 セレクターレバーを R に入れたときはSモードよりゆるやかに後退します。
Sモード	十分な加速を得たいときに使用します。セレクターレバーを R に入れたときはCモードより力強く後退します。
Mモード＊	マニュアルでギアシフトすることができます。 詳しくは**(5-12)**をご覧ください。

警　告

選択したモードにより変速特性が変わります。必ず路面の状況に合ったモードを選択してください。

知　識

- Sモードまたは Cモードを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは停止したときのモードになります。
- Mモードを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは、SモードまたはCモードになります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードがCモードかSモードのときにティップシフトにすることができます。

警　告

滑りやすい路面状況やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

① ギアレンジ表示

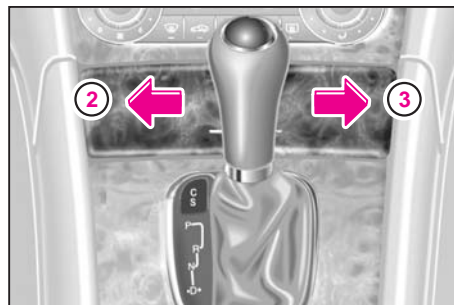
メーターパネルにギアレンジ表示①が表示されます。

レンジ	
D	1速〜5速(7G-TRONIC装備車は1速〜7速)の範囲で自動的に変速します。
6 *	1速〜6速の範囲で自動的に変速します。
5 *	1速〜5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速〜4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速〜3速の範囲で自動的に変速します。 緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速〜2速の範囲で自動的に変速します。 急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

知　識

- ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。
- 加速時にエンジンの許容回転数を超えるようなときは、自動的に高いギアレンジが選択されます。
- エンジンが暖まっていないときは、シフト操作を行なっても、選択したギアレンジに変わらないことがあります。
- ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行状況や走行速度により異なります。

セレクターレバーによる操作

② 低いギアレンジを選択
③ 高いギアレンジを選択

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D のときにセレクターレバーを②側に操作します。

ティップシフトになり、選択されたギアレンジ①がメーターパネルに表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを②側に操作します。

高いギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーを③側に操作します。

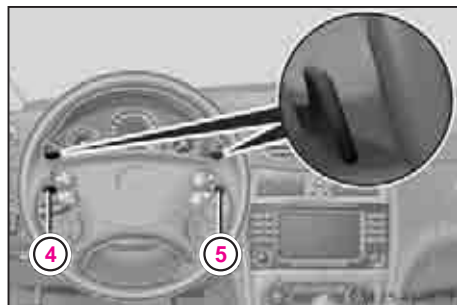
ティップシフトを解除する

▶ セレクターレバーを③側に操作して保持します。

ギアレンジ①に "D" が表示されます。

知　識

ティップシフトにしていないときにセレクターレバーを③側に操作すると、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

パドルによる操作＊

④ 左側パドル
（低いギアレンジを選択）
⑤ 右側パドル
（高いギアレンジを選択）

ティップシフトにする

▶ セレクターレバーが D のときに左側のパドル④を引きます。

ティップシフトになり、選択されたギアレンジ①がメーターパネルに表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側のパドル④を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側のパドル⑤を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側のパドル⑤を引いて保持します。

ギアレンジ①に "D" が表示されます。

知　識

- ティップシフトにしていないときに、右側のパドル⑤を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。
- CLK 200 スポーツパッケージ / CLK 350 AMGスポーツパッケージでは、右側のパドルには "＋"、左側のパドルには "ー" の表示があります。
- CLK 63 AMGでは、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

マニュアルギアシフト＊

セレクターレバーまたはパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

警　告

路面が滑りやすいときやカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。
また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させせると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

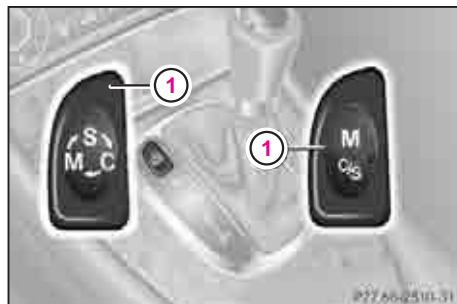
注　意　！

エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

知　識

- マニュアルギアシフトでは、ESPの機能を解除しないで走行することをお勧めします。
- エンジンが暖まっていないときは、シフト操作を行なっても、選択したギアに変速しないことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード選択スイッチ

② 走行モード表示
③ ギア表示

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、マルチファンクションディスプレイの走行モード表示②に "M" を表示させます。

ギア表示③には選択されているギアが表示されます。

知　識

- マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときはSモードまたはCモードになります。
- マニュアルギアシフトではギア表示③に表示される数字は実際のギアを示しています。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、SモードかCモードを選択します。

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの絵柄は異なります。

セレクターレバーによる操作

④ シフトダウン
⑤ シフトアップ

シフトアップする

▶ セレクターレバーを⑤の方向に操作します。

シフトダウンする

▶ セレクターレバーを④の方向に操作します。

パドルによる操作

⑥ 左側パドル（シフトダウン）
⑦ 右側パドル（シフトアップ）

シフトアップする

▶ 右側のパドル⑦を引きます

シフトダウンする

▶ 左側のパドル⑥を引きます。

知　識

- シフトダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。
- CLK 200 スポーツパッケージ / CLK 350 AMGスポーツパッケージでは、エンジン回転数が上昇しレッドゾーンに近付くと、自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。
- シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。
- 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。
- 停車すると、ギアは1速にシフトされます。

- CLK 200 スポーツパッケージ / CLK 350 AMGスポーツパッケージでは、マニュアルギアシフトを選択しているときにキックダウンを行なうことができます。
- CLK 63 AMGでは、マニュアルギアシフトを選択しているときにキックダウンを行なうことはできません。
- CLK 200 スポーツパッケージ / CLK 350 AMGスポーツパッケージでは、右側のパドルには "＋"、左側のパドルには "ー" の表示があります。
- CLK 63 AMGでは、右側のパドルには "UP"、左側のパドルには "DOWN" の表示があります。
- セレクターレバーを左側に操作して保持するか、左側のパドルを引いて保持すると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

シフトアップ表示（CLK 63 AMG）

⑧ ギア表示
⑨ "up" マーク
⑩ シフトアップマーク

エンジン回転数が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、ギア表示⑧と "up" マーク⑨が表示されます。

また、シフトアップマーク⑩も表示されます。

必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P 、 N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

発進する

▶ エンジンを始動します。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行位置 D に入れます。

警　告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

知　識

ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

注　意　！

急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

通常走行

通常はセレクターレバーを D にして走行します。アクセルペダルの踏み加減や走行速度に応じて、自動的に変速が行なわれます。

警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。

素早く加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

注　意 ！

キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

上り坂を走行するとき

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

変速の少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂を走行するとき

下り坂を D で走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎることがあります。

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアレンジを選択します。

エンジンブレーキの効きが強くなります。

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

滑りやすい路面を走行するとき

走行モード（5-7）をCモードに切り替え、急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。

警　告

滑りやすい路面では、低いギアレンジや低いギアを選択することによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

注　意！

エンジンが許容回転数を超えるおそれがある場合は、低いギアレンジや低いギアを選択することはできません。このときは、ブレーキペダルを踏んで減速してから再度操作し、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

停車するとき

▶ セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

警　告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注　意！

- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象（5-16）で車が動かないようにしてください。
- セレクターレバーをＰに入れるときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

▶ 完全に停車して、ブレーキペダルを踏み込んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーをＰに入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にして、キーを抜きます。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

警　告

駐車時や車を離れるときは、セレクターレバーをＰに入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。セレクターレバーをＰに入れただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。

注　意！

- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして前輪を歩道方向に向けてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）を閉じて、施錠してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

エマージェンシーモード

トランスミッションに異常が発生し、自動変速ができなくなったときは、自動的にエマージェンシーモードに切り替わることがあります。

この場合、以下の方法でギアを2速かリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

エマージェンシーモードでの走行

▶ 安全な場所に停車して、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを**0**の位置にして、約10秒間待ちます。

▶ エンジンを始動します。

▶ セレクターレバーを D に入れます。

2速ギアに固定され、前進できます。

または

▶ セレクターレバーを R に入れます。

リバースギアに固定され、後退できます。

注 意 !

- 2速ギアやリバースギアに変速できなかったり、変速できても走行できないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- エマージェンシーモードで走行するときは、動力性能が大きく制限されます。十分に注意して走行し、指定サービス工場で点検を受けてください。

パーキングロックの解除

セレクターレバーを P の位置から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。

故障時に車をけん引されるときなどにパーキングロックを解除します。

この作業はできるだけ指定サービス工場に依頼してください。

① ペンなど

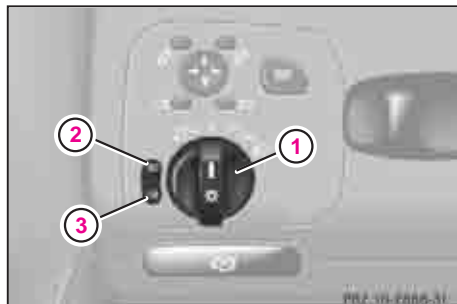
パーキングロックを解除する

- ▶ フロントアームレスト下部の小物入れを開き、内部前方にあるトレイを取り外します（6-38）。
- ▶ 前面の右寄りにある穴にペン①などを差し込み、内部前方にある解除ボタンを押しながら、セレクターレバーを P の位置から動かします。

注 意 ！

- この方法でセレクターレバーを動かせないときは、指定サービス工場に連絡してください。
- セレクターレバーを動かすことができたときでも、指定サービス工場で点検を受けてください。
- 作業をするときは、ペンなどでアームレストなどを損傷しないように注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車
① ランプスイッチ
② フロントフォグランプ表示灯
③ リアフォグランプ表示灯

※ 右ハンドル車はスイッチや表示灯の配列が異なります。

▶ ランプスイッチ①をまわして各位置に合わせます。

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
Auto	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯
	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

ヘッドランプ

ヘッドランプは手動または自動で点灯 / 消灯することができます。

ヘッドランプが点灯すると、メーターパネルにヘッドランプ表示灯が点灯します。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチをの位置に合わせます。

ヘッドランプを自動で点灯する

▶ ランプスイッチを Auto の位置に合わせます。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを**1**の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

警　告

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇ 霧の中を走行するとき
  - ◇ 対向車のライトなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチを Auto から [ヘッドランプ] の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

注　意！

- ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを0の位置に戻して運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｦ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。このときはランプスイッチを 0 の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ランプスイッチを [スモールランプ] か [ヘッドランプ] の位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサー(5-32)と同じ位置にあります。ステッカーなどを貼付すると、自動的に点灯 / 消灯しなくなります。
- ランプスイッチが Auto の位置のときはトンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ランプが自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチの位置が または のとき、ランプスイッチ①を1段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯②が点灯します。

フロントフォグランプ / リアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチの位置が または のとき、ランプスイッチ①を2段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯②とリアフォグランプ表示灯③が点灯します。

警　告

ランプスイッチが Auto の位置のときは、フォグランプを点灯することができません。

霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

注　意　！

- フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

パーキングランプ

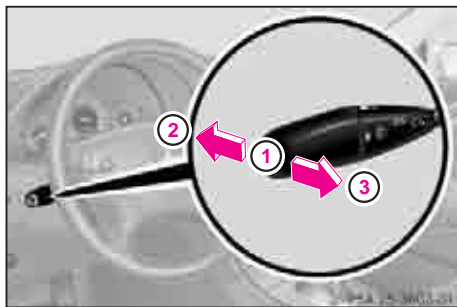
暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

エンジンスイッチが0の位置のとき、またはキーを差していないときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを または の位置にします。

位置	作動内容
	右側のパーキングランプが点灯
	左側のパーキングランプが点灯

ヘッドランプの下向き / 上向きの切り替え

① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ ヘッドランプが点灯しているときにコンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

ヘッドランプを上向きにする

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置で、ヘッドランプが点灯しているときに、コンビネーションスイッチを②の位置にします。

ヘッドランプが上向きになります。

メーターパネルのハイビーム表示灯 が点灯します。

パッシングする

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きで点灯します。

メーターパネルのハイビーム表示灯 が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

注　意　！

対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、約15秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については（4-32）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後､エンジンスイッチを**2**の位置にします。

知 識

- エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約60秒後にランプは消灯し、この機能は解除されます。
- この機能は、エンジンを停止してから約20分経過すると解除されます。約20分以内なら、ドアやトランクを開くたびに車外ランプが点灯します。

コーナリングランプ＊

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- 走行速度が約40km/h以下で、エンジンがかかっているとき
- ヘッドランプを点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

セレクターレバーが R に入っているときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

知 識

- 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。
- フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。
- 点灯したフロントフォグランプは、約3分後に自動的に消灯します。

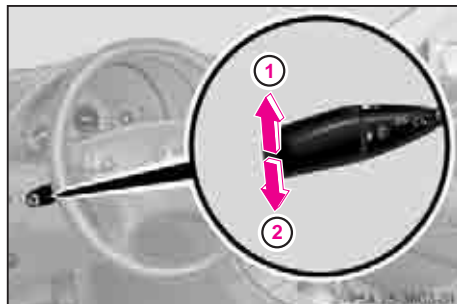
アクティブライトシステム＊

周囲が暗いとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドランプの向きが変わります。

知 識

- ヘッドランプの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。
- 変化するヘッドランプの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

知　識

- 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が点滅します。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。
- コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が3回点滅します。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。すべての方向指示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ①とメーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

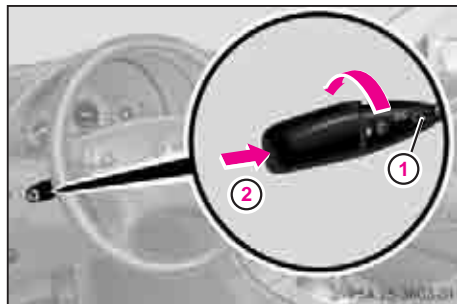
▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

注　意　！

- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチ①を押します。

ワイパー

① ワイパー作動モードのマーク
② ティップ機能 / ウインドウウォッシャーの噴射

ワイパーを作動させる

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにコンビネーションスイッチをまわして、ワイパー作動モードのマーク①を**I**～**III**の位置に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
I	AUTOモード レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
II	低速モード
III	高速モード

知　識

II または **III** の位置のときは、停車時または徐行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

ワイパーを1回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印②の方向に軽く押します。

ウォッシャー液は噴射せずにワイパーが1回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ウインドウウォッシャーを噴射させる

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、コンビネーションスイッチを矢印②の方向にいっぱいまで押し続けます。

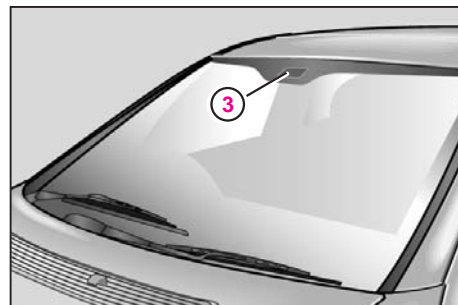
その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

注 意 ！

- フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチの位置を**0**(停止)に戻してください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。
- フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチの位置を**0**に戻してください。コンビネーションスイッチの位置が **II** または**III**のときにエンジンスイッチを**1**の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーブレードがガラスに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、キーを抜いてください。

知　識

- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。
- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。
- コンビネーションスイッチが**I**の位置のとき、停車時にドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。
  - ◇ セレクターレバーがＰまたはＮのときは、ドアを閉じてセレクターレバーをＤかＲに入れてから走行を開始したとき
  - ◇ セレクターレバーがＤまたはＲのときは、ドアを閉じてから走行を開始したとき
- フロントウインドウが乾いていても、エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにコンビネーションスイッチを**I**の位置にすると、ワイパーが1回作動します。
- ボンネットのロックが解除されているときは、ワイパーは作動しません。
- エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約15回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

レインセンサー

③ レインセンサー

フロントウインドウの図の位置にレインセンサー③があります。

注　意　！

レインセンサーの上にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正常に機能しなくなります。

ヘッドランプウォッシャー

左ハンドル車
① ヘッドランプウォッシャースイッチ

※ 右ハンドル車はスイッチの配列が異なります。

ヘッドランプウォッシャーを作動させる

エンジンスイッチが**2**の位置のときに作動します。

▶ ヘッドランプウォッシャースイッチ①を押します。

ウォッシャー液がヘッドランプに向けて噴射されます。

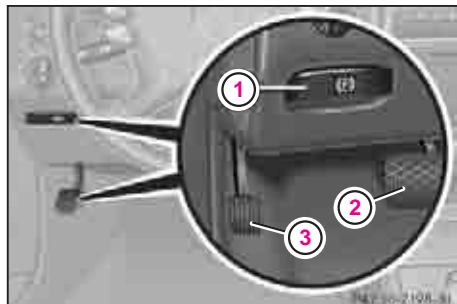
知　識

- エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、ウインドウウォッシャーを約15回噴射させると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

  エンジンを停止すると、ウインドウウォッシャーを噴射させた回数はリセットされます。

- 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

注　意　！

- ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、歩行者などにウォッシャー液がかからないように注意してください。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ヘッドランプウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキ

左ハンドル車
① 解除ハンドル
② ブレーキペダル
③ パーキングブレーキペダル

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル②を踏みながら、左足でパーキングブレーキペダル③をいっぱいまで踏み込みます。

パーキングブレーキを解除する

▶ 解除ハンドル①を引きます。

警　告

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　!

- パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、タイヤに輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

知　識

パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

ブレーキ

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり、停車できなくなるおそれがあります。
- ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- ブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキシステムを改造したり、スペーサーやブレーキダストシールドなどを使用しないでください。
- マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-8）をご覧ください。

知　識

- 長い急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジ 3 、 2 、 1 を選択して、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。
- 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、しばらく走行を続けてください。走行風によりブレーキディスクを早く冷やすことができます。
- 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは後続車に注意しながら、時々ブレーキを効かせてください。

(!) ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し(点灯しないときは警告灯が故障しています)、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後もパーキングブレーキを効かせているときは、点灯したままになります（エンジンスイッチが**1**の位置のときも点灯)。

パーキングブレーキを解除しても消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**(10-8)**をご覧ください。

ブレーキパッドに関する注意事項

- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキパッドは、目安として走行距離が数百kmを超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

  また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百kmを超えるまでは注意してください。

CLK 63 AMGのブレーキの注意事項

CLK 63 AMGの高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、CLK 63 AMGのブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保しようとする装置です。

警　告

- ABSはブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。
  ABSが適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。
  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意　！

- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABSを装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。
  - ◇ 雪の積もった路面や凍結した路面
  - ◇ 砂利道などの荒れた路面
  - ◇ 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
  - ◇ スノーチェーン装着時
- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。
- ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。
- ABSに異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。

知　識

- ABSは走行速度が約8km/hを超えると作動できるようになります。
- ABSに異常があると、以下のシステムも正しく作動しなくなるおそれがあります。
  - ◇ ESP
  - ◇ BAS
  - ◇ パークトロニック＊
  - ◇ ナビゲーション
  - ◇ オートマチックトランスミッション
- ABSに異常があると、ESPに関する故障／警告メッセージが表示されることがあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- バッテリー電圧が低下するとABSが一時的に機能が解除されます。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABSの作動

ABSには以下のような特性があります。

- ABSが作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。
- エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときや、エンジンがかかっているときに点灯したときは、ABSに異常があります。

ブレーキは通常通り作動しますが、ABS、BAS、ESPは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障／警告メッセージが表示されたときは（**10-3**）をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

BAS

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

警　告

- BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意　!

- マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-3）をご覧ください。
- BASに異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。

知　識

- BASに異常があると、ABSも正しく作動しなくなることがあります。
- BASに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、通常のブレーキは作動します。
- バッテリー電圧が低下するとBASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

ESP®

ESP(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

警　告

- ESPは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESPが作動しています。

ESPオフスイッチでESPの機能を解除**（5-43）**しているときは、点灯したままになります。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-3）**をご覧ください。

警　告

ESP表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能の解除

注　意！

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- ESPが故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。
- ダイナモメーターを使用してパーキングブレーキをテストするときや前輪を上げてけん引されるときは、エンジンを停止してください。ESPが作動し、ブレーキが作動します。また、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

知　識

- エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP表示灯やABS警告灯が点灯することがあります。

  このようなときは、安全な場所に停車して、エンジンスイッチを**0**の位置に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、故障 / 警告メッセージやESP表示灯、ABS警告灯は消灯します。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESPが作動することがあります（走行中にESP表示灯が点滅したままになります）。
- ABSが故障したときは、ESPも機能が解除されます。

ESPオフスイッチ

警　告

- ESPオフスイッチでESPの機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
  - ◇ 急ハンドル
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急発進、急加速
  - ◇ 急激なエンジンブレーキ
- ESPの機能を解除する必要がなくなったときは、ESPを待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、操縦安定性や走行安定性を確保することができません。

① ESPオフスイッチ

ESPオフスイッチは、ESPの機能を解除するためのスイッチです。

深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESPの機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESPオフスイッチ①を押します。

ESPの機能が解除され、ESP表示灯が点灯したままになります。

ESPを待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度ESPオフスイッチ①を押します。

ESPが待機状態になり、ESP表示灯が消灯します。

知　識

- エンジンを始動したとき、ESPは常に待機状態になります。
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP表示灯が点滅しますが、ESPは作動しません。

  ただし、このときにブレーキを効かせると、ESPは自動的に作動します。

クルーズコントロール

クルーズコントロールを使用すると、アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

警　告

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇ 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇ 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

注　意　!

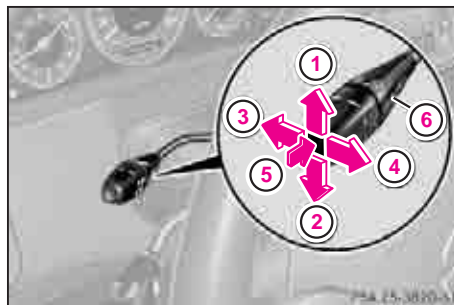
- クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。
- 指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-5）をご覧ください。
- 急な上り坂では、速度を維持するためにシフトダウンすることがありますが、設定した速度を維持できないときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

注　意　!

- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

可変スピードリミッター（5-50）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が消灯していることを確認します。

点灯しているときは、レバーを⑤の方向に押して、表示灯を消灯させます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①または②の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

記憶されている速度に設定されます。

注 意 !

そのときの速度に設定したときは、走行状況により、高めの速度に設定されることがあります。必要に応じて、設定速度を変更してください。

⑦ クルーズコントロールインジケーター

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

また、クルーズコントロールインジケーター⑦の設定速度より上の部分が点灯し、マルチファンクションディスプレイに "クルーズ コントロール" と設定速度が数秒間表示されます。

警 告

記憶されている速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

知 識

- クルーズコントロールインジケーターの目盛りは5km/h刻みです。
- クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

知　識

以下のときは、クルーズコントロールを設定することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

- 約30km/h以下の速度で走行しているとき
- ESPオフスイッチでESPの機能を解除してあるとき
- 速度が記憶されていないときにレバーを④の方向に引いたとき

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に上げ続けると加速します。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを②の方向に下げ続けると減速します。

希望の速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

知　識

- レバーを①か②の方向にごく短時間操作すると、1km/h単位で速度の設定ができます。
- レバーを②の方向に下げて減速しているときには、自動的にシフトダウンしたり、ブレーキを効かせることがあります。

注　意　！

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。

ブレーキペダルの下に足を置いていると、挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき
- レバーを⑤の方向に押したとき **(5-45)**

  レバーの表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールの設定が解除されると、スピードメーターのクルーズコントロールインジケーターがすべて消灯します。

知 識

- クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。

  ただし、エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、記憶された速度は消去されます。

- クルーズコントロールは以下のときに自動的に解除されます。

  ◇ セレクターレバーを**N**に入れたとき

  ◇ ESPが作動したとき

  ◇ ESPオフスイッチでESPの機能を解除したとき

  ◇ 走行速度が約30km/h以下になったとき

  このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ"と表示されます。
  また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

警 告

クルーズコントロールはセレクターレバーを**N**に入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーを**N**に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターで制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定した速度を超えないように走行することができます。

設定できる制限速度は30km/hから210km/hまたは250km/hまでの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※ 車種や仕様により設定できる制限速度が異なる場合があります。

警　告

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

注　意　！

- 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。
- マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-5）をご覧ください。

注　意　！

- 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

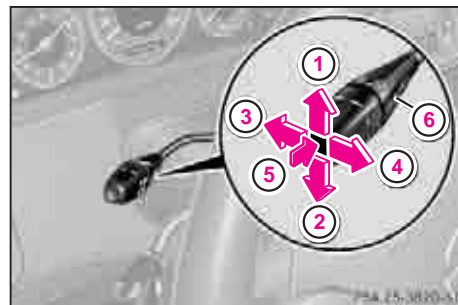
  このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

  ただし、路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

- 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

知　識

- ウィンタータイヤスピードリミッター（4-35）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限になります。
- 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ﾘﾐｯﾄ ｺｴﾏｼﾀ!"と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

①〜⑤ レバーの操作方法
⑥ 表示灯

クルーズコントロール（5-45）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯⑥が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯⑥が消灯しているときは、クルーズコントロールの操作ができる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯⑥が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

▶ レバーの表示灯⑥が点灯していることを確認します。

▶ レバーを①か②の方向に操作します。

- 停車中および走行速度が約30km/h以下のときは、30km/hに設定されます。
- 走行速度が約30km/h以上のときは、そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

記憶されている速度に設定されます。

⑦ 可変スピードリミッターインジケーター

可変スピードリミッターが設定され、可変スピードリミッターインジケーター⑦の設定速度より下の部分が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに設定速度と"リミット"が数秒間表示されます。

注 意 !

- 可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。
- そのときの速度に設定したときは、走行状況により、高めの速度に設定されることがあります。必要に応じて、設定速度を変更してください。

知 識

- 可変スピードリミッターインジケーターの目盛りは5km/h刻みです。
- 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。

  ただし、エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、記憶された速度は消去されます。
- 設定速度が記憶されていないときにレバーを④の方向に引くと、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。
- アクセルペダルを踏んでキックダウンしているときは、可変スピードリミッターを設定することはできません。

設定速度を変更する

▶ レバーを①の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを④の方向に引きます。

設定速度が1km/h単位で上がります。

または

▶ レバーを②の方向に操作します。

設定速度が10km/h単位で下がります。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを③の方向に押します。

次の操作をしたときも解除されます。

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯⑥が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

知 識

次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約20km/h以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき

注 意 !

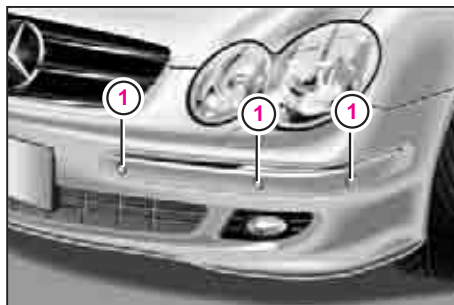
可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

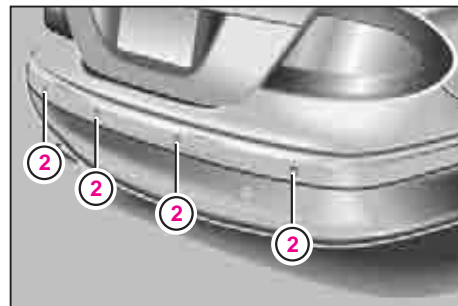
パークトロニック＊

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

注　意　！

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックセンサー

フロント
① センサー

フロントバンパーの6個のセンサー①とリアバンパーの4個のセンサー②が車の周辺の障害物などを感知します。

リア
② センサー

注　意　！

- センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約20秒後にパークトロニックが停止することがあります。
- センサーに損傷を与えないように注意してください。正しく作動しなくなるおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

インジケーター / 作動表示灯

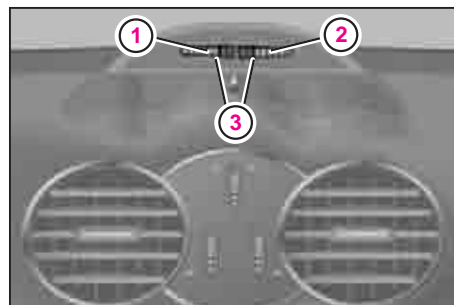
バンパーと障害物などとのおよその距離をインジケーターの点灯数で示します。

注 意 !

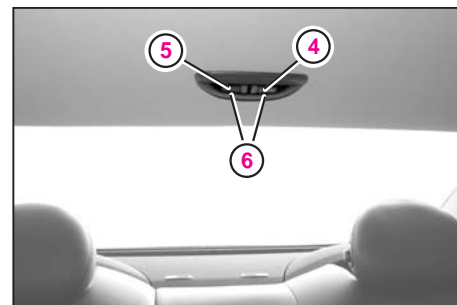
システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して約2秒間警告音が鳴り、約20秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

知 識

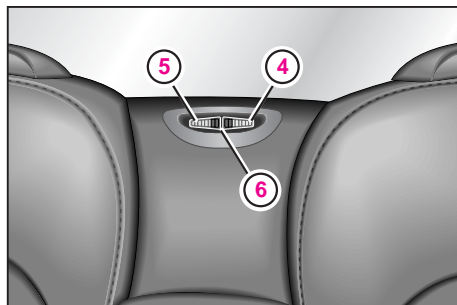
エンジンスイッチを**2**の位置にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

フロント

① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ フロント作動表示灯

ダッシュボード上の図の位置にあります。

リア（クーペ）

④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ リア作動表示灯

リアルームランプに装備されています。

リア(カブリオレ)

④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ リア作動表示灯

リアシートの間の図の位置にあります。

パークトロニックの作動条件

エンジンスイッチが2の位置のとき、シフト位置に応じて以下のように作動します。

シフト位置	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロント作動表示灯③とリア作動表示灯⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

知　識

- パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音が鳴ります。
- パークトロニックは、走行速度が約17km/h以下のときに作動します。走行速度が約17km/h以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが1個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて赤色インジケーターが1個点灯し、警告音が断続的に約3秒間鳴ります。

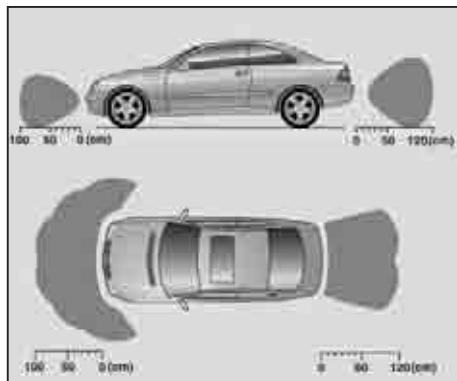
最短感知距離(約20～15cm)になると、上記のインジケーターに加えて2個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約3秒間鳴ります。

注 意 !

障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

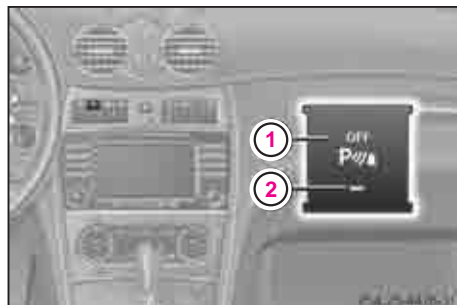
センサーの感知範囲

クーペ

フロント バンパー側	センサー感知範囲
センター部	約100cm～20cm
コーナー部	約60cm～15cm

リア バンパー側	センサー感知範囲
センター部	約120cm～20cm
コーナー部	約80cm～15cm

注 意 !

- 車のセンター部でバンパーから約20cm以内、コーナー部でバンパーから約15cm以内にある障害物は感知できません。
- センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。
- 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。
- センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。
- 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。
- 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックオフスイッチ

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの機能を解除することができます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

知　識

パークトロニックオフスイッチでパークトロニックの機能を解除しても、次にエンジンスイッチを**2**の位置にしたとき、パークトロニックは自動的に作動します。

注　意　！

システムに異常があるときは、赤色インジケーターが点灯して警告音が約2秒間鳴り、約20秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナー（CLK 200 / CLK 350）

エアコンディショナー（CLK 200 / CLK 350）

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

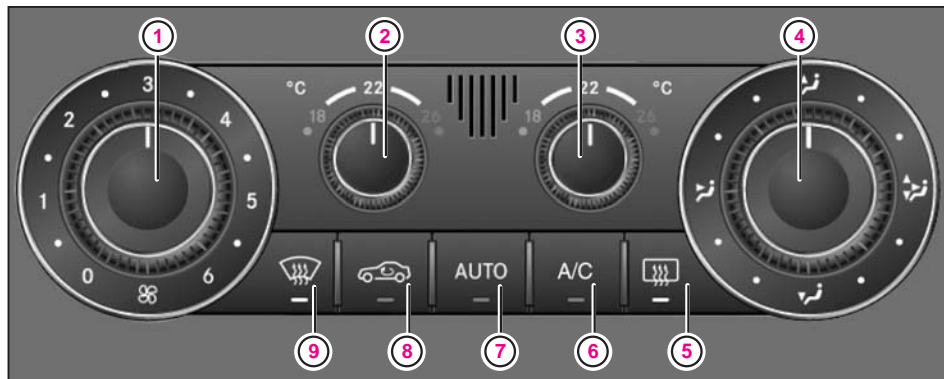
注　意　！

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

知　識

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ウインドウやスライディングルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）が開いていると、設定温度を維持することができません。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

  フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

コントロールパネル

	名称
①	送風量調整ダイヤル
②	送風温度調整ダイヤル（左側）
③	送風温度調整ダイヤル（右側）
④	送風口選択ダイヤル
⑤	リアデフォッガースイッチ
⑥	ACスイッチ
⑦	AUTOスイッチ
⑧	内気循環スイッチ
⑨	デフロスタースイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

エアコンディショナー（CLK 200 / CLK 350）

通常の使いかた（AUTOモード）

⑦ AUTOスイッチ

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTOスイッチ⑦を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

AUTOモードを解除する

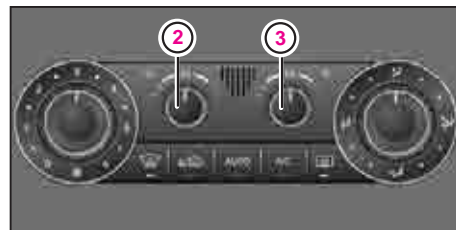
▶ エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、AUTOスイッチ⑦を押します。

AUTOスイッチの表示灯が消灯し、AUTOモードが解除されます。

送風口の選択や送風量の調整を手動で行なうことができます。

知　識

AUTOモードでエアコンディショナーを作動させると、自動的にACモード（6-6）に設定されます。

送風温度の調整

② 送風温度調整ダイヤル（左側）
③ 送風温度調整ダイヤル（右側）

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整ダイヤル②③を時計回りにまわします。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル②③を反時計回りにまわします。

知　識

- 送風温度は左右別々に調整できます。
- 通常は22℃に設定することをお勧めします。
- 左右どちらかの送風温度を最高に設定すると、もう一方の送風温度が自動的に上がります。

  また、最低に設定すると、もう一方の送風温度が自動的に下がります。

エアコンディショナーの停止

① 送風量調整ダイヤル

エアコンディショナーを停止する

▶ 送風量調整ダイヤル①を0の位置にします。

知　識

- 送風量調整ダイヤルが0の位置でエアコンディショナーが作動しているときは、送風量調整ダイヤルを一度0以外の位置にしてから、再度0の位置にするとエアコンディショナーは停止します。
- ウインドウやスライディングルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ACモード

⑥ ACスイッチ

ACモードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTOモードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

ACモードを解除する

▶ ACスイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

ACモードを設定する

▶ 再度、ACスイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

環　境

ACモードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

知　識

- 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているとき送風されます。
- ウインドウやスライディングルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）が閉じているときにACモードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- エアコンディショナーの冷媒が減っているときや、除湿 / 冷房機能が故障しているときにACスイッチ⑥を押すと、表示灯が点滅もしくは消灯したままになり、除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- ACモードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

送風量の調整

① 送風量調整ダイヤル

送風量を手動で調整することができます。

エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときは、AUTOモードを解除**（6-4）**してから、送風量を調整します。

送風量を上げる

▶ 送風量調整ダイヤル①を時計回りにまわします。

送風量を下げる

▶ 送風量調整ダイヤル①を反時計回りにまわします。

知　識

- エアコンディショナーが停止しているときに送風量調整ダイヤル①を0以外の位置にすると、エアコンディショナーが作動します。
- エアコンディショナーが作動しているときに送風量調整ダイヤル①を0の位置にすると、エアコンディショナーは停止します。

エアコンディショナー（CLK 200 / CLK 350）

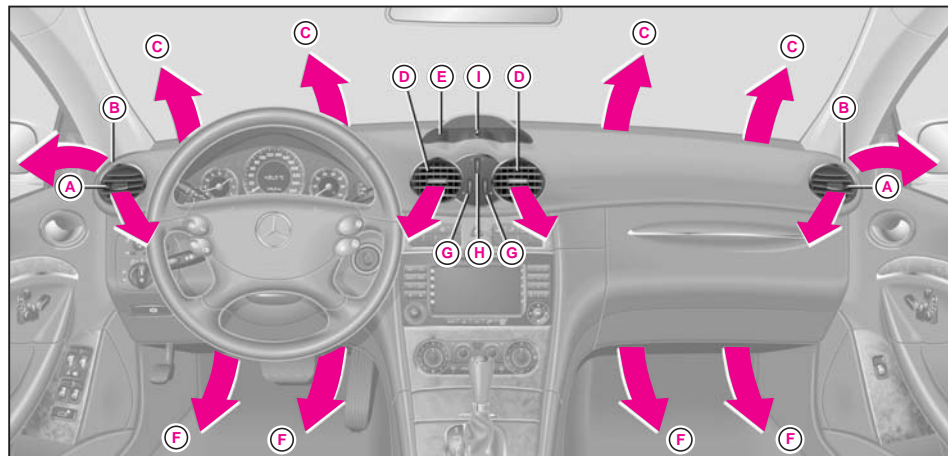
送風口の選択

④ 送風口選択ダイヤル

送風口を手動で選択することができます。

エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときは、AUTOモードを解除（6-4）してから、送風口を選択します。

送風口を選択する

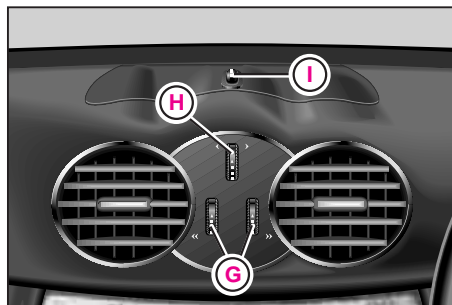
▶ 送風口選択ダイヤル④をまわして、好みの送風口マークに合わせます。

左ハンドル車

送風口マーク	主に送風される送風口
	サイド送風口Ⓐ 中央送風口Ⓓ 中央上部送風口Ⓔ リア送風口（6-10）
	フロントウインドウ送風口Ⓒ ドアウインドウ送風口Ⓑ
	フロントウインドウ送風口Ⓒ ドアウインドウ送風口Ⓑ サイド送風口Ⓐ 中央送風口Ⓓ 中央上部送風口Ⓔ 足元送風口Ⓕ リア送風口（6-10） リア足元送風口
	足元送風口Ⓕ リア足元送風口

知　識

- 選択した送風口以外の送風口からも多少の送風が行なわれることがあります。
- リア足元送風口はフロントシートの下にあります。
- ダイヤルをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風されます。

送風口の開閉

フロントの送風口

Ⓖ サイド送風口開閉ダイヤル
Ⓗ 中央送風口開閉ダイヤル
Ⓘ 中央上部送風口開閉ダイヤル

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒼ Ⓗ を上方に、送風口開閉ダイヤルⒾ を前方にまわすと、徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒼ Ⓗ を下方に、送風口開閉ダイヤルⒾ を後方にまわすと、徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方または後方にまわすと送風口が閉じます。

知　識

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方または後方にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

リアの送風口

Ⓙ リア送風口
Ⓚ リア送風口開閉ダイヤル

フロントアームレスト後部にリアシート用の送風口があります。

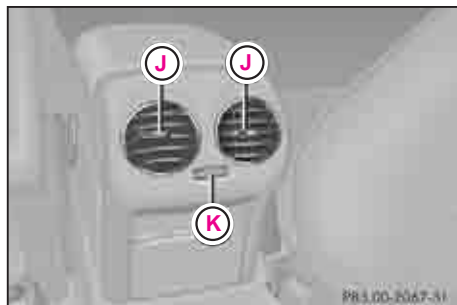
送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⓀを左側にまわすと、徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⓀを右側にまわすと、徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⓀを停止するまで右側にまわすと送風口が閉じます。

知　識

- 送風口開閉ダイヤルを停止するまで右側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。
- 左右のリア送風口からの送風温度は、フロントの左右の送風温度の設定に連動します。
- フロントシートの下にリア足元の送風口があります。荷物などで送風口をふさがないでください。

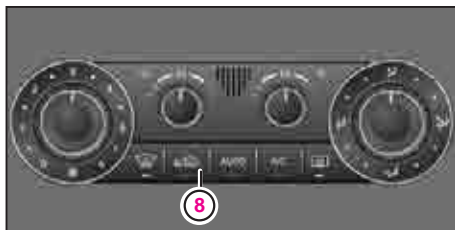
送風口の調整

送風口の風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。

フロントウインドウ送風口Ⓒ、中央上部送風口Ⓔ、ドアウインドウ送風口Ⓑ、足元送風口Ⓕおよびリア足元の送風口は、風向きを調整することはできません。

知　識

換気効率を良くするため、中央送風口Ⓓのノブは中央にすることをお勧めします。

内気循環モード

⑧ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）＊を開閉することができます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑧を約2秒以上押し続けると、開いているドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

内気循環モードに設定されているときも、一定時間を経過すると以下のように外気導入に切り替わります。

外気温度が約5℃以上のとき	約30分後
外気温度が約5℃以下のとき	約5分後
ACモードを解除しているとき	約5分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑧を約2秒以上押し続けると、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフが前回開いていた位置まで開きます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

エアコンディショナー（CLK 200 / CLK 350）

注 意 ！

- 外気温度が低いときや、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディンググルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）を閉じているときに内気循環モードに設定すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- 内気循環スイッチでドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディンググルーフを閉じているときは、乗員が身体を挟まれないように十分に注意してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウやリアサイドウインドウを開いているときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームなどとの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

知 識

- 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このときは内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

  約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- AUTOモードやデフロスターモードにするか、ACモードを解除すると、外気導入モードになります。
- 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディンググルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディンググルーフを、内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

デフロスターモード

⑨ デフロスタースイッチ

フロントウインドウやドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ⑨を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- エアコンディショナーの送風量が上がり、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口から送風されます。
- 内気循環モードに設定していたときは外気導入になります。
- ACモードに設定されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ⑨を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

ただし、デフロスターモードに設定する前にACモードを解除していたときはACモードに、内気循環モードにしていたときは外気導入モードになります。

または

▶ AUTOスイッチ⑦を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が消灯し、AUTOスイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

知　識

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスターモードに設定しているときは、送風温度や送風量などの調整はできません。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、ウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

エアコンディショナー（CLK 200 / CLK 350）

リアデフォッガー

⑤ リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑤を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは約12分以内に自動的に停止します。

注　意　！

- ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

知　識

- 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなるとリアデフォッガーは自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を開始します。
- 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

エアコンディショナー（CLK 63 AMG）

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

注　意！

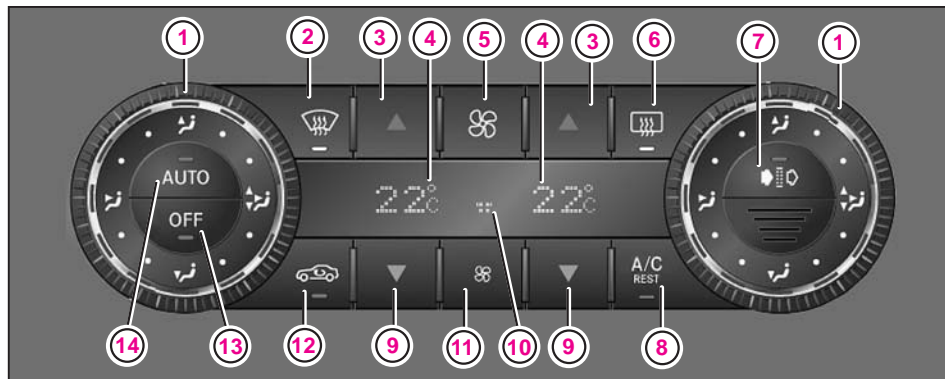
- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。
- 送風口や車内の吸気口が覆われないようにしてください。

知　識

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ウインドウやスライディングルーフ（クーペ）、ソフトトップ（カブリオレ）が開いていると、設定温度を維持することができません。
- 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

  フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減少します。

エアコンディショナー（CLK 63 AMG）

コントロールパネル

	名称
①	送風口選択ダイヤル
②	デフロスタースイッチ
③	送風温度調整スイッチ（高）
④	送風温度インジケーター
⑤	送風量調整スイッチ（強）
⑥	リアデフォッガースイッチ
⑦	チャコールフィルタースイッチ
⑧	ACスイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑨	送風温度調整スイッチ（低）
⑩	送風量インジケーター
⑪	送風量調整スイッチ（弱）
⑫	内気循環スイッチ
⑬	オフスイッチ
⑭	AUTOスイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄などは、イラストと異なる場合があります。

通常の使いかた（AUTOモード）

⑭ AUTOスイッチ

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTOスイッチ⑭を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

知　識

- オフスイッチや送風温度調整スイッチなどを押しても、エアコンディショナーを作動させることができます。
- AUTOモードでエアコンディショナーを作動させると、自動的にACモード（6-19）に設定されます。

エアコンディショナー（CLK 63 AMG）

送風温度の調整

③ 送風温度調整スイッチ（高）
④ 送風温度インジケーター
⑨ 送風温度調整スイッチ（低）

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ（高）③を押します。

送風温度インジケーター④の数字が上がります。

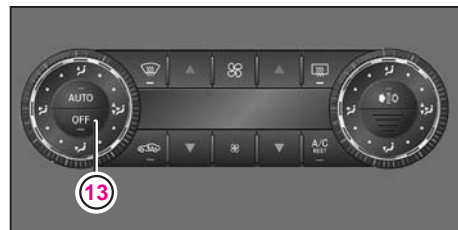
送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ（低）⑨を押します。

送風温度インジケーター④の数字が下がります。

知　識

- 送風温度は左右別々に設定できます。
- 通常は22℃に設定することをお勧めします。
- 送風温度調整スイッチ③と⑨を同時に押すと、送風温度が22℃に設定されます。
- 左右どちらかの送風温度を最高に設定して送風温度インジケーターに "HI" が表示されたときは、もう一方の送風温度が自動的に上がります。

  また、最低に設定して送風温度インジケーターに "LO" が表示されたときは、もう一方の送風温度が自動的に下がります。

エアコンディショナーの停止

⑬ オフスイッチ

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

再度、オフスイッチ⑬を押すと、エアコンディショナーが元の設定で作動します。

知　識

ウインドウやスライディングルーフ（クーペ）、ソフトトップ（カブリオレ）が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

ACモード

⑧ ACスイッチ

ACモードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTOモードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にACモードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

ACモードを解除する

▶ ACスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

ACモードを設定する

▶ 再度、ACスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、除湿 / 冷房された空気が送風されます。

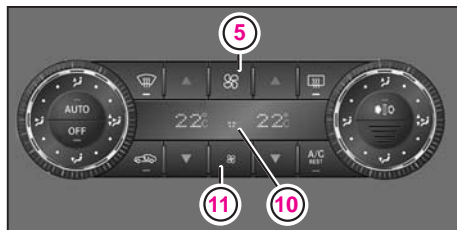
環　境

ACモードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

知　識

- 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているとき送風されます。
- ウインドウやスライディングルーフ（クーペ）、ソフトトップ（カブリオレ）が閉じているときにACモードを解除すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- エアコンディショナーの冷媒が減っているときや、除湿 / 冷房機能が故障しているときにACスイッチ⑧を押すと、表示灯が点滅もしくは消灯したままになり、除湿 / 冷房された空気は送風されません。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- ACモードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風されることがあります。

エアコンディショナー（CLK 63 AMG）

送風量の調整

⑤ 送風量調整スイッチ（強）
⑩ 送風量インジケーター
⑪ 送風量調整スイッチ（弱）

送風量を手動で調整することができます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）⑤を押します。

送風量インジケーター⑩の点灯する数が増えます。

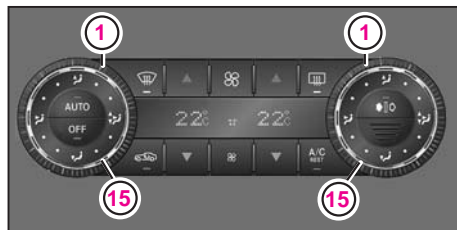
送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑪を押します。

送風量インジケーター⑩の点灯する数が減ります。

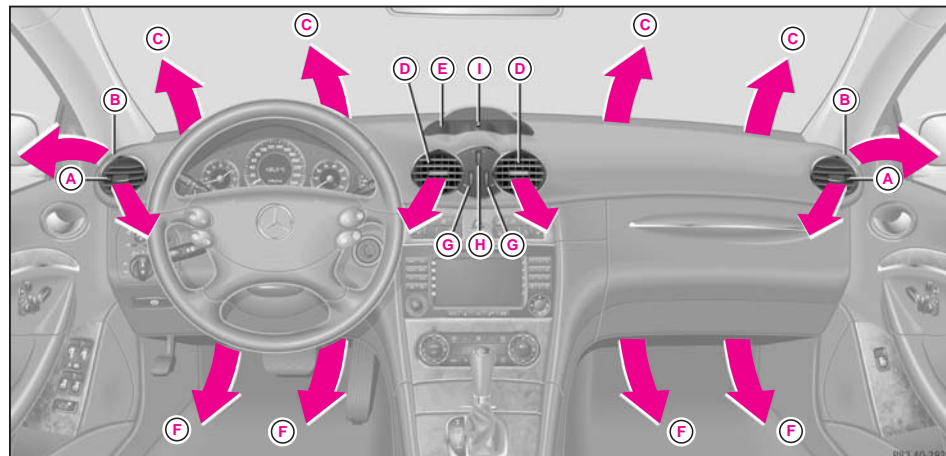
知　識

- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風量調整スイッチを押すと、送風量のAUTOモードが解除されます。
- 送風量調整スイッチを押すと、リアの送風口からの送風量も増減します。

送風口の選択

① 送風口選択ダイヤル
⑮ 送風口インジケーター

送風口を手動で選択することができます。

送風口を選択する

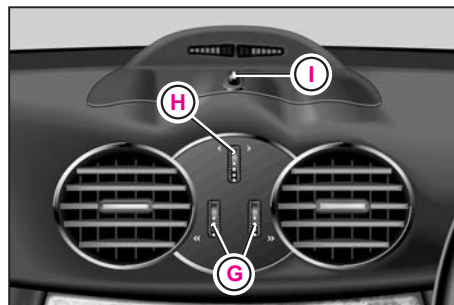
▶ 送風口選択ダイヤル①をまわして、点灯している送風口選択インジケーター⑮を好みの送風口マークに合わせます。

送風口マーク	主に送風される送風口
（マーク）	サイド送風口Ⓐ 中央送風口Ⓓ 中央上部送風口Ⓔ リア送風口（6-23）
（マーク）	フロントウインドウ送風口Ⓒ ドアウインドウ送風口Ⓑ
（マーク）	フロントウインドウ送風口Ⓒ ドアウインドウ送風口Ⓑ サイド送風口Ⓐ 中央送風口Ⓓ 中央上部送風口Ⓔ 足元送風口Ⓕ リア送風口（6-23） リア足元送風口
（マーク）	足元送風口Ⓕ リア足元送風口

エアコンディショナー（CLK 63 AMG）

知　識

- 送風口は左右別々に選択できます。
- 選択した送風口以外の送風口からも多少の送風が行なわれることがあります。
- リア足元送風口はフロントシートの下にあります。
- 点灯している送風口インジケーターをマークの中間に合わせると、組み合わせた送風口から送風されます。
- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風口選択ダイヤルを操作すると、操作した側の送風口選択のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチの表示灯が消灯します。

送風口の開閉

フロントの送風口

Ⓖ サイド送風口開閉ダイヤル
Ⓗ 中央送風口開閉ダイヤル
Ⓘ 中央上部送風口開閉ダイヤル

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒼ Ⓗ を上方に、送風口開閉ダイヤルⒾ を前方にまわすと、徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒼ Ⓗ を下方に、送風口開閉ダイヤルⒾ を後方にまわすと、徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方または後方にまわすと送風口が閉じます。

知　識

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下方または後方にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

リアの送風口

Ⓙ リア送風口
Ⓚ リア送風口開閉ダイヤル

フロントアームレスト後部にリアシート用の送風口があります。

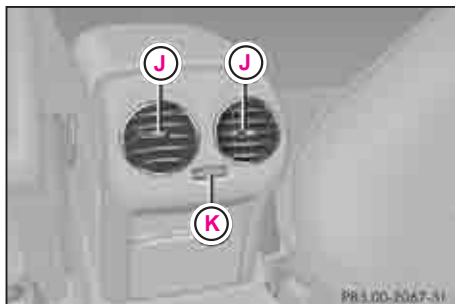
送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⓀを左側にまわすと、徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⓀを右側にまわすと、徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⓀを停止するまで右側にまわすと送風口が閉じます。

知　識

- 送風口開閉ダイヤルを停止するまで右側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。
- 左右のリア送風口からの送風温度は、フロントの左右の送風温度の設定に連動します。
- フロントシートの下にリア足元送風口があります。荷物などで送風口をふさがないでください。

送風口の調整

送風口の風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。

フロントウインドウ送風口Ⓒ、中央上部送風口Ⓔ、ドアウインドウ送風口Ⓑ、足元送風口Ⓕおよびリア足元送風口は、風向きを調整することはできません。

知　識

換気効率を良くするため、中央送風口Ⓓのノブは中央にすることをお勧めします。

エアコンディショナー（CLK 63 AMG）

内気循環モード

⑫ 内気循環スイッチ

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）を開閉することができます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑫を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑫を約2秒以上押し続けると、開いているドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

内気循環モードに設定されているときも、一定時間を経過すると以下のように外気導入に切り替わります。

外気温度が 約5℃以上のとき	約30分後
外気温度が 約5℃以下のとき	約5分後
ACモードを解除しているとき	約5分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 再度、内気循環スイッチ⑫を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑫を約2秒以上押し続けると、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフが前回開いていた位置まで開きます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

注 意 !

- 外気温度が低いときや、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）、ソフトトップ（カブリオレ）を閉じているときに内気循環モードに設定すると、ウインドウが曇りやすくなります。
- 内気循環スイッチでドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを閉じているときは、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。
- 内気循環スイッチでドアウインドウやリアサイドウインドウを開いているときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームなどとの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

知 識

- 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このときは内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

  約30分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。
- AUTOモードやデフロスターモードにするか、ACモードを解除すると、外気導入モードになります。
- 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを、内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

エアコンディショナー（CLK 63 AMG）

チャコールフィルター

⑦ チャコールフィルタースイッチ

排気ガスなど、外気から車内に取り込まれた汚れや臭いを取り除くときに使用します。

チャコールフィルタースイッチの操作に連動して、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）を開閉することができます。

チャコールフィルターを使用する

▶ チャコールフィルタースイッチ⑦を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

チャコールフィルタースイッチ⑦を約2秒以上押し続けると、開いているドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフが閉じます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

知 識

チャコールフィルターを使用しているときに、外気中の一酸化炭素（CO）や窒素酸化物（NOx）の濃度が一定値を超えたときは、自動的に内気循環になります。

チャコールフィルターを停止する

▶ 再度、チャコールフィルタースイッチ⑦を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

チャコールフィルタースイッチ⑦を約2秒以上押し続けると、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフが前回開いていた位置まで開きます。

スイッチから手を放すと、その位置で停止します。

注　意　！

- チャコールフィルターを使用しているときは、自動的に内気循環モードに設定されるため、外気温度が低いときや、ドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）、ソフトトップ（カブリオレ）を閉じているときは、ウインドウが曇りやすくなります。
- チャコールフィルタースイッチでドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを閉じているときは、乗員が身体を挟まれないよう、十分に注意してください。
- チャコールフィルタースイッチでドアウインドウやリアサイドウインドウを開いているときは、ウインドウに身体を寄りかけないでください。ウインドウとドアフレームなどとの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

知　識

- ウインドウの内側が曇るときや、急速に冷房 / 暖房するときは、チャコールフィルターを解除してください。
- デフロスターモードにするか、ACモードを解除すると、チャコールフィルターは作動を停止します。
- ACモードを解除しているときや外気温度が約5℃以下のときは、チャコールフィルターを使用することはできません。
- チャコールフィルタースイッチで閉じたドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやリアサイドウインドウ、スライディングルーフを、チャコールフィルタースイッチの停止操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

デフロスターモード

② デフロスタースイッチ

フロントウインドウやドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ②を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が点灯します。

エアコンディショナーが以下の内容で作動します。

- エアコンディショナーの送風量が上がり、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口から送風されます。
- 内気循環モードに設定していたときは外気導入になります。
- ACモードに設定されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ②を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が消灯します。

デフロスターモードに設定する前の内容でエアコンディショナーが作動します。

ただし、デフロスターモードに設定する前にACモードを解除していたときはACモードに、内気循環モードにしていた場合は外気導入モードになります。

または

▶ AUTOスイッチ⑭を押します。

デフロスタースイッチの表示灯が消灯し、AUTOスイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

知　識

- 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。
- デフロスターモードに設定しているときは、送風温度や送風量などの調整はできません。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、ウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

余熱ヒーター・ベンチレーション

⑧ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ

エンジン停止後に車内を暖房するときに使用します。また、外気温度が高いときは、車内の換気を行ないます。

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせや送風温度は、外気温度やエンジン停止前の送風温度により、自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- 余熱ヒーター・ベンチレーションを使用してから約30分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

知 識

- 送風量は弱で一定に保たれます。
- 外気温度が高いときや、エンジン冷却水の温度が低いときは、暖気の送風が行なわれないことがあります。

リアデフォッガー

⑥ リアデフォッガースイッチ

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンスイッチが2の位置のときに使用できます。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

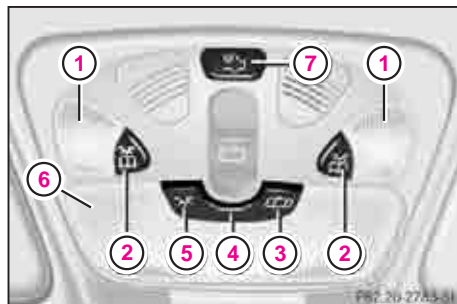
リアデフォッガーは、作動してから約12分以内に自動的に停止します。

注 意 ！

- ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。
- 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

知 識

- 外気温度や走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。
- バッテリーの電圧が低くなるとリアデフォッガーは自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を開始します。
- 外気温度が低いときは、リアデフォッガースイッチを押してもすぐに作動しない場合があります。

ルームランプ

クーペ（スライディングルーフ装備車）

① 読書灯
② 読書灯スイッチ
③ 常時消灯モード
④ 自動点灯モード（中立の位置）
⑤ 手動点灯モード
⑥ ルームランプ
⑦ リアルームランプスイッチ(クーペ)

※ スライディングルーフ非装備車はスイッチの形状などが異なります。

※ カブリオレにリアルームランプは装備されません。

ルームランプの点灯モード

自動点灯モードにする

▶ ルームランプスイッチを中立の位置④にします。

周囲が暗いときに、以下のようにフロントルームランプやリアルームランプ（クーペ）が点灯 / 消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約10秒後に消灯します。

  この機能の設定と解除については**(4-33)**をご覧ください。

- リモコン操作で解錠すると点灯し、約30秒後に消灯します。

- ドアを開閉すると点灯します。

  ◇エンジンスイッチが**2**の位置のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇エンジンスイッチが**0**か**1**の位置のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約10秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約5分後に消灯します。

注 意 ！

車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

ルームランプ

常時消灯モードにする

▶ ルームランプスイッチの③側を押します。

周囲が暗いときに、以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作で解錠する
- ドアを開く

ルームランプの手動操作

フロントルームランプを手動で点灯する

▶ ルームランプスイッチの⑤側を押します。

フロントルームランプが点灯します。

リアルームランプを手動で点灯 / 消灯する（クーペ）

▶ リアルームランプスイッチ⑦を押します。

リアルームランプが点灯 / 消灯します。

読書灯を点灯 / 消灯する

▶ 読書灯スイッチ②を押します。

読書灯①が点灯 / 消灯します。

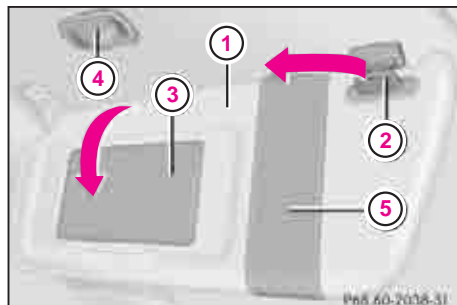
乗降用ランプ

乗降用ランプはドアの下部にあり、乗降時に足元を照らします。

ルームランプが自動点灯モード（6-31）になっていて、周囲が暗いときにドアを開くと点灯し、ドアを閉じると消灯します。

エンジンスイッチが2の位置以外のときは、ドアを開いたままにすると約5分後に消灯します。

エンジンスイッチが2の位置のときは、ドアを開いたままにすると消灯しません。

サンバイザー

① サンバイザー
② フック
③ バニティミラーカバー
④ 照明
⑤ カードホルダー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ サンバイザーをフック②から外します。

▶ サンバイザー①を横にまわします。

注　意　！

サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー③を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

知　識

- バニティミラーの横にはカードホルダー⑤があります。
- 車種や仕様により、横にまわしたサンバイザーを軸方向にスライドすることができます。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザー①を下げます。

▶ バニティミラーカバー③を上方に開きます。

照明④が点灯します。

使用後はカバー③を閉じます。

注　意　！

眩惑を防ぐため、走行中はカバー③を閉じてください。

知　識

サンバイザーをフック②から外すと照明④は点灯しません。

リアブラインド（クーペ）＊

① リアブラインドスイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに操作できます。

リアブラインドを展開する（上げる）

▶ リアブラインドスイッチ①を押します。

リアブラインドを収納する（下げる）

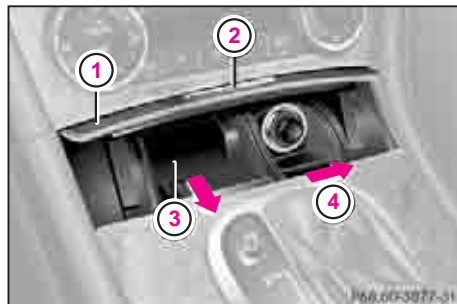
▶ 再度、リアブラインドスイッチ①を押します。

注　意　！

- リアブラインドは展開 / 収納中にスイッチを再度押すとそのときの位置で停止しますが、必ず完全に展開 / 収納した位置で使用してください。中間の位置で使用すると損傷するおそれがあります。
- ブラインドの展開 / 収納の妨げになるような物を周囲に置かないでください。また、身体を挟まないように注意してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

灰皿

フロントの灰皿

① カバー
② マーク
③ 灰皿
④ ノブ

灰皿を開く

▶ カバー①のマーク②を押して開きます。

閉じるときは、カバーを下方に押してロックさせます。

灰皿を取り外す

▶ エンジンを停止し、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にして、ブレーキペダルを踏みながら、セレクターレバーを N に入れます。

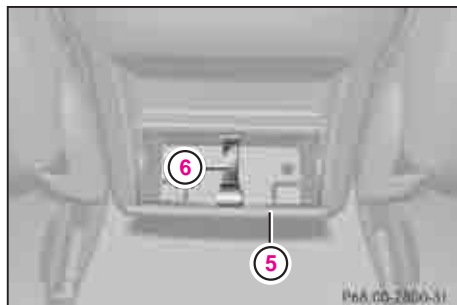
▶ ノブ④を右側に押しながら、灰皿③を取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿③を元の位置に合わせて、押し込みます。

注　意　！

- 開くときはカバーの上側を押さないでください。カバーの開閉機構を損傷するおそれがあります。
- 灰皿を取り外すときは、必ずエンジンを停止して、パーキングブレーキを確実に効かせてください。

リアの灰皿

⑤ カバー
⑥ スプリング

灰皿を開く

▶ カバー⑤を手前に開きます。

閉じるときは、カバーを前方に押します。

灰皿を取り外す

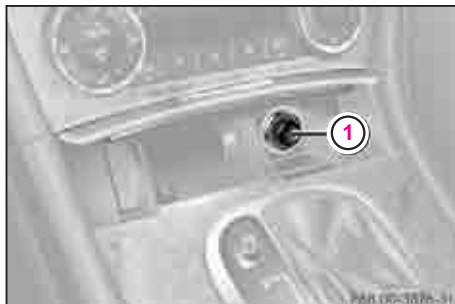
▶ スプリング⑥を押しながら、灰皿を手前に引きます。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿底部を差し込み、スプリング⑥を押しながら、灰皿を押し込みます。

注　意　！

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

ライター

① ライター

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ ライター①を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

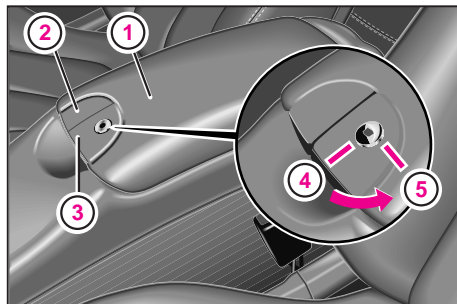
警　告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意　！

- 安全のため、子供が乗車するときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、必ずDC12V、最大消費電流15A以下（最大消費電力180W以下）の規格にあった純正アクセサリーのみを使用してください。ヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

小物入れ

フロントアームレストの小物入れ

① フロントアームレスト
② レバー（上部小物入れ）
③ レバー（下部小物入れ）
④ 解錠位置
⑤ 施錠位置

警　告

走行中は必ず小物入れのカバーやアームレストを閉じてください。急ブレーキ時や衝突時などに収納物が飛び出して、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

- アームレストが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。アームレストや収納物を損傷するおそれがあります。
- 小物入れには食料品を収納しないでください。

上部の小物入れを開く

▶ レバー②を引いてカバーを開きます。

上部の小物入れを閉じる

▶ カバーを下げてロックします。

下部の小物入れを開く

▶ レバー③を引きながら、アームレスト①を引き上げます。

下部の小物入れにはトレイがあり、使用するときは引き出します。

下部の小物入れを閉じる

▶ アームレスト①を下げてロックします。

知　識

下部の小物入れ内のトレイは、引き抜いて取り外すことができます。

小物入れの施錠

フロントアームレストのキーシリンダーにエマージェンシーキー（3-10）を差し込んで施錠することができます。

小物入れを施錠する

▶ キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んで、施錠位置⑤にまわします。

小物入れを解錠する

▶ キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んで、解錠位置④にまわします。

携帯電話の接続

フロントアームレスト上部の小物入れには携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

携帯電話を取り付ける

▶ 携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。

携帯電話を取り外す

▶ コネクター左右のロック解除ボタンを押しながら、携帯電話をコネクターから取り外します。

注　意　！

携帯電話がコネクターに接続できないときは、無理に取り付けないでください。携帯電話やアームレストのカバーを損傷するおそれがあります。

※電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をお読みください。

カップホルダー

注　意　！

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。
- カップホルダーに飲み物の容器以外のものを置かないでください。
- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。
- カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

  スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

フロントのカップホルダー

左ハンドル車
① カバー

カップホルダーを使用する

▶ カバー①を軽く押します。

カップホルダーがポップアップします。

カップホルダーを閉じる

▶ カバー①を押してロックします。

リアアームレストのカップホルダー(クーペ)

② カップホルダー

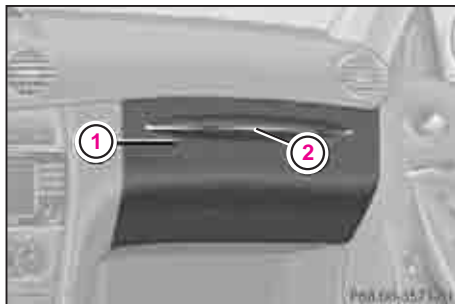
カップホルダーを使用する

▶ アームレストを引き出して水平にします。

▶ カップホルダー②を軽く押します。カップホルダーが前方にスライドします。

カップホルダーを収納する

▶ カップホルダー②を押し込んでロックします。

グローブボックス

左ハンドル車
① カバー
② レバー

グローブボックスを開く

▶ レバー②を引いて開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー①を押してロックします。

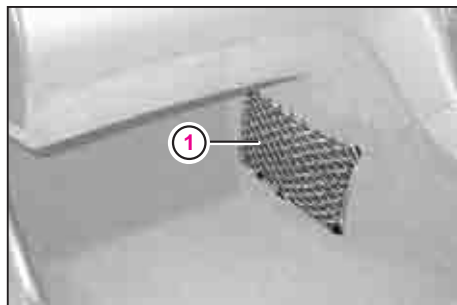
注 意 !

- 走行中は、グローブボックスのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や衝突時などに収納物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。
- 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。
- グローブボックス内には眼鏡入れがあります。眼鏡入れを開いたままグローブボックスを閉じないでください。眼鏡入れを損傷するおそれがあります。

知 識

- グローブボックス内には外部音声入力端子、CDチェンジャーがあります。詳しくは別冊「マルチファンクションコントローラー 取扱説明書」をご覧ください。
- エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。
- リモコン操作で解錠 / 施錠すると、グローブボックスも連動して解錠 / 施錠されます（カブリオレ)。

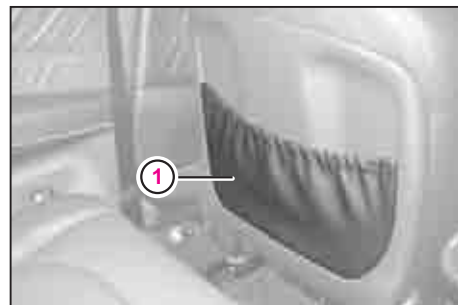
収納ネット / シートバックポケット

収納ネット

右ハンドル車
① 収納ネット

助手席の足元に新聞や雑誌などを収納できるネット①を備えています。

注　意　!

- 収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納物が収納ネットからはみ出さないようにしてください。

シートバックポケット

① シートバックポケット

フロントシートの背面にシートバックポケット①があります。

注　意　!

- シートバックポケットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- 収納物がポケットからはみ出さないようにしてください。

アシストグリップ（クーペ）

ドアウインドウとリアサイドウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

警　告

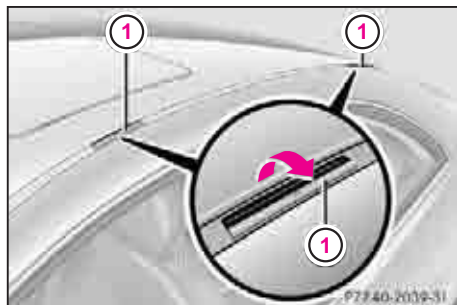
SRSウインドウバッグ＊の作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

注　意　！

- アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。
- 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。
- コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ルーフラック（クーペ）

① カバー

ルーフラックはダイムラー社の純正品および指定品の使用をお勧めします。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ルーフラックを取り付ける

▶ カバー①を外側に開きます。

▶ ルーフラックを取り付けます。

警　告

ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

注　意 ！

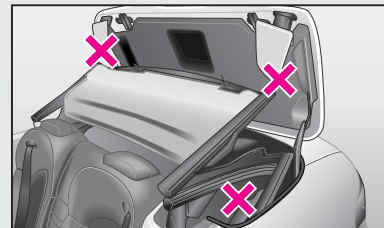
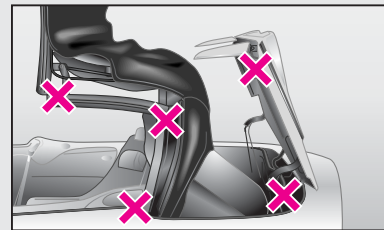
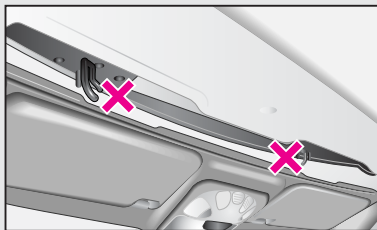
- ルーフの最大積載量(約100kg)を超えないよう注意してください。
- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。
- 純正品および指定品以外のルーフラックを取り付けると、車を損傷するおそれがあります。
- ルーフラックを取り付けるときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。
  - ◇ スライディングルーフ＊をチルトアップさせたときに接触しないこと
  - ◇ トランクを開いたときに接触しないこと

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ソフトトップ（カブリオレ）

ソフトトップを開閉するときは、必ず以下の事項を守ってください。

警　告

- ソフトトップを開閉するときは、ソフトトップやソフトトップ収納室カバー、ソフトトップのリンケージやヒンジ、ウインドウなど、作動する部分に絶対に触れないでください（図の×印の部分など）。身体を挟まれてけがをするおそれがあります。また、それらが作動する範囲に障害物がないことも確認してください。ソフトトップや関連部品などを損傷するおそれがあります。

ソフトトップ（カブリオレ）

- 走行速度が約30km/h以上のときはソフトトップスイッチを操作することはできません。このときは警告音が1回鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ﾃｲｼﾁｭｳﾉﾐ ｿｳｻｶﾉｳﾃﾞｽ"と表示されます。
- 走行速度が約30km/h以下のときはソフトトップの操作ができますが、安全のため必ず完全に停車した状態で操作してください。
- 万一、身体や物が挟まれそうになったときは、ソフトトップスイッチから手を放してください。ソフトトップの作動が停止します。
- ソフトトップを開閉するときは、リアシートに乗車しないでください。開閉中のソフトトップに身体が当たり、けがをするおそれがあります。
- リアシートに乗車するときは、ソフトトップの作動が完全に終わってからにしてください。また、必ずリアヘッドレストを完全に引き上げてください。
- ソフトトップは必ず完全に閉じるか、または完全に開いた状態にしてください。
- ソフトトップの開閉操作中にソフトトップスイッチから手を放すと、ソフトトップの作動が停止します。そのまま約7分が経過したとき、またはエンジンスイッチを**0**か**1**の位置にしたときは約20秒以内にソフトトップが下がります。身体を挟まれないよう十分に注意してください。

  ◇ このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ｶﾞ ｻｶﾞﾘﾏｽ!"と表示されます。ソフトトップが開 / 閉どちらの方向に下がるかは、ソフトトップが停止した位置によって異なります。

  ◇ キーの解錠 / 施錠ボタンでソフトトップの開閉操作（**3-12、14**）をしているときにボタンから手を放すと、ソフトトップの作動が停止し、約20秒以内にソフトトップが下がります。

- ソフトトップの開閉操作が完了していないときは、マルチファンクションディスプレイに"ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ｶﾞ ｻﾄﾞｳﾁｭｳﾃﾞｽ"と表示されます。このときに走行を開始して走行速度が約30km/h以上になると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ / ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ"と表示されます。必ず停車して、ソフトトップを完全に開閉してください。

注 意 ！

- ソフトトップ収納室カバーの上に腰をかけたり、物を置かないでください。
- ソフトトップを開閉するときは、ソフトトップや関連部品などの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。
  - ◇ 上方に十分な空間があることを確認してください。
  - ◇ トランク内の荷物がラゲッジカバーの下にあり、ラゲッジカバーを押し上げていないことを確認してください（3-46）。
  - ◇ ラゲッジカバーが閉じていることを確認してください。
  - ◇ ソフトトップ収納室カバーの上に物が置いていないことを確認してください。
  - ◇ オートマティックロールバーが作動していないことを確認してください。
  - ◇ トランクを閉じてください。
  - ◇ ソフトトップが凍結していないことを確認してください。
  - ◇ ソフトトップが汚れていたり濡れていないことを確認してください。
  - ◇ 車内にソフトトップが接触するおそれのある物を置かないでください。
- ソフトトップ開閉中にトランクハンドルや運転席ドアのトランクオープナースイッチを操作しないでください。
- ソフトトップ収納室カバーが完全に閉じない、ソフトトップがフロントウインドウ上部にロックされないなど、ソフトトップの開閉システムに異常が発生したときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- バッテリーあがりを防ぐため、ソフトトップを操作するときはエンジンを始動してください。
- 車を離れるときは、盗難をさけるため、必ずソフトトップやドアウインドウ、リアサイドウインドウを閉じ、ドアやトランク、グローブボックスが施錠されていることを確認してください。

ソフトトップ（カブリオレ）

知　識

- リモコン操作で車外からソフトトップの開閉ができます（3-12、14）。
- ソフトトップの作動に連動して、ドアウインドウとリアサイドウインドウも動きます。
- オートマティックロールバー（2-24）が作動したときは、ソフトトップの開閉はできません。
- トランク内のラゲッジカバー（3-46）が閉じていないときにソフトトップを開閉しようとすると、マルチファンクションディスプレイに"ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞｶﾊﾞｰ ｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!"と表示されます。
- ソフトトップを開閉する前に、必ずトランクが閉じていることを確認してください。トランクが閉じていないときにソフトトップを開閉しようとすると、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。
- 短時間のうちに何度もソフトトップの開閉をくりかえすと、油圧装置を保護するため、ソフトトップが作動しなくなることがあります。

  一度エンジンスイッチを**0**の位置にして、約10分以上待ってからエンジンを始動し、ソフトトップを開閉してください。

ソフトトップの開閉

エンジンスイッチが**2**の位置のとき、センターコンソールのソフトトップスイッチで操作できます。

① ソフトトップスイッチ

ソフトトップを開く

▶ セレクターレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ トランク内のラゲッジカバー（3-46）が閉じていることを確認します。

▶ トランクを閉じます。

▶ ソフトトップスイッチ①を矢印の方向に引いて、すべての作動が終了するまで保持します。

- リアヘッドレストが下がり、ドアウインドウとリアサイドウインドウが開きます。
- マルチファンクションディスプレイに“ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ｶﾞ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ ﾃﾞｽ”と表示されます。
- ソフトトップの後部が上がり、ソフトトップ収納室カバーが開きます。
- フロントウインドウ上部のロックが外れ、ソフトトップが後方に移動して収納されます。
- ソフトトップ収納室カバーが閉じます。
- ソフトトップスイッチを引き続けると、ドアウインドウとリアサイドウインドウが閉じます。

▶ ソフトトップ収納室カバーが確実に閉じていることを確認します。

注 意 ！

ソフトトップが濡れているときは、開く前にソフトトップを乾燥させてください。車内やソフトトップ収納室に水が入るおそれがあります。

① ソフトトップスイッチ

ソフトトップを閉じる

▶ セレクターレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ トランクが閉じていることを確認します。

▶ ソフトトップスイッチ①を矢印の方向に押して、すべての作動が終了するまで保持します。

- リアヘッドレストが下がります。また、ドアウインドウが少し下がり、リアサイドウインドウが開きます。
- マルチファンクションディスプレイに "ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ｶﾞ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ ﾃﾞｽ" と表示されます。
- ソフトトップ収納室カバーが開きます。
- ソフトトップが前方に移動し、フロントウインドウ上部にロックされます。
- ソフトトップの後部が上がり、ソフトトップ収納室カバーが閉じます。
- ソフトトップの後部が下がり、ロックされます。
- ソフトトップスイッチを押し続けると、ドアウインドウとリアサイドウインドウが閉じます。

▶ ソフトトップがフロントウインドウ上部にロックされ、ソフトトップ後部とソフトトップ収納室カバーが完全に閉じていることを確認します。

注　意！

ソフトトップを閉じる前に、サンバイザーがフックから外れていないことやバニティミラーのカバーが開いていないことを確認してください。

ソフトトップスイッチでドアウインドウとリアサイドウインドウを開閉する

エンジンスイッチが**2**の位置のとき、ソフトトップスイッチでドアウインドウとリアサイドウインドウの開閉ができます。

注　意！

ドアウインドウとリアサイドウインドウを開閉するときは、ウインドウに身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ソフトトップスイッチから手を放してください。ウインドウの開閉作動が停止します。

ドアウインドウとリアサイドウインドウを開く

▶ ソフトトップスイッチ①を素早く2度押して保持します。

ドアウインドウとリアサイドウインドウが開きます。

スイッチから手を放すと、ウインドウはその位置で停止します。

ドアウインドウとリアサイドウインドウを閉じる

▶ ソフトトップスイッチ①を素早く2度引いて保持します。

ドアウインドウとリアサイドウインドウが閉じます。

スイッチから手を放すと、ウインドウはその位置で停止します。

ソフトトップが閉じないとき

ソフトトップスイッチやリモコン操作でソフトトップを閉じることができないときは、以下の点を確認してください。

- トランク内のラゲッジカバーが閉じていること
- オートマティックロールバーが作動していないこと
- トランクが閉じていること
- バッテリー電圧が低下していないこと

  エンジンを始動してください。

それでも閉じることができず、どうしてもソフトトップを閉じる必要がある場合は、以下の作業を行ないます。

警　告

ソフトトップを手動で閉じる作業は容易ではありません。また非常に大きな力が要求されます。けがをしたり、車を損傷するおそれがありますので、どうしても必要なときにだけ行なってください。それ以外のときは指定サービス工場に連絡してください。

注　意 ！

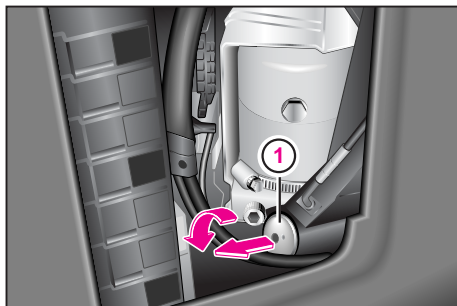
- 作業は必ず、大人2人以上で行なってください。
- 作業をするときは腕時計やアクセサリーなどを外してください。けがをしたり、車を損傷するおそれがあります。
- 作業中は指や手をけがしないように、十分注意してください。

▶ セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせます。

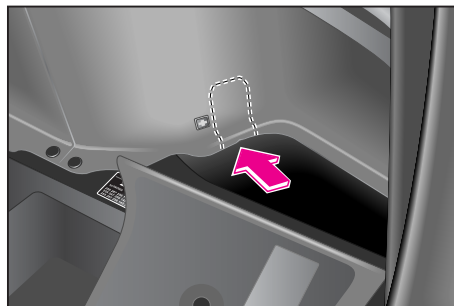
▶ ドアウインドウとリアサイドウインドウを全開にします。

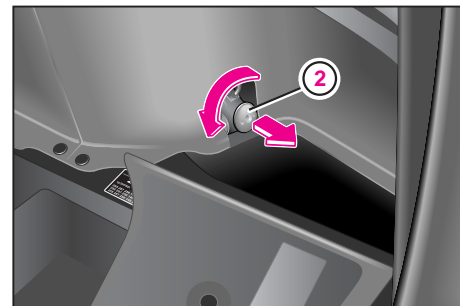
▶ リアヘッドレストを下げます。スイッチ操作で下がらないときは手動で下げます（2-28）。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

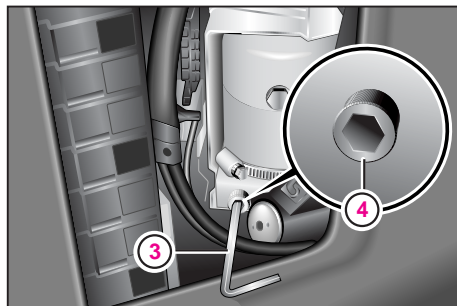
▶ トランクを開きます。

① 油圧解除ノブ（トランクルーム左側）

- トランクルーム左側にあるヒューズボックスのカバー（**7-37**）を開きます。
- 内部にある油圧解除ノブ①を引きながら、反時計回りに約90度まわします。

  油圧解除ノブ①が引かれたままの状態になっていることを確認してください。

点線：内張りの切れ目

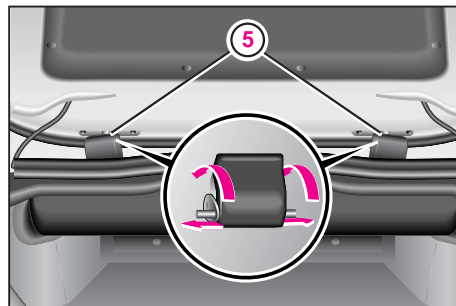
- トランクルーム右側の救急セットを取り出します（**7-4**）。
- 図の矢印の部分に指をかけ、切れ目に沿ってトランクルームの内張りを上方にはがします。

② 油圧解除ノブ（トランクルーム右側）

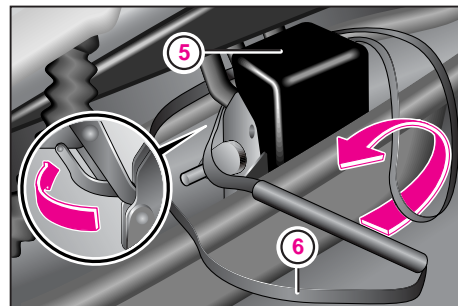
- トランクルームの内張りをはがしたところにある油圧解除ノブ②を引きながら、反時計回りに約90度まわします。

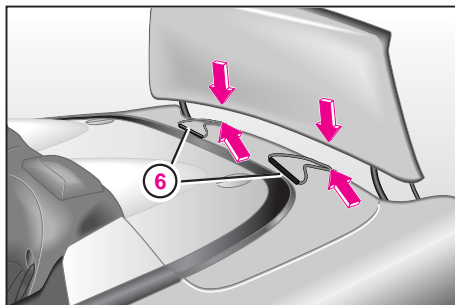
  油圧解除ノブ②が引かれたままの状態になっていることを確認してください。

③ 六角レンチ
④ バルブスクリュー

▶ 車載の六角レンチ③で、油圧ポンプのバルブスクリュー④を反時計回りに約1回転半、停止するまでまわします。

注 意 ！

バルブスクリューを六角レンチでまわすときは、ゆっくり停止するまでまわし、停止したらそれ以上まわさないでください。車を損傷するおそれがあります。また、高圧のオイルが吹き出してけがをするおそれがあります。

⑤ ヒンジ

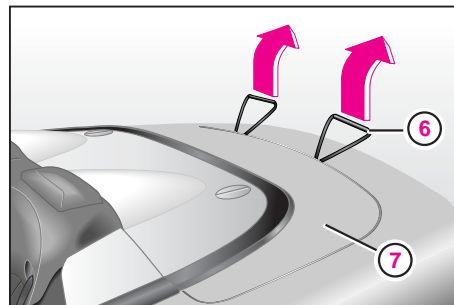
▶ トランク開口部のヒンジ⑤(2カ所)のレバーの両端をつまみ、横に引きながら前方にまわします。

⑤ ヒンジ
⑥ ストラップ

▶ 車載工具と一緒に2本車載されているストラップ⑥を用意し、図のようにヒンジ⑤の裏側に通します。

⑥ ストラップ

▶ ストラップ⑥の握りの部分を反対側の輪に通し、ソフトトップ収納室カバーの上に出します。

▶ ストラップが干渉するところ（矢印の部分）をガムテープなどで保護します。

注　意　！

- ストラップが干渉するところ（矢印の部分）は、必ずガムテープなどで保護してください。保護をしないで操作を行なうと、車を損傷するおそれがあります。
- トランクが開いているときは、ストラップを引かないでください。

⑥ ストラップ
⑦ ソフトトップ収納室カバー

▶ ストラップ⑥を外側に出した状態でトランクを閉じます。

注　意　！

作業が終了するまではトランクを開くことができなくなるので、六角レンチをトランク内に残さないように注意してください。これ以降の作業ができなくなります。

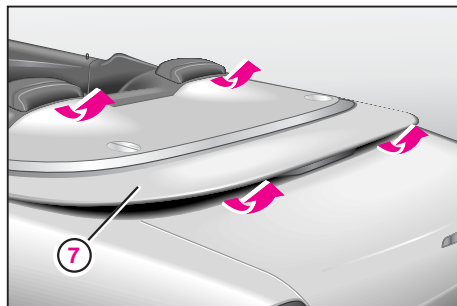
▶ ストラップ⑥をそれぞれ1名ずつが握り、矢印の方向に強く引きます。

ソフトトップ収納室カバー⑦の後部が上がります。

注　意　！

- トランクが開いた状態で、ストラップを引かないでください。ソフトトップ収納室カバーやトランクを損傷します。
- ストラップを引くには、非常に大きな力が必要になります。

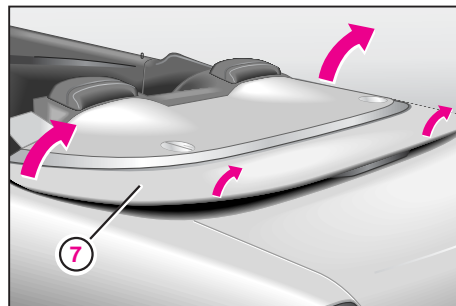
  これ以降の作業は、必ず大人2人以上で行なってください。

ソフトトップ（カブリオレ）

⑦ ソフトトップ収納室カバー

▶ ストラップ⑥を外します。

▶ 図の矢印の部分を持ちながら、ソフトトップ収納室カバー⑦を停止するまでしっかりと後方に引き上げます。

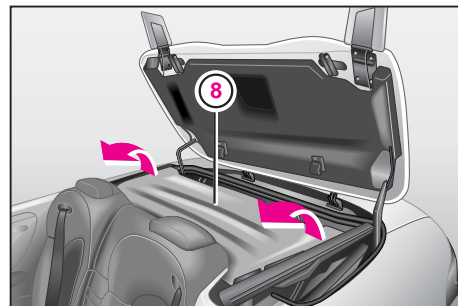
注 意 !

ソフトトップ収納室カバーが確実に後方に引き上げられていないと、このあとの作業でソフトトップ収納室カバーの後端とトランクが接触して、車を損傷するおそれがあります。

⑦ ソフトトップ収納室カバー

▶ ソフトトップ収納室カバー⑦の前側部を持ち、ななめ後方に引き上げて、ソフトトップ収納室カバーを開きます。

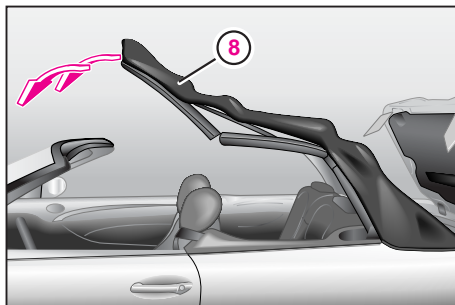
このとき、ソフトトップ収納室カバー⑦の後端もななめ後方に引くようにします。

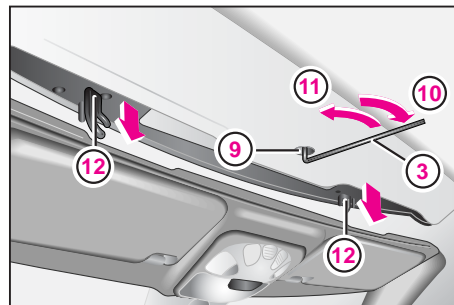
警 告

これ以降の作業は、手や指を挟んでけがをしないよう十分に注意してください。また、車を損傷しないよう、細心の注意をはらって作業を続けてください。

⑧ ソフトトップ

▶ ソフトトップ⑧を引き出します。

注 意 !

ソフトトップの両端のフレーム以外に触れないでください。リンケージやヒンジに触れると、けがをしたり、車を損傷するおそれがあります。

⑧ ソフトトップ

▶ ソフトトップ⑧をフロントウインドウ上部とかみ合う少し手前の位置まで閉じます。

③ 六角レンチ
⑨ ロックスクリュー
⑩ ⑪ 操作方向
⑫ ロック部

▶ ソフトトップ前部中央のロックスクリュー⑨のカバーをドライバーなどで外します。

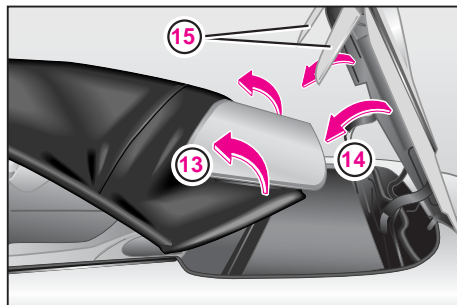
▶ 六角レンチ③を使って、ロックスクリュー⑨を⑩の方向に停止するまでまわします。

▶ ソフトトップのロック部⑫をフロントウインドウ上部にかみ合わせます。

▶ ロックスクリュー⑨を⑪の方向に停止するまでまわします。

ソフトトップが確実にロックされたことを確認してください。

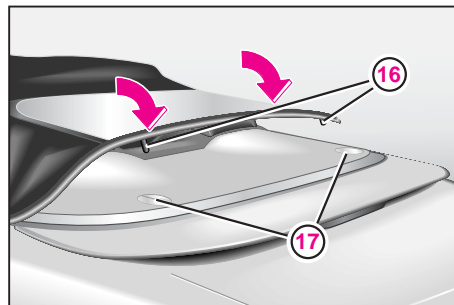
注　意　！

ロックスクリューを六角レンチでまわすときは、ゆっくり停止するまでまわし、停止したらそれ以上まわさないでください。車を損傷するおそれがあります。

⑬ ⑭ 操作方向
⑮ フラップ

▶ ソフトトップ後部を⑬の方向に上げて保持します。

▶ 左右のフラップ⑮の動きに注意しながら、ソフトトップ収納室カバーを⑭の方向に閉じます。

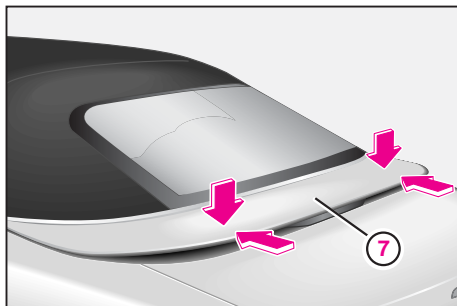
注 意 ！

ソフトトップ収納室カバーのフラップ部分の取り扱いには特に注意してください。フラップ部分やリンケージなどを損傷するおそれがあります。

⑯ ソフトトップ固定用フック
⑰ ソフトトップ固定用キャッチャー

▶ ソフトトップ後部をゆっくり下げます。

▶ 左右のソフトトップ固定用フック⑯を、ソフトトップ固定用キャッチャー⑰に確実に差し込みます。

注 意 ！

- 無理にソフトトップ後部を押さないでください。車を損傷するおそれがあります。
- ソフトトップ固定用フックをソフトトップ固定用キャッチャーに差し込むときは、ソフトトップ収納室カバーの前方が下がりきっていることを確認してください。下がりきっていないと、フックやソフトトップ収納室カバーを損傷するおそれがあります。

⑦ ソフトトップ収納室カバー

▶ ソフトトップ収納室カバー⑦を前方に押してから、下方に押します。

知　識

ソフトトップ収納室カバーが確実に閉じていないと、トランクを開くことができません。

▶ 再度、六角レンチでソフトトップ前部中央のロックスクリューを⑪の方向**（6-57）**にまわして、確実にロックされていることを確認してください。

注　意！

- ロックスクリューを六角レンチでまわすときは、ゆっくり停止するまでまわし、停止したらそれ以上まわさないでください。車を損傷するおそれがあります。
- この作業は、あくまでも非常時の緊急作業です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 作業後にトランクを開くことができないときは、ソフトトップ収納室カバーを再度下方に押してください。

  また、エマージェンシーキーによるトランクの解錠操作は絶対に行なわないでください。トランクやソフトトップ収納室カバーを損傷するおそれがあります。

ドラフトストップ（カブリオレ）

ドラフトストップは、ソフトトップを開いてオープントップで走行するときに生じる風を整流するための装備です。車内への風の巻き込みを減少させます。

使用しないときは付属のケースに入れて、トランク内などに保管してください。

警　告

- ドラフトストップは必要なときだけ使用するようにしてください。以下の場合はドラフトストップの上部を折りたたんで走行するか、ドラフトストップを取り外してください。
  - ◇ 後方視界が十分に確保できない場合
  - ◇ 周囲が暗い場合
- ドラフトストップを使用しているときは、リアシートに乗車することはできません。
- ドラフトストップの上に物を置かないでください。
- ソフトトップを閉じて走行するときは、ドラフトストップを使用しないでください。後方視界の妨げになるおそれがあります。

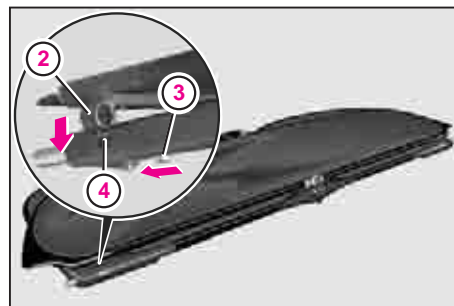
注　意　！

- ドラフトストップを装着したときなど、ルームミラーが後続車のライトに照射されない場合は、ミラーの自動防眩機能は作動しません。
- ドラフトストップを装着していても、ソフトトップの開閉には支障ありませんが、必要のないときはドラフトストップを使用しないでください。
- ドラフトストップを装着しているときは、シートのバックレストがドラフトストップに当たらないように注意してください。

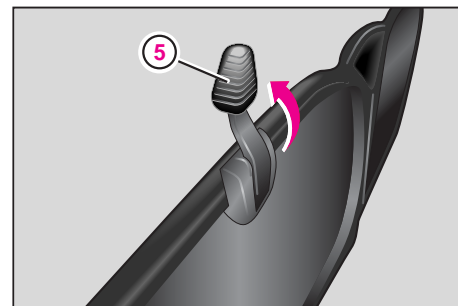
① ドラフトストップ

ドラフトストップを取り付ける

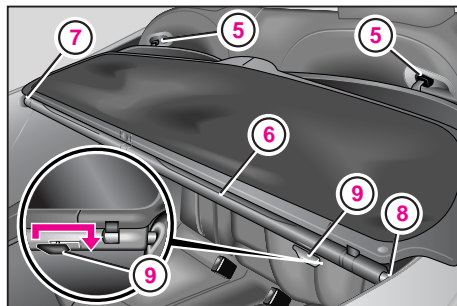
▶ ドラフトストップ①をケースから取り出します。

▶ 図のようにドラフトストップ①を展開して、合わせます。

② リング
③ ノブ
④ 取り付け部

▶ ノブ③が矢印と反対の方向に引かれていることを確認します。

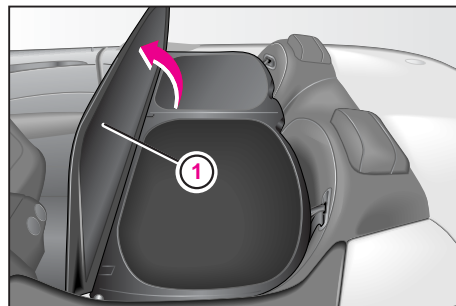
▶ リング②を取り付け部④に合わせて押し込みます。ノブ③が矢印の方向に動いてロックされます。

⑤ 固定フック

▶ 左右2カ所の固定フック⑤を起こします。

ドラフトストップ（カブリオレ）

⑤ 固定フック
⑥ バー
⑦ 取り付け部
⑧ ロック部
⑨ ロックノブ

▶ バー⑥の右端部を取り付け部⑦に合わせます。

▶ 固定フック⑤をリアシートの取り付け部に差し込みます。

▶ バー⑥の左端部とロック部⑧を合わせ、矢印の方向にロックノブ⑨を動かしてロックします。

① ドラフトストップ

▶ ドラフトストップ①の上部を引き起こします。

ドラフトストップを取り外す

▶ ドラフトストップ①の上部を折りたたみます。

▶ ロックノブ⑨を取り付けのときと逆の方向に動かして、ロックを外します。

▶ ドラフトストップ①を車から取り外します。

▶ 左右2カ所の固定フック⑤を元の位置に戻します。

▶ ノブ③を、取り付けのときとは逆の方向に動かして、ロックを外します。

リング②が外れます。

▶ ドラフトストップ①を折りたたみます。

▶ ケースに入れて、トランク内などに保管します。

事故・故障のとき

警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーを N に入れて、パーキングブレーキを解除し、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

セレクターレバーを N に入れられないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

注　意 ！

踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

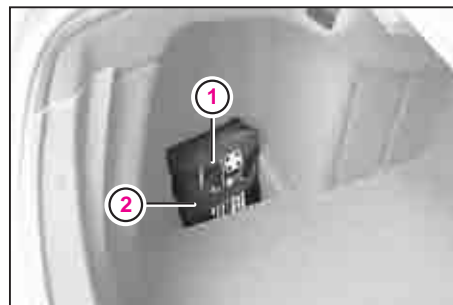
非常信号用具

懐中電灯をドアポケットに備えています。

知 識

- 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

救急セット

クーペ

① 救急セット
② ストラップ

トランク左側の図の位置に収納されています。

▶ ストラップ②を外して、救急セット①を取り出します。

知 識

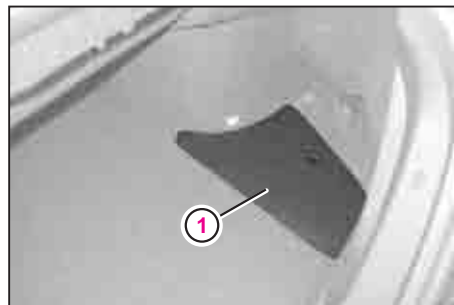
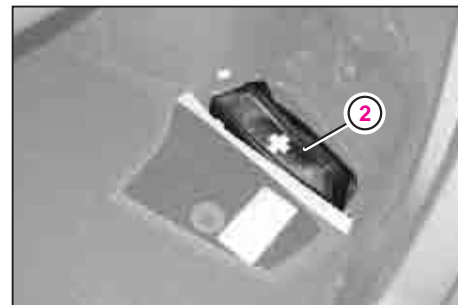
救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

救急セット

カブリオレ

救急セットはトランク右側のカバーの下、またはトランク右側にストラップで固定されています。

知　識

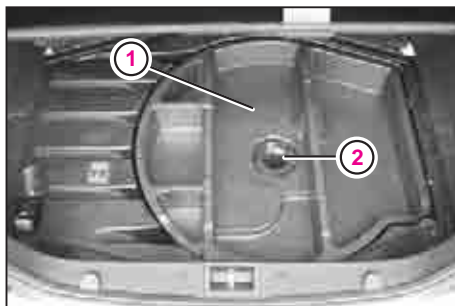
救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

① カバー

② 救急セット

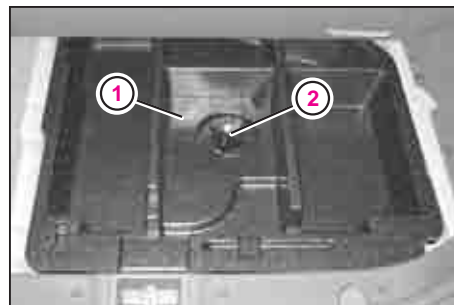
カバーの下の救急セットを取り出す

▶ トランク右側のカバー①を開きます。

図の位置に収納されています。

車載工具

CLK 200 / CLK 350

トランクフロアボードを開いた状態
① ラゲッジトレイ
② スクリュー

CLK 350 カブリオレ

トランクフロアボードを開いた状態
① ラゲッジトレイ
② スクリュー

車載工具はラゲッジトレイの下に収納されています。

車載工具を取り出す

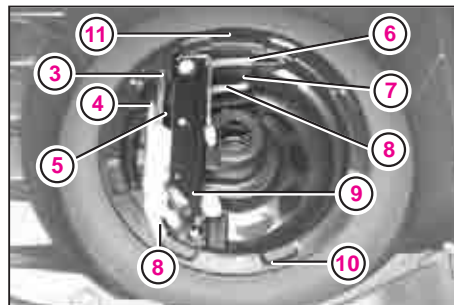
▶ トランクフロアボードを開きます(3-44)。

▶ スクリュー②を反時計回りにまわして取り外します。

▶ ラゲッジトレイ①を取り外します。

車載工具

注　意　!

トランクフロアボードのフックをトランク開口部の縁にかけた状態でトランクを閉じないでください。フックやシール部を損傷します。

ラゲッジトレイを取り外した状態

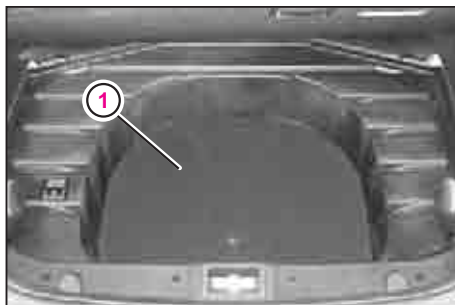
③ ホイールレンチ
④ けん引フック
⑤ 輪止め
⑥ ガイドボルト
⑦ ストラップ＊
⑧ 手袋
⑨ ジャッキ
⑩ トレイ
⑪ トレイの収納方向表示

知　識

車載工具が入っているトレイ⑩を収納するときは、トレイの収納方向表示⑪が車のフロント方向に向くようにしてください。

※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤ用ホイールに添付されているか、トレイに収納されています。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

CLK 63 AMG

トランクフロアボードを開いた状態
① カバー

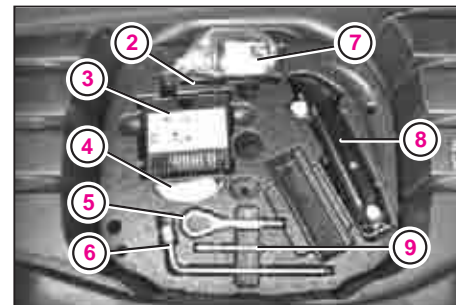
車載工具はトランクフロアボードの下に収納されています。

車載工具を取り出す

▶ トランクフロアボードを開きます**(3-44)**。

▶ カバー①を取り出します。

注　意　!

トランクフロアボードのフックをトランク開口部の縁にかけた状態でトランクを閉じないでください。フックやシール部を損傷します。

カバーを取り出した状態
② 輪止め
③ 電動エアポンプ
④ 手袋
⑤ けん引フック
⑥ ホイールレンチ
⑦ タイヤフィット
⑧ ジャッキ
⑨ ガイドボルト

※CLK 63 AMGには、応急用スペアタイヤは装備されていません。
パンクしたときは、タイヤフィットでタイヤを修理します**(7-21)**。

※電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

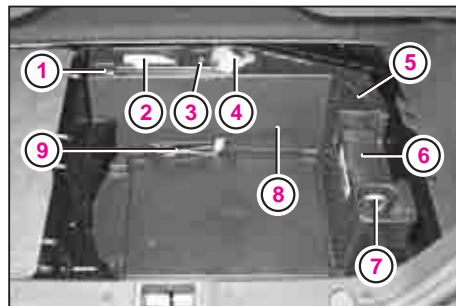
CLK 63 AMG カブリオレ

車載工具はトランクフロアボードの下に収納されています。

車載工具を取り出す

▶ トランクフロアボードを開きます(3-44)。

注 意 !

トランクフロアボードのフックをトランク開口部の縁にかけた状態でトランクを閉じないでください。フックやシール部を損傷します。

トランクフロアボードを開いた状態

① ホイールレンチ
② ストラップ
③ ガイドボルト
④ タイヤフィット
⑤ 輪止め
⑥ 電動エアポンプ
⑦ けん引フック
⑧ トレイ
⑨ ジャッキ

ジャッキ⑨はトレイ⑧の下に収納されています。

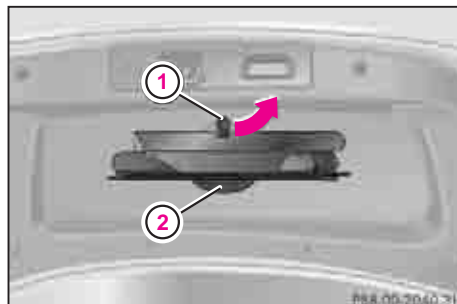
ジャッキを取り出す

▶ トレイ⑧を持ち上げ、ジャッキを取り出します。

※ CLK 63 AMG カブリオレには、応急用スペアタイヤは装備されていません。パンクしたときは、タイヤフィットでタイヤを修理します(7-21)。

※電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

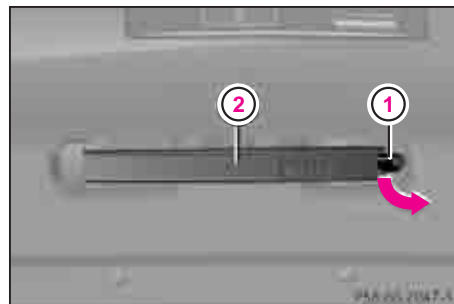
停止表示板

クーペ

① ロックノブ
② ホルダー

停止表示板はトランクリッドの裏側に収納されています。

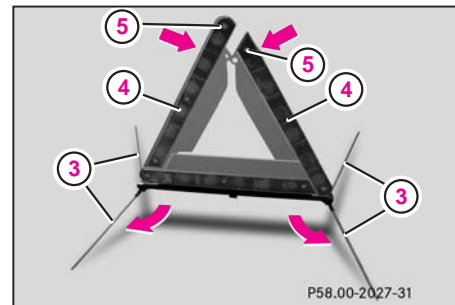
停止表示板を取り出す

▶ ロックノブ①を矢印の方向にまわして、ホルダー②から停止表示板を取り外します。

カブリオレ

① ロックノブ
② 停止表示板ケース

停止表示板を取り出す

▶ ロックノブ①を矢印の方向にまわして、停止表示板ケース②を取り外します。

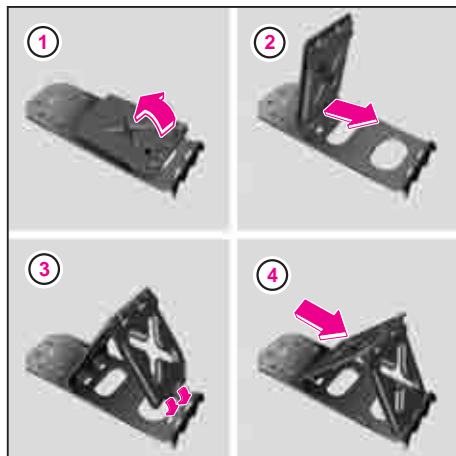
▶ 停止表示板ケース②から停止表示板を取り出します。

③ スタンド
④ 反射板
⑤ フック

停止表示板を組み立てる

▶ スタンド③を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板④を開いて三角形をつくり、頂点のフック⑤をかみ合わせます。

※停止表示板の形状が異なる場合があります。

輪止め

輪止めは車載工具など **（7-5〜）** とともに収納されています。

輪止めは図のように組み立てます。

注 意 ！

輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

パンクしたとき（CLK 200 / CLK 350）

警　告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

注　意！

- 車速感応ドアロック（3-36）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。
- タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

知　識

- 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認します。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

▶ 車載工具（7-5）から、輪止め、ジャッキ、ホイールレンチ、ガイドボルトを準備します。

パンクしたとき（CLK 200 / CLK 350）

輪止めをする

▶ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

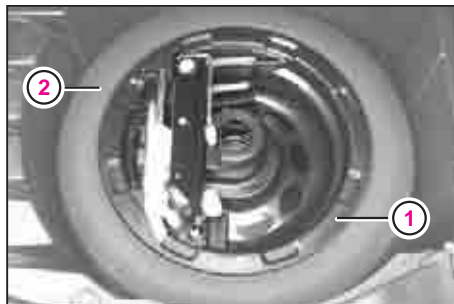
やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、以下のように輪止めをします。

◇ 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。

◇ 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

知　識

輪止めは1個車載されています。もう1個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

応急用スペアタイヤを取り出す

ラゲッジトレイを取り外した状態
① トレイ
② 応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤは、ラゲッジトレイの下に収納されています。

▶ トランクフロアボードを開きます(3-44)。

▶ ラゲッジトレイを取り外します(7-5)。

▶ 車載工具などが収納されているトレイ①を取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤ②を取り出します。

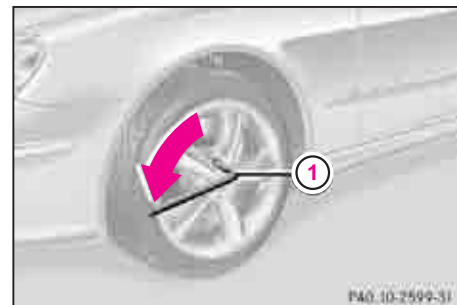
警　告

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。

  また、ESPの機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。十分注意して走行してください。

注　意　！

- トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤを収納するときは、トレイやスクリューなどを確実に装着してください。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品と交換してください。

ジャッキアップ

① ホイールレンチ

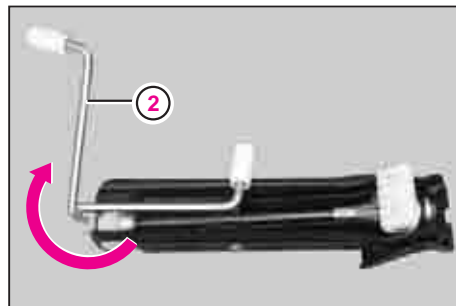
▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5本）を約1回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

パンクしたとき（CLK 200 / CLK 350）

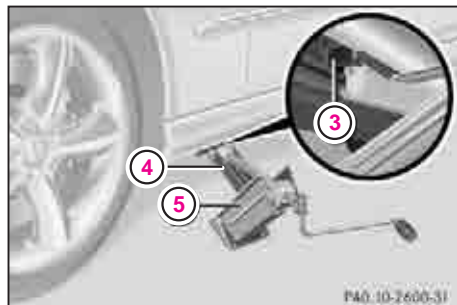
注 意 ！

ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

② ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル②を矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわすと、ジャッキアームが上がります。

注 意 ！

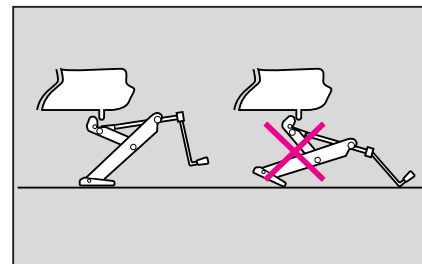
- 車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。
  ◇ この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
  ◇ 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
  ◇ かたくてすべりにくい水平な場所で使用してください。
  ◇ ジャッキサポート以外の場所に使用しないでください。
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。

③ ジャッキサポート
④ ジャッキアーム
⑤ ジャッキ

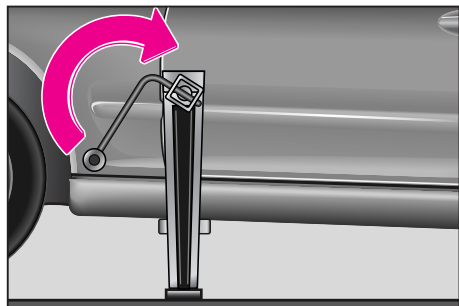
▶ ジャッキ⑤のジャッキアーム④の先端をジャッキサポート③の位置に合わせます。

知　識

ジャッキサポートは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部4カ所に設けられています。

注　意　！

- ジャッキを取り付ける前に、ジャッキサポートに付着した泥などを取り除いてください。
- ジャッキアームの先端が正しくジャッキサポートに入っていることを確認してください。
- 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。
- ジャッキの底面が、確実に路面に接地するように取り付けてください。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

パンクしたとき（CLK 200 / CLK 350）

▶ ジャッキハンドルを矢印方向にまわし、タイヤが地面から離れるまでゆっくりとジャッキアップします。

警　告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、絶対に車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注　意！

- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランク、ソフトトップ（カブリオレ）を開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしたときのタイヤの高さは、地面から3cm以内にしてください。

⑥ ガイドボルト

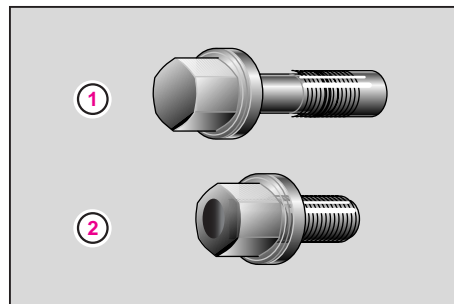
▶ 上側のホイールボルトを1本外します。

▶ そのネジ穴に、ガイドボルト⑥をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

注　意　!

- ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

ホイールボルト

① 標準タイヤ用ホイールボルト
② 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

▶ 応急用スペアタイヤを取り付けるためのホイールボルトを用意します。

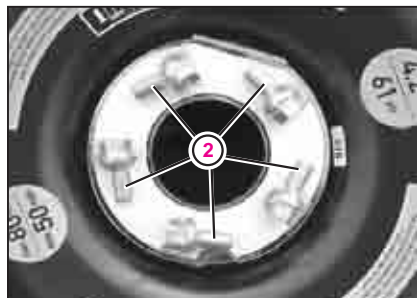
応急用スペアタイヤに添付された、または車載工具に収納された応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②（短いホイールボルト）を使用してください。

パンクしたとき（CLK 200 / CLK 350）

警　告

- 標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。

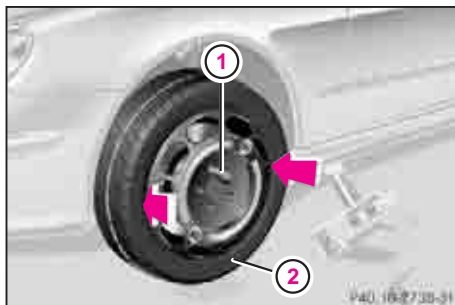
  ホイールを確実に取り付けることができず、ブレーキシステムを損傷したり、走行中にタイヤが外れて事故を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、タイヤが外れて事故を起こすおそれがあります。

知　識

応急用スペアタイヤに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②

- 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤに添付されているか、車載工具（7-5）が入っているトレイに収納されています。
- 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトには、ボルト頭部が中空になっていないものもあります。

注　意！

- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。
- ホイールハブのネジ穴が損傷しているときは、走行しないで、指定サービス工場に連絡してください。

応急用スペアタイヤの取り付け

① ガイドボルト
② 応急用スペアタイヤ

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルト①に合わせて応急用スペアタイヤ②を取り付けます。

▶ 4本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

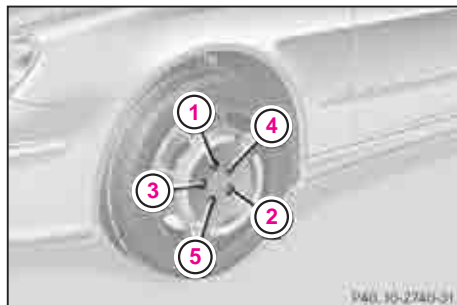
警　告

ジャッキアップした状態で、ホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

パンクしたとき（CLK 200 / CLK 350）

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は、11kg-m（110Nm）です。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

注　意　！

- パンクしたタイヤをトランク内に収納して走行する場合は、速度を落とし十分注意して走行してください。収納したタイヤが動き、トランク内を損傷するおそれがあります。

- ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

  ◇ ホイールレンチを確実に差し込んでください

  ◇ 足で踏んでまわさないでください

  ◇ 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

  また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

警　告

- どんな場合でも、タイヤの速度許容範囲を超える速度で走行しないでください。許容範囲を超えた速度で走行すると、タイヤがパンクして事故につながるおそれがあります。
- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、ESPオフスイッチでESPの機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。十分注意して走行してください。

パンクしたとき（CLK 63 AMG）

警　告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

注　意 ！

- 車速感応ドアロック（3-36）を設定した状態で車を押したり、車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

知　識

高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

▶ 安全を確保できる場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜き、ステアリングがロックされたことを確認します。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

▶ 車載工具（7-7、8）から、輪止め、電動エアポンプ、タイヤフィットを準備します。

パンクしたとき（CLK 63 AMG）

輪止めをする

▶ 修理するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

やむを得ず傾斜地でタイヤを修理するときは、以下のように輪止めをします。

◇ 前輪のいずれかを修理するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。

◇ 後輪のいずれかを修理するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

知　識

輪止めは1個車載されています。もう1個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

タイヤフィットの準備

CLK 63 AMGには、応急用スペアタイヤは装備されていません。パンクしたときはタイヤフィットでタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

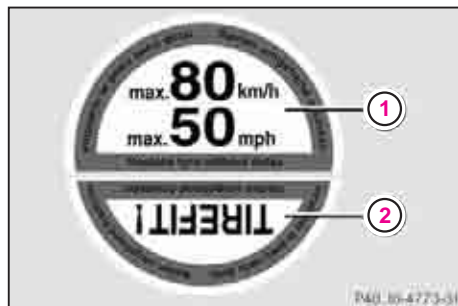
警　告

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ずタイヤを交換してください。走行するときの最高速度は80km/hです。
- 以下の場合などは、タイヤフィットを使用しないでください。
  - ◇ 空気圧不足で走行したためにタイヤに凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇ タイヤから空気が完全に抜けている場合
  - ◇ ホイールに著しい損傷がある場合
- タイヤフィットに火気を近付けないでください。タバコの火などが原因となり、火災が発生するおそれがあります。
- タイヤフィットは、決して身体や衣服に付着しないように注意してください。眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。衣服に付着した場合は、付着した衣服を着替えてください。また、アレルギー症状が出た場合は、医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、絶対に吐かせないでください。ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませます。そして、すぐに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

注　意　!

以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。

- タイヤの接地面以外に傷がある場合
- タイヤの傷が約4mm以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
- ホイールに損傷がある場合
- タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

パンクしたとき（CLK 63 AMG）

① 速度警告ステッカー
② ホイールステッカー

▶ タイヤフィットのボトル底部に貼付してある速度警告ステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼付してください。

▶ 同様に、ホイールステッカー②をはがし、修理するタイヤのタイヤバルブの近くに貼付してください。

タイヤフィット使用時の注意事項

- タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。
- 外気温度が－20℃以下のときは使用しないでください。
- タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。
- 損傷したタイヤの中に注入したタイヤフィットは、乾燥させてタイヤとともに適切に処分してください。
- タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。
- タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。
- タイヤフィットは4年ごとに交換してください。

注 意 ！

異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

電動エアポンプの準備

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

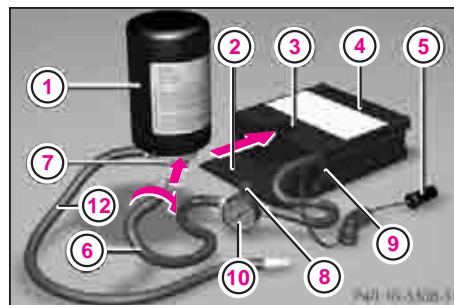
注　意　!

電動エアポンプを作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。

ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

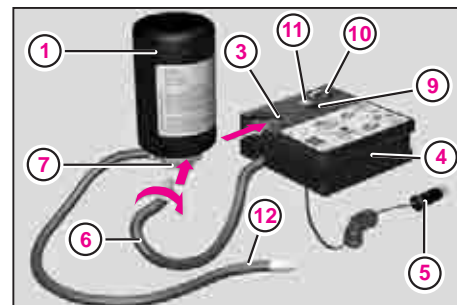
連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。
使用方法がわからないときは、指定サービス工場におたずねください。

空気圧ゲージ別体型

① タイヤフィット
② フラップ
③ 凹部
④ 電動エアポンプ
⑤ 電源プラグ
⑥ エアホース
⑦ バルブ
⑧ 空気圧調整バルブ
⑨ 電源スイッチ
⑩ 空気圧ゲージ
⑫ タイヤフィットのホース

▶ 電動エアポンプ④のフラップ②を開いて、電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

空気圧調整バルブ⑧が閉じていることを確認してください。

空気圧ゲージ一体型

① タイヤフィット
③ 凹部
④ 電動エアポンプ
⑤ 電源プラグ
⑥ エアホース
⑦ バルブ
⑨ 電源スイッチ
⑩ 空気圧ゲージ
⑪ 空気圧調整ボタン
⑫ タイヤフィットのホース

▶ 電動エアポンプ④の裏面から電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

パンクしたとき（CLK 63 AMG）

パンクしたタイヤを修理する

▶ エアホース⑥をタイヤフィット①のバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ タイヤフィット①のボトルをバルブ⑦を下にして持ち、電動エアポンプ④の凹部③に差し込みます。

注　意　！

- 電動エアポンプのホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。確実に取り付けないと、電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れるおそれがあります。
- 使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付されています。

▶ パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑫を、パンクしたタイヤのバルブに確実に取り付けます。

注　意　！

タイヤフィットのホースはバルブに確実に取り付けてください。確実に取り付けないと、電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプ④の電源スイッチ⑨が**O**（オフの位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ⑤をライター（6-37）のソケットに差し込みます。

▶ エンジンスイッチを**1**の位置にします。

▶ 電動エアポンプ④の電源スイッチ⑨を**I**（オンの位置）にします。

電動エアポンプ④が作動し、パンクしたタイヤにタイヤフィットと空気が送り込まれます。

注 意 ！

- 電動エアポンプは作動中に金属部分やホースなどが熱くなります。必ず手袋を着用して作業してください。
- 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

知 識

電動エアポンプが作動した直後は、タイヤフィットが送り込まれるため、空気圧ゲージが約5バール前後を示すことがありますが、電動エアポンプの電源は切らないでください。

▶ 空気圧ゲージ⑩で空気圧が1.8バールになったことを確認し、電動エアポンプ④の電源スイッチ⑨を**O**（オフの位置）にします。

空気圧が1.8バールを超えたときは、空気圧調整バルブ⑧または空気圧調整ボタン⑪を操作して空気を抜いて調整します。

注 意 ！

空気圧が1.8バールに達しない場合は、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約10m前進または後退させます。

その後、タイヤに空気を入れ直します。それでも空気圧が1.8バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、指定サービス工場に連絡してください。

▶ ライターのソケットから電源プラグ⑤を抜きます。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホース⑫を取り外します。

注 意 ！

タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部に布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れるおそれがあります。

▶ タイヤフィットがタイヤ内にまんべんなく行き渡り、損傷箇所が固まるように、ただちに走行してください。

パンクしたとき（CLK 63 AMG）

警　告

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は80km/hです。カーブ走行時やブレーキ時には特に慎重に運転してください。また、操縦性に変化が現れることがあります。

知　識

タイヤフィットが漏れ出た場合は、乾燥させてから拭き取ってください。

▶ およそ10分間走行した後、電動エアポンプ④のエアホース⑥を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ⑩でタイヤ空気圧を点検します。

1.3バール以上の場合は、規定空気圧になるまで電動エアポンプでタイヤ空気圧を調整します。

注　意　！

空気圧が1.3バールに達しない場合は、タイヤフィットで修理することができません。それ以上走行しないで、指定サービス工場に連絡してください。

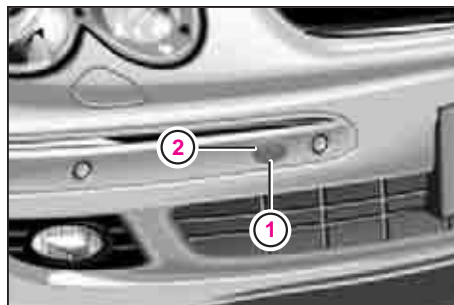
環　境

タイヤフィットやボトルの廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

けん引

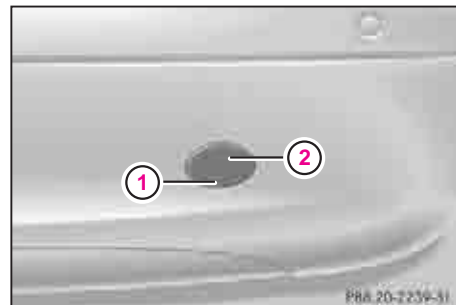
注 意 !

- けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で搬送してください。
- やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

けん引フックの取り付け

フロント
① マーク部
② カバー

フロントの取り付け位置

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク部①を押して、カバー②を取り外します。

リア
① マーク部
② カバー

リアの取り付け位置

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ マーク部①を押して、カバー②を取り外します。

知 識

車種や仕様により、けん引フック取り付け部のカバーの形状が異なる場合は、カバー下部の切り欠きにドライバーなどを差し込んで、カバーを取り外します。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具(7-5〜)からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、停止するまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引する

エンジンを始動できるとき

▶ エンジンを始動して、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを N に入れます。

エンジンを始動できないとき

▶ エンジンスイッチを2の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを N に入れます。

知　識

- エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源としたエンジン始動も試みてください(7-33)。
- バッテリーあがりなどでセレクターレバーを P から動かすことができなくなったときは、手動でロックを解除して動かすことができます(5-21)。

注　意　!

- フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを0の位置にしてください。ESPが作動して接地しているタイヤにブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください(4-36)。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

注 意 !

- 一般道では30km/h以下の速度で、50km以内の距離に限り、けん引走行することができます。

  距離が50kmを超えるときは、車両運搬車などを使用して4輪を持ち上げた状態で搬送するか、プロペラシャフトを取り外す、またはリアをつり上げてけん引してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッションが損傷しているときは、リアをつり上げてけん引してください。
- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- エンジンを停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。
- エンジンがかかっていないときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

  ◇ ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

  ◇ ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白布（30cm×30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。

  ◇ ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。

  ◇ けん引フック以外にはロープをかけないでください。

  ◇ ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。

  ◇ 走行中、ロープをたるませないように、前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときは、以下のいずれかの症状があらわれます

- 冷却水温度計のゲージが約120度以上を示している
- 走行中に冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯し、警告音が鳴る
- エンジンルームから蒸気が出ている

警　告

- エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、十分に冷えるまで車から離れてください。漏れた冷却水が発火して火災が発生するおそれがあります。
- 水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

注　意 ！

- マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-6、9、10）**をご覧ください。
- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します**（8-7）**。

注　意 ！

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

バッテリーがあがったとき

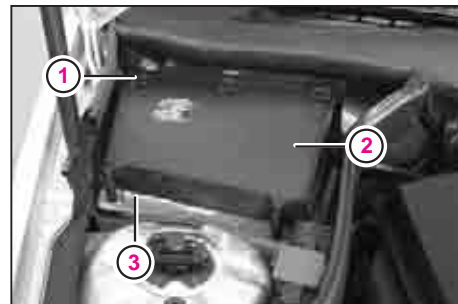
バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

知　識

- バッテリーあがりなどでリモコン操作で解錠できないときはエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します **(3-37)**。
- バッテリーあがりなどでセレクターレバーを P から動かすことができなくなったときは、手動でロックを解除して動かすことができます **(5-21)**。

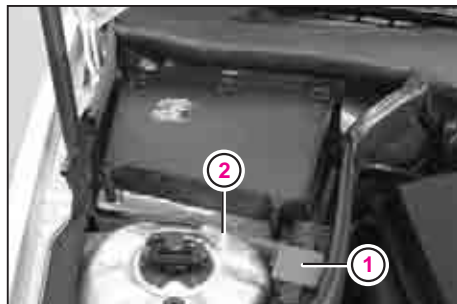
警　告

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。爆発したときに、けがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

バッテリーの位置

左ハンドル車
① クリップ
② フィルターボックス
③ バッテリー

バッテリーは、エンジンルームの助手席側、フィルターボックス②の下にあります。

フィルターボックス②を取り外すときは、3カ所のクリップ①を外します。

始動の方法

左ハンドル車
① ⊕端子カバー
② ⊖端子

▶ バッテリー電圧が同じ(12V)で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーをPに入れます。

▶ 救援車のエンジンを停止して、両車の電気装備をすべて停止します(エンジンスイッチを0の位置にします)。

▶ 自車の⊕端子カバー①を開きます。

▶ 自車のバッテリーの⊕端子に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリーの⊕端子に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動して、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの⊖端子に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの⊖端子②に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

注 意 !

電気回路を守るため、エンジンを始動したら、ただちにエアコンディショナーやリアデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ランプは点灯させないでください。

▶ 取り付けたときと逆の手順でケーブルを外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

注　意　！

- 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。
- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。
- 触媒装置の損傷を避けるため、以下の点に注意してください。
  - ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
  - ◇エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しないでください。
- エンジン始動を2～3回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場に連絡してください。
- エンジン始動を長時間試みないでください。
- エンジンを始動できたときも、すみやかに指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。
- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
  - ◇ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。
  - ◇ケーブルがエンジンファンやVベルトなどに巻き込まれないようにしてください。
- バッテリーがあがっているときは、ドアを開いたときにドアウインドウやリアサイドウインドウは下降しません。このときは、無理にドアを閉じないでください。ウインドウやシール部、ドアなどを損傷するおそれがあります。

知　識

- 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずに50℃以上にならないようにバッテリー全体を暖め、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。
  - ◇マルチファンクションコントローラーの再設定
  - ◇パワーウインドウのリセット
  - ◇スライディングルーフ（クーペ）＊のリセット
  - ◇ドアミラーのリセット

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ヒューズの交換

電気装備が作動しないときはヒューズが切れていることが考えられます。

ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

ヒューズ一覧は**(9-6)**をご覧ください。

警　告

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズなどを使用しないでください。また、針金などで代用しないでください。火災などが発生するおそれがあります。

注　意　！

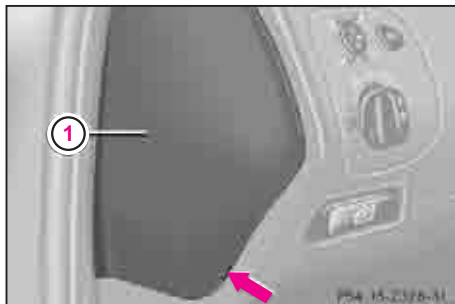
以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れたり、装備が作動しないとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

ヒューズの位置

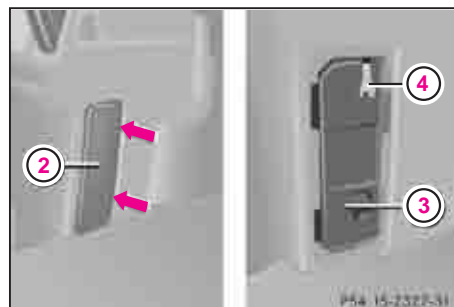
注　意　！

- ヒューズボックスのカバーは、ヒューズボックスに密着するように取り付けてください。ほこりや湿気が入り、故障の原因となります。
- ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

ランプスイッチ横のヒューズボックス

左ハンドル車
① カバー

▶ 矢印の位置にドライバーなどを差し込み、カバー①を開きます。

ヒューズブロック横にヒューズの配置表（英文）があります。

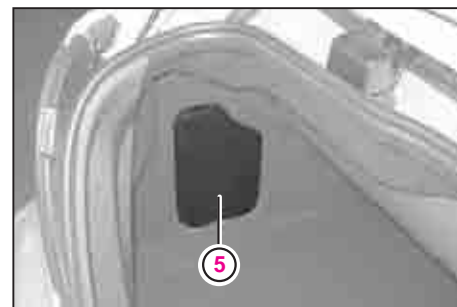
トランクルームのヒューズボックス（クーペ）

② カバー
③ 内部のカバー
④ ヒューズリムーバー

▶ カバー②を取り外します。

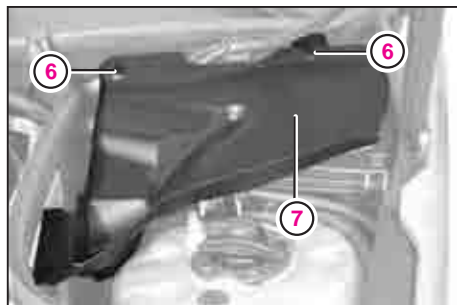
▶ 内部のカバー③を取り外します。

知　識

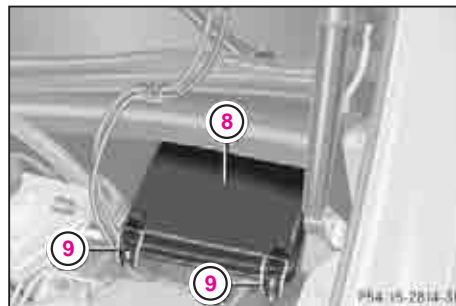
内部のカバー③にはヒューズリムーバー④があります。

トランクルームのヒューズボックス（カブリオレ）

⑤ カバー

▶ カバー⑤を取り外します。

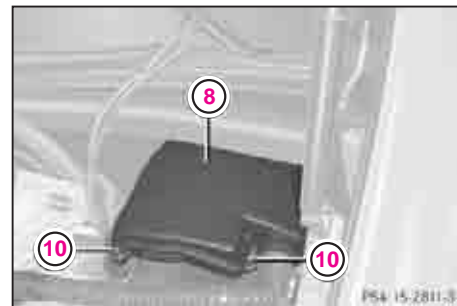
エンジンルーム内のヒューズボックス

左ハンドル車
⑥ クリップ
⑦ ヒューズボックス上面のカバー

エンジンルーム内のヒューズボックスは運転席側、カバー⑦の下にあります。

▶ クリップ⑥をまわして、ヒューズボックス上面のカバー⑦を取り外します。

⑧ ヒューズボックスのカバー
⑨ フック

CLK 63 AMGを除く車種

▶ 2カ所のフック⑨を外してヒューズボックスのカバー⑧を取り外します。

▶ 閉じるときは、ヒューズボックスのカバー⑧の後部を先に差し込み、手前側を密着させてから両側のフック⑨をかけます。

⑧ ヒューズボックスのカバー
⑩ ネジ

CLK 63 AMG

▶ 2カ所のネジ⑩を六角レンチを使用してゆるめ、ヒューズボックスのカバー⑧を取り外します。

▶ 閉じるときは、ヒューズボックスのカバー⑧の後部を先に差し込み、手前側を密着させてから両側のネジ⑩を締めます。

ヒューズを交換する

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧（**9-6**）を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当するヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検して、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

電球の交換

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。

LEDやキセノンヘッドランプはユニット交換になるため、必ず指定サービス工場に作業を依頼してください。その他の電球の交換も、指定サービス工場に作業を依頼することをお勧めします。

やむを得ずお客様ご自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球一覧は（9-5）をご覧ください。

警　告

- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。火傷をするおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが**2**の位置のときは、キセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- キセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。

注　意　！

- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 電球が熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。電球には圧力のかかったガスが封入されているため、破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、手袋や保護眼鏡などを着用してください。また、直接手で電球に触れないようにしてください。

注 意 !

- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

  電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。電球に触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ

マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(10-10)をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

知 識

- ドアミラーの方向指示灯やハイマウントブレーキランプは、すべてのLEDが切れたときに、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。
- 方向指示灯の電球が切れたときは、マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに加えて、メーターパネルの方向指示表示灯の点滅と作動音の間隔が短くなります。

スタンバイランプ機能

フロントやリアの方向指示灯、車幅灯、テールランプの電球が切れたり、アクティブライトシステムが故障すると、他の電球が代替として点灯することがあります。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー社指定の点検整備

  ダイムラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

- 1年および2年点検整備

  1年、2年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

  次の点検整備時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーターが装備されています(4-10)。

整備手帳

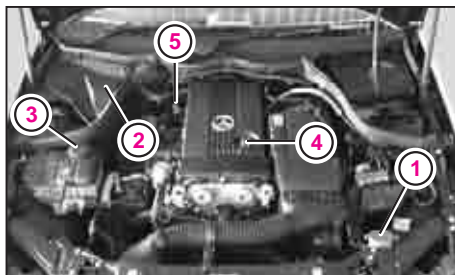
車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

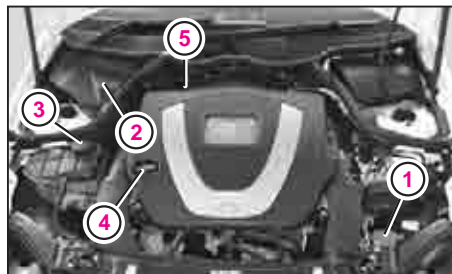
日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、お客様が日常、車をご使用される中で、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

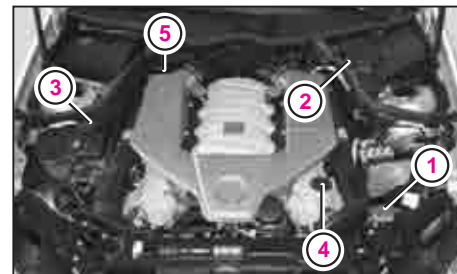
エンジンルーム

CLK 200

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-15
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-12
③	冷却水リザーブタンク	8-6
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-10
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	8-9

②の上にはカバーがあります。

CLK 350（右ハンドル車）

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-15
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-12
③	冷却水リザーブタンク	8-6
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-10
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	8-9

左ハンドル車の②はエンジンルーム内向かって右側にあります。

②の上にはカバーがあります。

CLK 63 AMG

①	ウォッシャー液 リザーブタンク	8-15
②	ブレーキ液 リザーブタンク	8-12
③	冷却水リザーブタンク	8-6
④	エンジンオイル フィラーキャップ	8-10
⑤	エンジンオイル レベルゲージ	8-9

②の上にはカバーがあります。

※仕様により、部品の形状などがイラストと異なることがあります。

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検をするときは以下の事項を厳守してください。

警　告

- イグニッションシステムやキセノンヘッドランプのバルブソケット、配線には、高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換・廃棄は、指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

注 意 !

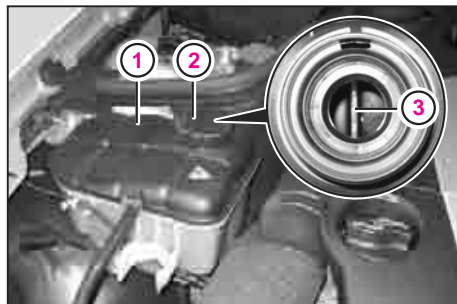
- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所で行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類(オイルなど)やフルード類(ブレーキ液、バッテリー液、冷却水など)は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんを使用して洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

Vベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないことを確認してください。

冷却水

冷却水の量を点検する

① リザーブタンク
② キャップ
③ バー

冷却水はリザーブタンクで点検と補給を行ないます。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約1回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク①内のバー③の上面に達していれば適量です。

警　告

- 水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注 意 !

- 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 冷却水量・冷却水温度警告灯(3-75)が頻繁に点灯するときは、冷却水が漏れている可能性があります。指定サービス工場で点検を受けてください。
- 冷却水が適量でも、冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯しているときは、冷却装置が故障しています。安全な場所に停車してエンジンを停止し、冷却水が冷えてから、冷却水量を点検してください。また、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知 識

水温が高いときは液面が約15mmほど高くなります。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約1回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ②をさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域(最低気温)によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

不凍液混合率	凍結温度
約50%	−37℃
約55%	−45℃

注 意 !

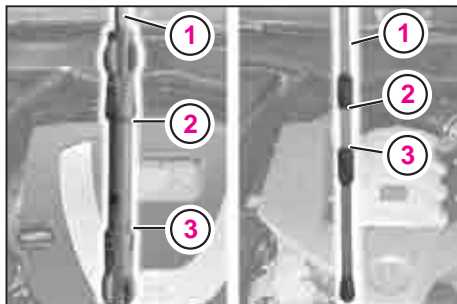
- 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度は約50%から約55%の間にしてください。濃度を約55%以上にすると、冷却性能が低下します。
- 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイル

エンジンオイルの量を点検する

① エンジンオイルレベルゲージ
② 上限
③ 下限

知　識

車種や仕様により、エンジンオイルレベルゲージの形状が異なります。

▶ 水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動させ、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、5分ほど待ちます。

エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、約30分以上待ちます。

▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限②と下限③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

注　意　！

- マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-11）をご覧ください。
- エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

知　識

慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

エンジンオイルを補給する

CLK 350
① エンジンオイルフィラーキャップ

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして、取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を補給口に合わせ、時計回りにまわして確実に取り付けます。

警　告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意　!

マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-11）をご覧ください。

環　境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

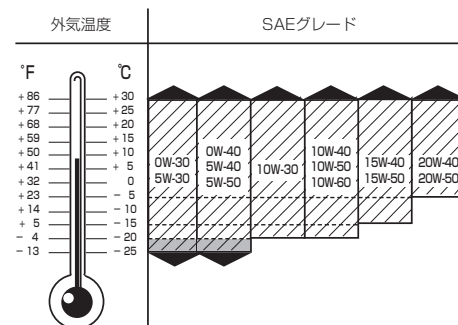
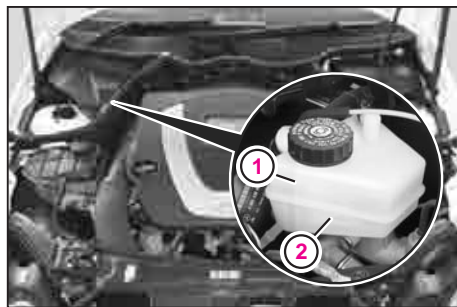
ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注 意 ！

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。
- エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

ブレーキ液

右ハンドル車
① レベルインジケーター上限（MAX）
② レベルインジケーター下限（MIN）

ブレーキ液の量を点検する

▶ ブレーキ液リザーブタンクの上にあるカバーを取り外します。

▶ ブレーキ液リザーブタンクのレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーター上限（MAX）①と下限（MIN）②の間にあれば正常です。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（10-8）**をご覧ください。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で交換をしてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯（5-36）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

  安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

- ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するするおそれがあります。

ブレーキ液

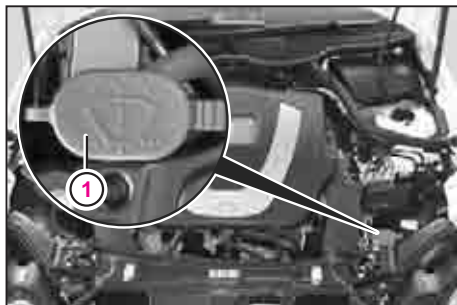
注 意 !

- ブレーキ液の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

知 識

ベーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

ウォッシャー液を補給する

① ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ

警　告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

▶ リザーブタンクのキャップ①を開いて補給します。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（9-9）。

知　識

- ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。
- ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

注　意　!

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（10-11）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であるか点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないことや、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが約3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります(8-18)。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

注　意　!

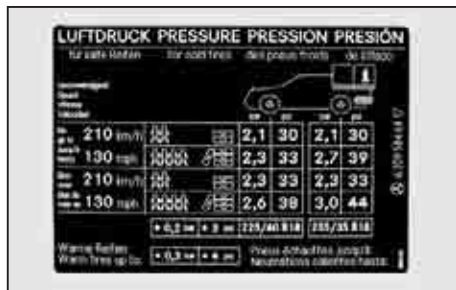
- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、損傷しているときは交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 純正品または承認された製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および4輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤ＊も同様に交換してください。
- タイヤおよびホイールのサイズが前後で異なるため、タイヤローテーションは行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると走行安定性や車両操縦性が確保できません。

知　識

- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベル

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは、燃料給油フラップの裏側に貼付されています。

単位は「bar（≒kg/cm²）」と「psi」で示しています。

乗車人数と荷物の量に応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

知　識

"up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

注　意　！

必ず法定速度を守って走行してください。

警　告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

知　識

- 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。
- 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3barほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
- 応急用スペアタイヤ＊の空気圧については（9-12）をご覧ください。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーを取り扱うときは以下の点に十分注意してください。

バッテリーの充電、交換などの作業は、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

警　告

静電気に注意

静電気が発生すると、可燃性のガスに引火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。以下のことに注意してください。

- 布などでバッテリーを拭かないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。

また、バッテリーに火気を近付けないでください。

バッテリー液に注意

- バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れるおそれがあります。
- バッテリー液が目に入ると失明するおそれがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- バッテリー液が皮膚に付着すると火傷を起こします。すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーケース側面部の液量表示が「min」以下のときは、エンジンを始動したりバッテリーを充電しないでください。液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに点検を受けてください。

ショートに注意

バッテリーをショートさせると、可燃性のガスに発火して、バッテリーが爆発するおそれがあります。以下のことに注意してください。

- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- 接続するときは、極性（プラス⊕、マイナス⊖）を間違えないように注意してください。

子供に注意

バッテリーを取り扱うときは、子供を近寄らせないでください。

注 意 ！

- 指定のバッテリーを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- エンジンがかかっているときは、バッテリー端子を外したり、ゆるめないでください。
- 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補充してください。
- 車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。
- バッテリー端子の接続を外すときは、エンジンスイッチを0の位置にするかキーを抜き、すべての電気装置を停止してください。
- バッテリーを充電するときは車から取り外してください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。
- バッテリーの接続が一時的に断たれたときときは、以下の作業が必要になります。
  - ◇ マルチファンクションコントローラーのプリセットの再設定
  - ◇ ドアウインドウのリセット**（3-58）**
  - ◇ スライディングルーフ（クーペ）＊のリセット**（3-63）**
  - ◇ ドアミラーのリセット**（3-69）**

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

インジケーター付きバッテリー

① インジケーター

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

VRLAバッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERYのラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検については指定サービス工場におたずねください。

環　境

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です (**8-27、28、9-13**)。

スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

※ ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクなどの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、ドアやトランクのキーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。
- ドアウインドウやリアサイドウインドウが凍結しているときはドアを開いたときにドアウインドウやリアサイドウインドウは下降しません。

  このときは、無理にドアを開閉しないでください。ドアウインドウやシール部を損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まってかたまっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウ、リアサイドウインドウ、スライディングルーフ（クーペ）＊、ソフトトップ（カブリオレ）などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷することがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをCモードに切り替えてください（5-7）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

  このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないように心がけてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABSやESPの効果が発揮されます。

装着するウインタータイヤは、指定されたサイズで4輪とも同じ銘柄のものにしてください（9-13）。

注　意　！

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤ＊を装着すると、走行安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
- スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが約4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面ではクルーズコントロールを使用しないでください。
- 取り外したウィンタータイヤは、オイルやグリース類の付着するおそれのない、乾燥した冷暗所で保管してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、ダイムラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約50km/h以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着時は、ESPの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

注 意 !

- 標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。
- 応急用スペアタイヤ＊にはスノーチェーンを装着しないでください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの着脱は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。
- 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に1度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。

- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼り付けないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをお勧めします。

車内

- プラスチック部分は、少量の中性洗剤などを混ぜた水を柔らかい布に含ませて拭き取ります。

  また、乾いた布や目の粗い布、かたい布などを使用したり、強くこすらないでください。表面を損傷するおそれがあります。
- ウッドトリムなどの部分は、水で湿らせた柔らかい布を使用して拭き取ります。頑固な汚れには少量の石けん水を使用します。

  また、有機溶剤を含むクリーナーなどは使用しないでください。ウッドトリムなどを損傷するおそれがあります。
- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- マフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこするとレンズを損傷するおそれがあります。

  また、乾いた布などで強くこすると、細かい傷を付けるおそれがあります。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- パークトロニックセンサー＊を清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトを損傷するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分、サスペンション、電気装備、コネクター類などに近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。
- パークトロニックセンサー＊には、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- ワイパーの作動モードを停止の位置にしてください（5-30）。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ソフトトップの手入れ（カブリオレ）

通常の汚れは、ブラシと清潔な水で清掃してください。ソフトトップを閉じた状態で、ソフトトップの生地の目に沿ってフロントからリアの方向にブラシをかけます。ひどい汚れやシミには、ソフトトップ用のカーケア用品を使用してください。

ソフトトップとリアウインドウの手入れについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

知　識

屋外に駐車するときは、ソフトトップに適切なカバーをかけてください。

注　意　！

- ソフトトップは乾燥した状態で収納してください。やむを得ず、湿った状態で収納したときは、できるだけ早い機会に乾燥させてください。またソフトトップの生地などは、長時間直射日光にさらされると変色することがあります。
- ソフトトップが汚れた状態で作動させると、故障の原因になります。
- 鳥のふんが付着したときは、すみやかに取り除いてください。腐食性があるため、水漏れの原因になります。
- ソフトトップに積もった雪を取り除くときは、角の鋭い道具は使用しないでください。
- ソフトトップの手入れには高圧式スプレーガンをしないでください。またガソリンやシンナー、タール除去剤などの有機溶剤は使用しないでください。純正品以外のものを使用した場合、水漏れなどが発生し、車を損傷するおそれがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

メルセデス・ベンツ純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー社またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

警　告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外の部品を使用しないでください。事故や故障の原因になります。

注　意 !

- 以下の場所の周囲には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えるおそれがあります。

  ◇ エアバッグ
  ◇ シートベルト
  ◇ インストルメントパネル
  ◇ センターコンソール
  ◇ ドア
  ◇ シート
  ◇ サイドシル付近

  詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

知　識

純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

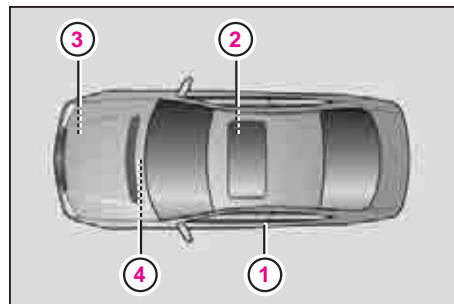
環　境

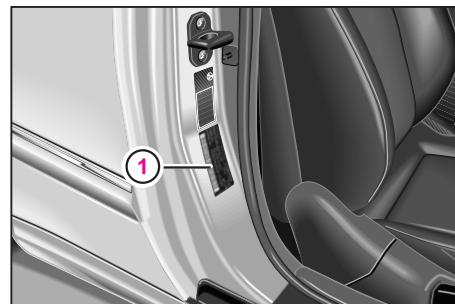
ダイムラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに、車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。

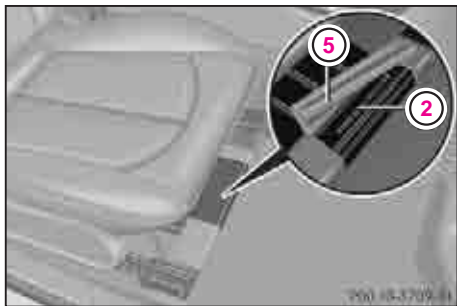
車台番号やエンジン番号などは、図の箇所に記されています。

ビークルプレートの位置

① ニューカープレート
② 車台番号
③ オプションコードプレート
④ エンジン番号

ニューカープレート

① ニューカープレート

運転席側または助手席側のドア開口部の車体側に、車の車台番号およびカラーコードを記載したニューカープレート①が貼付されています。

ビークルプレート

車台番号

② 車台番号
⑤ カバー

右側前席足元のカーペット下に車台番号②が打刻されています。

▶ シートを後方の位置にして、シートクッションを上げてから、カバー⑤を引き上げます。

オプションコードプレート

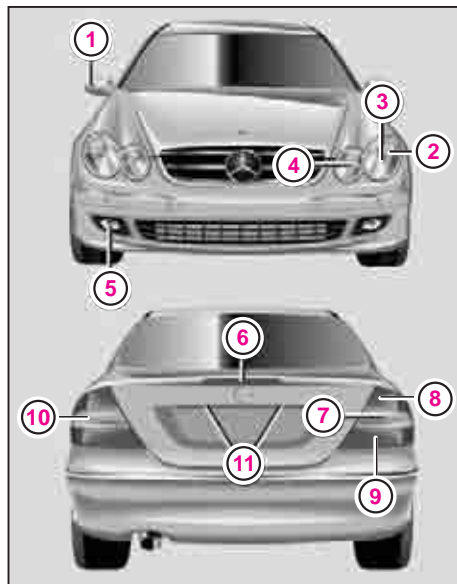
③ オプションコードプレート

ボンネットの裏側にオプションコードを記載したオプションコードプレート③が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロックの後方上部に、エンジン番号④が打刻されています。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

電球一覧

注　意　！

電球を交換するときは、実際に車両に装着されている電球の規格を確認してください。

	ランプ	ワット数（規格）
①	ドアミラー方向指示灯	LED（発光ダイオード）
②	フロント方向指示灯	21W（黄色）
③	ヘッドランプ（下向き / 上向き）	35W（キセノンD2S）
④	ヘッドランプ（上向き）	55W（H7）
	フロントパーキングランプ / 車幅灯	5W
⑤	フロントフォグランプ	55W（H7）または55W（H11）または51W（HB4）
⑥	ハイマウントブレーキランプ	LED（発光ダイオード）
⑦	バックランプ	21W
⑧	ブレーキランプ	21W
⑨	テールランプ / リアパーキングランプ	21W / 5W
	リアフォグランプ（右側のみ） / テールランプ	21W / 4W
⑩	リア方向指示灯	21W（黄色）
⑪	ライセンスランプ	5W

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヒューズ一覧

ヒューズ一覧

ヒューズボックス1（トランク内）

ヒューズ番号 / アンペア数 / 装置名

1 30A ：シート調整（助手席）
2 30A ：シート調整（運転席）
3 7.5A ：ルームランプ、テレビ
4 20A ：燃料ポンプ
5 ：未使用
6 ：未使用
7 7.5A ：NECK PROアクティブヘッドレスト
8 7.5A ：盗難防止警報システム、コンビニエンスロック、リモートトランクリリース
9 25A ：盗難防止警報システム、コンビニエンスロック、ルームランプ、バニティミラー照明、自動防眩機能、レインセンサー、スイッチ照明、スライディングルーフ（クーペ）
10 40A ：リアデフォッガー
11 ：未使用
12 15A ：オプション
13 5A ：マルチコントロールシートバック、パークトロニック、電話
14 ：未使用
15 7.5A ：燃料給油フラップ、グローブボックスロック（カブリオレ）
16 7.5A ：電話
17 ：未使用
18 20A ：エンジンエレクトロニクス（CLK 63 AMG）
19 20A ：マルチコントロールシートバック
20 10A ：CDチェンジャー、リアブラインド（クーペ）

ヒューズボックス2（ランプスイッチ横）

ヒューズ番号 / アンペア数 / 装置名

21 30A ：セントラルロッキングシステム、コンビニエンスロック、乗降用ランプ、ドアミラー調整、自動防眩機能、ドアミラー格納 / 展開、ドアミラーヒーター、パワーウインドウ（前席）、パワーウインドウ（後席）、リモートトランクリリース、シート調整（運転席）、ステアリング調整、スイッチ照明
22 30A ：セントラルロッキングシステム、コンビニエンスロック、乗降用ランプ、ドアミラー調整、ドアミラー格納 / 展開、ドアミラーヒーター、パワーウインドウ（前席）、パワーウインドウ（後席）、シート調整（助手席）、スイッチ照明
23 ：未使用
24 ：未使用
25 30A ：シートヒーター
26 25A ：サウンドシステム
27 ：未使用
28 20A ：ソフトトップ（カブリオレ）
29 30A ：シート調整（運転席）
30 40A ：エアコンディショナー送風ファン、余熱ヒーター

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

31 20A ：スターター、ステアリングロック
32 30A ：シートベルトフィーダー、コンビニエンスロック、パワーウインドウ（後席）、スイッチ照明
33 30A ：シートベルトフィーダー、コンビニエンスロック、パワーウインドウ（後席）、スイッチ照明
34 30A ：シート調整（助手席）
35 ：未使用
36 15A ：ラジオ、電話
37 ：未使用
38 ：未使用
39 40A ：燃料ポンプ（CLK 63 AMG）
40 ：未使用
41 15A ：エアバッグシステム警告灯、エアコンディショナー、盗難防止警報システム、エアコンディショナー送風ファン、ドアロックスイッチ、余熱ヒーター、非常点滅灯、リアデフォッガー、パークトロニック、リアヘッドレスト、シートヒーター、リアブラインド（クーペ）、スイッチ照明
42 7.5A ：エアバッグシステム警告灯、メーターパネル

ヒューズボックス3（エンジンルーム内）

ヒューズ番号 / アンペア数 / 装置名

43 15A ：ホーン
44 ：未使用
45 7.5A ：エアバッグシステム警告灯、エアバッグコントロールユニット
46 40A ：ワイパー
47 15A ：ライター、グローブボックスランプ、アームレスト下部の小物入れのランプ
48 15A ：エンジンエレクトロニクス
49 7.5A ：エアバッグシステム警告灯、エアバッグコントロールユニット
50 5A ：スイッチ照明
51 7.5A ：エアコンディショナー、エンジンファン、余熱ヒーター、ヘッドランプ照射角度調整
52 20A ：スターター
53 15Aまたは25A：エンジンエレクトロニクス
54 15A ：エンジンエレクトロニクス
55 7.5A ：ESP、トランスミッションエレクトロニクス
56 5A ：ABS、ESP
57 5A ：セントラルロッキングシステム、ESP、スターター
58 ：未使用
59 50A ：ABS、ESP
60 40A ：ABS、ブレーキランプ、ESP
61 ：未使用
62 5A ：ABS、診断ソケット、ESP、ロービーム
63 5A ：ヘッドランプウォッシャー、ロービーム、ドアミラー調整、ドアミラー格納 / 展開
64 15A ：マルチファンクションコントローラー、ナビゲーションシステム、ラジオ
65 40A ：オプション

（2004-05-04・A 209 545 15 00）

知 識

仕様 / 装備などの違いにより、装備されているヒューズが異なることがあります。

※記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

必ずダイムラー社の純正品または指定品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
エンジンオイル	CLK 200	約5.5	承認オイル	オイルフィルター分を含む
	CLK 350	約8.0		
	CLK 63 AMG	約8.8		
ディファレンシャルオイル	全車	–	承認オイル	ハイポイドギアオイル SAE90、85W90
パワーステアリングオイル	全車	–	純正パワーステアリングオイル	専用オイル
ブレーキ液	全車	–	純正ブレーキ液	DOT 4規格

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

油脂類	車種	容量（ℓ）	指定品目	備考
冷却水	CLK 200	約8.0	純正不凍液	水に純正不凍液を混ぜて使用。濃度に注意（8-8）
	CLK 350	約7.1		
	CLK 63 AMG	約10.9		
ウォッシャー液	全車	約6.0	純正ウインドウウォッシャー液冬用、夏用	水と純正ウインドウウォッシャー液を混ぜて使用
バッテリー	全車		12V / 100Ah	エンジンルーム内に装備
エアコンディショナー冷媒	全車		R134a	R-12を使用しないこと
燃料	全車	約62.0	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量約8.0ℓ（CLK 63 AMGは約12.0ℓ）

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

注 意 ！

- オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。
- オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。
- オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。
- 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用して、故障が発生した場合は保証の適用外となりますので、ご了承ください。

タイヤとホイール

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
CLK 200	前輪 225 / 45R17 後輪 245 / 40R17	前輪 7.5J×17 後輪 8.5J×17	前輪 36mm 後輪 30mm
CLK 200 スポーツパッケージ	前輪 225 / 40R18 後輪 255 / 35R18	前輪 7.5J×18 後輪 8.5J×18	前輪 36mm 後輪 30mm
CLK 350	前輪 225 / 45R17 後輪 245 / 40R17	前輪 7.5J×17 後輪 8.5J×17	前輪 36mm 後輪 30mm
CLK 350 AMG スポーツパッケージ	前輪 225 / 40R18 後輪 255 / 35R18	前輪 7.5J×18 後輪 8.5J×18	前輪 37mm 後輪 30mm
CLK 63 AMG	前輪 225 / 40R18 後輪 255 / 35R18	前輪 8.0J×18 後輪 8.5J×18	前輪 34mm 後輪 30mm

注　意　！

- 標準タイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

- タイヤローテーションは行なわないでください。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

タイヤとホイール

応急用スペアタイヤ＊

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
CLK 200	T125 / 90R16	3.5B×16	17mm	4.2bar / 60psi / 420kpa
CLK 200 スポーツパッケージ CLK 350 CLK 350 AMG スポーツパッケージ	T125 / 80R17	3.5B×17	17mm	4.2bar / 60psi / 420kpa

注 意 !

応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

知 識

CLK 63 AMGは、タイヤフィットでタイヤを修理します**(7-21)**。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
CLK 200 CLK 200 スポーツパッケージ CLK 350	225 / 45R17 M+S	7.5J×17	36mm
CLK 350 AMG スポーツパッケージ	225 / 45R17 M+S	7.5J×17	37mm
	225 / 40R18 M+S	7.5J×18	37mm
CLK 63 AMG	225 / 40R18 M+S	8.0J×18	34mm

注 意 !

ウィンタータイヤのサイズはダイムラー社が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

知 識

- スノーチェーンはウィンタータイヤの後輪に装着することができます。
- ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、指定サービス工場におたずねください。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

積載荷物の制限重量

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ（クーペ）	トランク
全車	100kg	100kg

知　識

ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

注　意！

ソフトトップには荷物を積載することはできません（カブリオレ）。

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

知 識

- 故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。
- 重要度の低いメッセージは、数秒後に自動的に消えます。
- ステアリングの ▤ ▤ や ⇧⇩、またはリセットボタン（**3-72**）を押すと、メッセージが消え、故障内容が記憶されます。
- 重要度の高いメッセージは、故障や異常が解消するまで、メッセージが消えない場合があります。

注 意 ！

- 走行する前にエンジンスイッチを**2**の位置にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを必ず確認してください。
- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。この故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えた指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ず指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ABS	ABS ト ESP コショウ	⚠ 事故のおそれがあります 故障のため、ABSとESPの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。 上記の機能は作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ESP	シヨウ デ キマセン! マニュアルヲ サンショウ	⚠ 事故のおそれがあります システムの自己診断が完了していないなどのため、一時的にESPの機能が解除されている。 ABSは作動する。 ESPは作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。	▶ 約20km/h以上の速度で短い距離を走行してください。 メッセージが消えれば、ESPは作動できる状態になります。
		⚠ 事故のおそれがあります 電圧低下のため、ESPの機能が解除されている。 同時にBASの機能も解除されている。 バッテリーが充電されていない可能性がある。 ABSは作動する。 ESPは作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ESP	ESP ｺｼｮｳ	⚠ 事故のおそれがあります 故障のため、ESPの機能が解除されている。同時にBASの機能も解除されている。 ESPは作動しないが、ブレーキは通常通り作動する。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ	ｼﾃｲ ﾉ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	トランスミッションの作動が制限されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		メーターパネルのシフト位置表示に "F" が表示され、オートマチックトランスミッションの変速ができない。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	タイヤ空気圧警告システムが、タイヤからの急激な空気漏れを検知した。	▶ 周囲の状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ 必要であれば該当するタイヤを交換するか、タイヤを修理してください **(7-11、21)**。 ▶ 標準タイヤに交換した後、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください **(4-7)**。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ	ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれた。	▶ すべてのタイヤの空気圧が適正であることを確認してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（4-7）。
ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ	ｺｼｮｳ	故障のため、タイヤ空気圧警告システムの機能が解除されている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS	SRS ｼｽﾃﾑ ｼﾃｲ ﾉ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	乗員保護装置が故障している。	▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。
ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	- - -	クルーズコントロールの作動条件に合わない状態で、クルーズコントロールを作動させようとした。	▶ 約30km/h以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 または ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（5-44）。

イラストメッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
		トランクが開いたまま走行している。	▶ トランクを閉じてください。
		⚠ **事故のおそれがあります** 盗難防止警報システム装備車： ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ドアを閉じてください。
		ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。	▶ 冷却水温度を点検してください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
		以下の原因により、バッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Ｖベルトの切断	▶ 周囲の状況に注意しながら、ただちに停車してください。 ▶ Ｖベルトを点検してください。 **Ｖベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **Ｖベルトが損傷していないとき** ▶ ただちに最寄りの指定サービス工場で点検を受けてください。
		バッテリーに異常がある。	▶ 指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。
	ﾃﾞﾝｱﾂ ﾃｲｶ ﾊﾞｯﾃﾘｰ ｼﾞｭｳﾃﾞﾝ	バッテリーの電圧が低下している。	▶ エンジンを始動してください。
	ﾃﾞﾝｱﾂ ﾃｲｶ ﾃﾞﾝｿｳﾋﾝ ｦ ｵﾌ	バッテリーの電圧が低下している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾌﾞﾚｰｷ ﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。	▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 周囲の状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ､ ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ!	冷却水の温度が高すぎる。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度計（**3-75**）で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		Vベルトが切れている可能性がある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えない場合はエンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	冷却水量が不足している。	▶ 補給時の注意を参照しながら、冷却水を補給してください（8-7）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ[1]	左ヘッドランプ(ロービーム)が切れている。	▶ 指定サービス工場でランプを交換してください。
	ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	アクティブライトシステムが故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。	▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください（4-30）。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
	ﾗｲﾄ ｦ ｵﾌ ﾏﾀﾊ ｷｰｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ!	ランプスイッチが Auto の位置でランプが自動的に点灯しているときに、エンジンスイッチを0の位置に戻し、キーを抜かずに運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。 ▶ キーを抜いてください。
	ｴｱｸﾘｰﾅ ｺｳｶﾝ	エンジンエアフィルターの交換時期になっている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプいずれかに異常が発生すると、その箇所と対応が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで下がっている。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください（8-9、10）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ ｼﾃｲ ﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	１つ以上の電気システムがマルチファンクションディスプレイに情報を表示できない状態になっている。以下のシステムが故障している可能性がある。 • 冷却水温度計 • タコメーター	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	キーが機能しなくなっている。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾈﾝﾘｮｳ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｼﾞｭｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。	▶ ウォッシャー液を補給してください（8-15）。

故障 / 警告メッセージ

イラストメッセージ（カブリオレ）

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
		トランクが開いているときにソフトトップを開閉しようとしている。	▶ トランクを閉じてください。
	ﾄﾗﾝｸﾙｰﾑ ﾗｹﾞｯｼﾞｶﾊﾞｰｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!	ラゲッジカバーが正しくセットされていない状態でソフトトップを開閉しようとしている。	▶ ラゲッジカバーを手前に引き出し、確実に閉じてください（3-46）。
	ﾛｰﾙﾊﾞｰｦ ｻｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!	⚠ **けがのおそれがあります** オートマティックロールバーが故障している。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾛｰﾙﾊﾞｰｦ ｱｹﾞﾃｸﾀﾞｻｲ!	⚠ **けがのおそれがあります** オートマティックロールバーが故障している。	▶ オートマティックロールバーを手動で上げてください（2-26）。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ﾃｲｼﾁｭｳﾉﾐ ｿｳｻｶﾉｳﾃﾞｽ	走行速度が約30km/h以上のときにソフトトップを開閉しようとしている。	▶ 安全な場所に停車してから、ソフトトップスイッチを操作してください。
	ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ｶﾞ ｻｶﾞﾘﾏｽ	油圧装置の圧力が低下し、開閉中のソフトトップが倒れ込もうとしている。	▶ ソフトトップを完全に開閉してください。
	ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ﾌﾙｵｰﾌﾟﾝ / ﾌﾙｸﾛｰｽﾞ	ソフトトップの開閉操作が完了していない状態で走行を開始した。	▶ ソフトトップスイッチを操作して、マルチファンクションディスプレイの表示が消えるまで、ソフトトップを完全に閉じるか、完全に開いてください。
	ｿﾌﾄﾄｯﾌﾟ ｻﾄﾞｳﾁｭｳ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ!	バッテリーの電圧が低すぎる。	▶ エンジンを始動してください。
		ソフトトップの開閉操作が何度も繰り返されたため、安全のためにソフトトップの開閉機能が一時的に停止した。	▶ 約10分間待ってください。機能が復帰することがあります。 ▶ エンジンスイッチを**0**の位置にしてから、**2**の位置にするか、エンジンを始動してください。 ▶ 再度、ソフトトップスイッチを操作してください。 ▶ ソフトトップが開閉しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

トラブルの原因と対応

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
シートヒータースイッチ＊の表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下し、シートヒーター＊が自動的に停止している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーのACスイッチを押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 エアコンディショナーのACスイッチを押しても、除湿 / 冷房されない。	エアコンディショナーの冷媒が不足している。	▶ 指定サービス工場でエアコンディショナーの点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。 リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブル	考えられる原因および症状	対応
CLK 63 AMG： センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。	
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。	▶ 助手席のシート座面に以下のものを置いているときは取り除いてください。 • パソコン • 携帯電話 • 磁気カードやICカード **電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する** ▶ 指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。
CLK 63 AMGを除く車種： センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が一時的に点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** チャイルドセーフティシート検知システムを装備していないため、センサー付き純正チャイルドシートを装着しても、助手席エアバッグが作動する状態になっている。	▶ チャイルドセーフティシートを後席に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、前向きで使用し、助手席シートの位置をもっとも後ろの位置にしてください。

トラブルの原因と対応

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABSの機能が解除されている。同時にESPとBASの機能も解除されている。ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにタイヤがロックする可能性がある。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABSの機能が解除されている。バッテリーが充電されていない可能性がある。 同時にESPとBASの機能も解除されている。ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しないため、急ブレーキ時などにタイヤがロックする可能性がある。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、ABSは作動できる状態になります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブル	考えられる原因および症状	対応
⚠ 走行中に黄色のESP表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか車が横滑りをしているため、ESPまたはABS、トラクションコントロールが作動している。	▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESPの機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
⚠ エンジンがかかっているときに黄色のESP表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESPの機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。	▶ ESPを待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

トラブル		考えられる原因および症状	対応
(!)ブレーキ警告灯	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も聞こえる。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 状況を問わず、走行しないでください ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（10-8）に従ってください。 ▶ 状況を問わず、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
冷却水警告灯	エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯する。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は、補給時の注意を参照しながら、冷却水を補給してください。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
		冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水温度が約120℃を超えている。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は、補給時の注意を参照しながら、冷却水を補給してください。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している可能性がある。また、冷却水温度が約120℃を超えている。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶ 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。	▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約25km/hを超えた。	▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約25km/hを超えた。	▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

表示灯 / 警告灯（カブリオレ）

トラブル		考えられる原因および症状	対応
	エンジンがかかっているときに黄色のロールバー警告灯が点滅または点灯する。	⚠ けがのおそれがあります オートマティックロールバーが作動できない状態になっている。	▶ オートマティックロールバーを手動で上げてください（2-26）。 ▶ 指定サービス工場でオートマティックロールバーの点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

警告音

トラブル	考えられる原因および症状	対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システムが待機状態のときに、運転席ドア、またはトランクをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内からドアを解錠して開くか、ボンネットのロックを解除した。	▶ キーのいずれかのボタンを押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。	▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（10-2～13）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
	車外ランプを消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。	▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
エンジンスイッチを2の位置にしたときに警告音が鳴る。	**けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。
速度が約25km/h以上になったときに警告音が鳴る。	**けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。		▶ 指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。		▶ 通常通りエンジンを始動してください。
運転席と助手席のヘッドレストが前方に動いた。	追突などの事故により、NECK PROアクティブヘッドレストが作動した。	▶ NECK PROアクティブヘッドレストをリセットしてください(3-19)。

トラブルの原因と対応

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状	対応
シートベルトフィーダーが元の位置に戻らない。	⚠ **けがのおそれがあります** シートベルトフィーダーに問題がある。	▶ 手でシートベルトフィーダーを押し込んでください。 ▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。 **手で押し込んでも戻らないとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状	対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。	▶ ただちにエンジンを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。	▶ リモコン操作で解錠してください。
	燃料給油フラップの開閉機構に異常がある。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを3の位置にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある可能性がある。 • 燃料供給に異常がある可能性がある。	▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを0の位置に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください（5-4）。 ただしエンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 **何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 エンジンスイッチを3の位置にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低下している。	▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（7-33）。 **エンジンが始動しないとき** ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。	▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。
冷却水温度が約120℃を超えている。 冷却水量・冷却水温度警告灯が点灯し、警告音も鳴っている。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。	▶ 周囲の状況に注意しながら、安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、不足している場合は冷却水を補給してください（8-6、7）。
	冷却水量が正常なときは、冷却ファンが故障している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。	▶ 冷却水温度が約120℃以下のときは、最寄りの指定サービス工場まで走行して点検を受けてください。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進と停止を繰り返すような運転は避けてください。

トラブルの原因と対応

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状	対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。	▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常がある。	エマージェンシーモードにして、2速ギアとリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ セレクターレバーを P に入れてください。 ▶ エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。 ▶ 約10秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ セレクターレバーを D に入れます。 2速ギアになります。 または ▶ セレクターレバーを R に入れます。 リバースギアになります。 ▶ ただちに指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック＊

トラブル	考えられる原因および症状	対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約2秒間警告音が鳴った。 約20秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。	▶ トラブルが続くようであれば、指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。	▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（**8-31**）。 ▶ 再度、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。	▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（**5-56**）。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブルの原因と対応

ヘッドランプ / 方向指示灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ヘッドランプまたはドアミラー方向指示灯の内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。	▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプ内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットやドアミラー方向指示灯ユニットが密閉されていないため、水分が侵入している。	▶ 指定サービス工場でヘッドランプやドアミラーの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。	▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	ワイパーが故障している。	▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（5-30）。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアウインドウを閉じることができない。	⚠ **けがのおそれがあります** ドア内部のガイドレールなどに障害になる物が挟まったり、詰まっている。	▶ スイッチから手を放してください。 その位置からドアウインドウが少し開きます。 ▶ ドアウインドウを開いてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウが閉じるまでスイッチを軽く引きます。 ドアウインドウに挟まれないように注意してください。
ドアウインドウを閉じることができない。	⚠ **けがのおそれがあります** 原因がわからない場合。 ドアウインドウを閉じようとすると、操作が中断される。	▶ ドアウインドウが閉じないときは、一度スイッチから手を放し、すぐにスイッチを軽く引き続けます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。
ドアウインドウを閉じることができない。	⚠ **けがのおそれがあります** 原因がわからない場合。 ドアウインドウを自動で全閉しようとすると、ドアウインドウが少し開いた状態で停止し、操作が中断される。	▶ ドアウインドウが自動で全閉しないときは、すぐにスイッチを軽く引き続けます。 挟み込み防止機能が働かない状態でウインドウが閉じます。 ウインドウに挟まれないように注意してください。 数秒後に、挟み込み防止機能が働く状態になります。

ミラー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。		▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（3-67）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

トラブルの原因と対応

キー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの先端を運転席のドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 **リモコン操作ができないとき** ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください **(3-37､38)**。 ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください **(3-15)**。
	キーが故障している。	▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠 / 施錠してください **(3-37､38)**。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーのボタンを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を交換してください **(3-15)**。 電池は指定サービス工場で入手できます。
キーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エマージェンシーキーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エンジンスイッチがまわらない。	エンジンスイッチからキーを抜かずに0の位置で長時間放置していた。	▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差してください。 ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ エンジンを始動してください。
	バッテリーの電圧が低下している。	▶ 必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 **それでもエンジンスイッチがまわらないとき** ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（7-33）。 または ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

トラブルの原因と対応

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンを始動しない期間が約6週間以上におよぶとき。		▶ 対応について、指定サービス工場におたずねください。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。

ソフトトップ（カブリオレ）

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ソフトトップが開閉しない。	エンジンスイッチが**2**の位置になっていない。	▶ エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。
	トランクが閉じていない。	▶ トランクを閉じてください。
	ラゲッジカバーが正しくセットされていない。	▶ ラゲッジカバーを確実にセットしてください（**3-46**）。
	オートマティックロールバーが自動的に作動した。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。
	ソフトトップの開閉機構または制御システムが故障している。	▶ どうしてもソフトトップを閉じる必要がある場合は、ソフトトップを手動で閉じてください（**6-52**）。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
	ソフトトップの開閉操作が何度も繰り返されたため、安全のためにソフトトップの開閉機能が一時的に停止した。	▶ 約10分間待ってください。機能が復帰することがあります。 ▶ エンジンスイッチを**0**の位置にしてから、**2**の位置にするか、エンジンを始動してください。 ▶ 再度、ソフトトップスイッチを操作してください。 ▶ ソフトトップが開閉しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ラ

ワ

英字

“ESP® ”はダイムラー社の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2008年７月現在のものです。

対象モデル

クーペ

CLK 200 KOMPRESSOR AVANTGARDE
CLK 350 AVANTGARDE
CLK 63 AMG

カブリオレ

CLK 350 CABRIOLET
CLK 63 AMG CABRIOLET